

3年目の声

毎週の仮設住宅訪問からプライバシー保護を考慮して週末ボランティアでまとめたものです。
(担当はお伺いしたボランティア、自筆は仮設住宅の方が直接書かれたものです。)

2月1日

- ・前、住んでいた灘区に固執せず、「西区で世話になっているのだから・・・」と前向きな意見が聞かれました。しかし、行政への不満は日頃から感じており、「妥協してしまうのが日本人の悪い癖や」など、憤りの声が・・・。ご主人は初め遠巻きな様子でしたが、だんだんうちとけていろいろ話しをしてくれました。(66歳、2人暮らし、担当：木村(茂)、松本)
- ・せっかく仲良くなった人も引越してしまった。1日2回は体を動かすようにしているが・・・、脳梗塞で物覚えが悪くなった(歌が思い出せない)。娘さんに「前向きな考え方をしなさい」と言われる。わかってもふさがちになる。この間、カーテンをつけようとして椅子から転げ落ち、肋にひびが入った。年がたって体が制御できなくなり情けなくなる。(70歳、一人暮らし、担当：林、多谷、松井)
- ・この間、市の人が訪ねてきてくれた(市へ電話を入れたため)。結局自分が動いて役所に出向くしかない。只今、自分で新聞などを読んで勉強中(高齢者に対しての融資の件について)。奥さんは自力で家を再建しなければならないということで精神が張りつめている。気持ちが休まることがない。(75歳、2人暮らし、担当：多谷、林、松井)
- ・歩けば食欲あるが、動かないと食欲もない。しかし、方向がわからなくなってしまうため、そうは出歩けない。同じ仮設内に面倒を見る身内の方がいる。隣の部屋が空いているので越して来たいのだが許されない。市役所としては、きりがないとのこと。しかし、身内の方も体が丈夫ではい様子。それが心配である。(70歳、一人暮らし、担当：小野、林、小山)
- ・横浜の娘さんが来るように言ってくれるが、新幹線代がかかるし、孫に小遣いもやらなければいけないので行けない。
- *散歩の途中とのこと、声をかけると「一人で話す人がいない」と言われたので予定になかったが寄せてもらった。また、「是非、来て下さい」と言われた。(79歳、一人暮らし、担当：佐々木)
- ・一人住まいで夜が寂しい。震災1年目は長田区の妹のところへよく出かけたが、ここ一年はあまり出かけず、住宅に引っ込みがちとのこと。(68歳、一人暮らし、担当：西畑、小林、藤島)
- ・精神科へも行っている。カウンセリングも受けている。眠れない。イライラするが以前よりは良くなってきた。何とかしなければ・・・。この場所から出ていかねばならないのだからと毎日思っています。(74歳、2人暮らし、担当：橘、佐々木、前田)

2月8日

・市場で店を経営していたが、地震当日の火事で家も店も全焼。土地は区画整理に入っていて再建の予定はない。気力も残っていない。この土地の固定資産税は今でも払っている。(68歳、担当：清重(智)、山田、盛本)

・みんなで畑を借りて野菜を作っています。(近くの人が畑を貸してくれている。)(53歳、担当：清重(智)、山田、盛本)

・とても元気な方で、畑仕事を楽しみにしておられる。畑仕事って病気を、心を、そぎ落としてくれる。畑に悪い病気や気持ちをおっことして、野菜はそれを肥料にしていると思う。「あー畑仕事したら元気になれそう」と思える。そのくらいはりのあるおじいちゃんでした。(84歳、担当：西畑、加藤(純)、前田)

・避難所で地震とわからないお年寄りがいて、寒いからコタツとか、電気をつけろとか言っていた。皆が最後には、今戦争中と言ってなだめた。学校に移ることができてから鉄筋であること、先生やみんなと一緒に言うことで安心できた。(55歳、担当：吉野、山本、西、木村(茂))

・子どもが喘息、小児科のないところだが、かこの台の仮設なら入れると言われたが、病院まで1時間以上かかり、車もないのに通院できない。断ったら、それからずーっと仮設に入れなかった。市から誠意のある対応がなく、怒りの気持ち、やりきれなさがこみ上げていた。(25歳、担当：小池、内海、今井)

・思いがけぬ激震に突然の都市計画、区画整理の網をかぶせられ、身動きならぬまま2年待ちました。イライラは募る一方です。人が住んでこそ街があるのです。そこに神戸空港の建設、消費税5%と。生活再建の足かせである消費税の軽減を。復興の邪魔をする前にやることはいろいろあるはず。選挙の時、土下座した90歳の代議士の胸像を国会内に作らないとか資源の無駄使いをやめるなど出費を押しやる改革をするべきだ。また、国はボランティアをあてにしすぎている。国会議員も質が落ちて口ばかりで実行力の低下だけが目立つ。(61歳、直筆)

・「家賃なしでクーラーがあっていいねー」と言われたことがあるが、ここに住んで体験してほしい。そんなこと言えないと思う。被災地のことを、本当のことをもっと伝えてほしい。知ってほしい。政治家は信用できない。一人暮らしの人が多いから、話を聞いてくれるボランティアの人達を待っている人が多いと思う。(28歳、担当：長船、村田、小村)

・住宅金融公庫の融資を受けようと思ったが、家を建ててからでないと言われ金がおりにない。それまでの自己資金がなく断念。契約金等のつなぎ資金を融資してくれるところを探したが見つからなかった。(64歳、担当：川口、谷川、矢萩)

2月15日

・子どもが悪いことしたら、他の親でも止めた。今は学校の先生も知らぬ顔。上に立つ人の力がなくなったのか……。これでは誰も尊敬できないし……。信用もできない。ヘルパーさんが来てくれたり、家の者が来るから困らない。いろんなことを考え思うのは、年のせいと怪我から……。「余計にひがむ」と。(90歳、一人暮らし、担当：吉野、水戸、長船)

・県からの貸付100万円は受け取りに手間がかかって困る。保証人云々とかも……。もう少し基準を下げ、簡素化せよ。子どもがたまに訪れるが、あてにならない。家賃無料とは言え、電気代がかかる。13,000円程(エアコンを使ったりするため)で、以前の3倍!!。せっかく貯めていた貯金がどんどん減っている。(68歳、一人暮らし、担当：赤西、内海、阿部)

・1級身体障害者。毎日が病気で寝たり起きたりの日々。1年で5回入院し、手術を多くしている。ご主人は元気だが、夜勤がある。奥さんは、その時に自分の身体に異常があったらどうしようという不安がとてもある。公営住宅は今まで当たらず。(66歳、2人暮らし、担当：盛本、松下、谷口)

・去年の暮れに障害者手帳をもらう。歩かないとふくらはぎが堅くなり動かなくなるので、積極的に動くようにしている。しかし、バスのステップが高すぎて乗りにくいし、たまに地下鉄のエスカレーターが故障してたりする。もっと障害者の気持ちを考えてほしい。(75歳、一人暮らし、担当：盛本、松下、谷口)

・家は18坪。一部都市計画に入っている。残りの土地を市に買い上げてくれと言ったがだめだった。年言ってから、自分の家はもう持てない。市住希望。板宿にいい家があったので、借りに行ったら年寄りには貸せないと言われた。(80歳、2人暮らし、担当：石川、上田、山川)

労働意欲があっても仕事がなく、意欲も減退してしまう。シルバーサービスは十分な対応が望めない。ハローワーク求人情報(パート)を渡す。(62歳、一人暮らし、担当：武内、石田)

・「友達も来ると気を遣うので来てほしくない。行政ボランティアには期待していない。話を聞いてもらうと言っても、同じ思いをしていないとわからない」と言いながら長時間(2時間程)話をされた。やはり淋しいのだと思う。(69歳、一人暮らし、担当：尾崎、佐々木)

・「一人暮らしの(住宅の)当たりが悪い。結局はややこしいところへ入れられる」と怒り。(70歳、一人暮らし、担当：小波本、海江田、貝沼)

・土地の規制を外してほしい。規制の必要ない場所でも規制され、家を建てられないところがたくさんあると思う。住所変更もまだしていない。移したら帰れない気がする。(85歳、2人暮らし、担当：佐藤、羽田)

・これからも一人でいるつもり。息子さんの家へ時々遊びに行く。この場所は結構気に入っていて、この土地に住んでもいいと思っている。(77歳、一人暮らし、担当：佐藤、羽田)

震災は「戦争よりも恐かった」。予告なしだから。軍需工場に勤めていた頃より不安が多い。何よりその頃は若かったし……。戦争の時より人を粗末にしている。二度とこんなことがあってほしくない。(73歳、2人暮らし、担当：水戸、吉野、長船)

2月22日

・国が何もしてくれないことで半分あきらめている。枯れ葉と一緒に、どうにか生きていくだけだと。何一つ持ち出せなかったのと、これからのことが何もないのがとてもつらいようです。でもとても前向きで、日本はめっちゃくちゃで希望が持てないけど、これからが大事だから、与えられた命を大切にしたい。(75歳、2人暮らし、担当：白岩、木原)

・向かいの83(?)歳のお年寄りが一人なので心配。若い人は公営に当たるのに、なぜあのお年寄りには当たらないのか。(67歳、一人暮らし、担当：石川、松井)

・旅行が好きで、あちこち出かけるけど一人では泊めてくれないところが多くて困っている。京都にも何度も足を運んでいる。奥が深くて気に入っている。(60~70代、一人暮らし、担当：木原、白岩)

・日常の会話が、隣にまる聞こえ。声を落としてヒソヒソ話しているようにしていますが、感情のまま思うままのことを話す時は、まるまる聞こえています。何とか壁の面に防音できるものを取り付けたい。(53歳、一人暮らし、担当：丸笹、小林)

- ・前回の応募にも落ちました。一人暮らしは今度もないようですが、老人が一人でも、せめてこの仮設くらいの家には住みたいです。(85歳、一人暮らし、担当：清重(智)、寺野、林)
- ・今一番の悩みは、この先の住宅のことと、自分の体のことであり、足が悪いのでこの先足が立たなくなり、寝たきりになると娘に負担がかかることが一番の心配事。(77歳、2人暮らし、担当：奥地、十河)
- ・出てこられた時、憤りの表情でした。何かいろいろ不満を持たれているようでしたが、あまり話は聞けませんでした。市や県はここで死ねと言ってるようなもの。最後には「ありがとう」と言っていた。
- ・家は住めない状態なのに、役所の判断が一部損壊なので、一銭ももらえなかった。抗議してもだめだった。悔しい。納得がいかない。市長に対して、行政に対してすごく怒っている。とても気丈な方のようなのだが、夜になると落ち込んで、「なぜこんな目にあうのか……」と思ってしまうと涙を流しながら言われた。(74歳、一人暮らし、担当：木村、佐々木)
- ・今まで順調に当たってきたので、後1回運が来てほしい(公営住宅)。いつでもここを出れるよう、荷物をまとめて待っている。母親もいつ何があるかわからないので、心配(今のところ元気だが)。自分も膝に水がたまって仕事行くのもたいへん。(87歳、65歳、2人暮らし、担当：石川、松井)
- ・やっと新築した家が全焼。隣の人の怒鳴り声(火事が近づいているのに、自分はあまりのことに座り込んで呆然としていた)で、頭がなお混乱してしまった。その時以来、自律神経をやられてしまった。時々病気になる。度忘れすることがある。土地は区画整理の対象になっていて、なかなか決まらないため、嫁が待ちきれずに売却してしまった。始末に始末して建て、やっと支払いも終わったところだった。被災の程度により対応しない行政は不平等だ。(70歳、2人暮らし、担当：山田、平野、藤田)
- ・消費税のアップぐらいは我慢したい。当然とは思った。保険もたいへんだし、若い人のことを思うと、年寄りが我慢するのも当たり前だ。無駄に医者にかかる年寄りの癖も何とかしないとね。しかし税の無駄遣いは一番いかん。ここからやっつけないとどうにもならない。(74歳、一人暮らし、担当：吉野、水戸、長船)
- ・主人がいたらとつくに家を建てて帰る。いないから土地も更地になったまま使わない。長田で生まれ育った。けどもう帰りたくない。空気が悪いし、いい思い出がないから。(63歳、一人暮らし、担当：石原、木村(茂)、加藤(純))
- ・全財産を焼失した地域住民を安住させる方策を講ぜず、なぜ役所の得手勝手な政策を押し進めるのか不可解です。神戸市は「空港だ」「震災記念館だ」等と自分の名を売ることのみ考え、なぜ住民の安住した生活を第一に考えないのか。現在政策に明るい希望がない。人口は高齢化するばかり。若い男女が真面目な結婚をし、健康な子どもをたくさん育てる希望を持つよう、政治家は考えてほしい。住民がいてこそ国であって、もっと一般善良な住民・国民を大切に考えてほしい。欲得に走った政治家・官僚のための国ではない。(77歳、一人暮らし、自筆)
- ・一度起きて再び布団に入った時、ドスンと地震が。3日後、病院のベッドの上で気がついた。左肩を柱が直撃、大腿部が骨盤から突き出ていた。もう死んだと思われていた。3日後へりで大阪の病院へ移送。足を伸ばすためにオモリをつけていたが、それを看護婦に向うずねに落とされ骨にひびが入る。地震の混乱のためか、その他にもエライ目にあった。現在も治療リハビリ中で、働けないのが不安。元気な時、十分税金を払った。市長に言いたい。わしらも仕事が

したい。道路や空港、地下鉄を作る前にやるべきことがある。(68歳、一人暮らし、担当:大戸、星野、小林)

3月1日

・今年4月、子どもが小学校入学、母子家庭。児童館では5時迄しか子どもを預かってもらえず、身内もいない。他人にも頼みづらい。仕事もしたいが、仕事をすれば子どもをみれない。仕事をしなければ収入がない。どうしたらいいのかわからない。(29歳、担当:内海、木村(茂)、木村(俊)、南口)

・住居は半壊判定だったが、修理費見積りでは750万。そんなお金、目処ありません。だめになった家は、3年半前に買ったものだった。被災所暮らしは約7ヶ月、つらかった。仮設を「ブタ小屋」と呼ぶような人はどんな立派なところに住んでいた人か?私にはありがたい。(73歳、担当:白岩、亀井)

・糖尿病のため、目が悪い。左目は見えない。右目も0.3位。左目が悪いので、外を歩く時も気を遣う。道路も端の方を歩く。人に会ってもわからないことが多い。(52歳、担当:野田、矢萩)

・地震後、半年入院。その後仮設でほぼ寝たきりの生活をしてきた。息子さん2人が看病してくれ、今年に入ってようやく動けるようになった。息子さん2人と同居したいが、2人とも収入があるので無理(公営)。仕方がないと思うが、何か割り切れないものを感じる。(53歳、担当:野田、矢萩)

・20坪が9坪しか残らない。都市計画のため。戻りたくても戻れない。避難した場所は、被害も小さいため、地元住民の理解が感じられず、居心地が悪かった。息子さんは中学校へその体育館から通学していたが、周りにそのような生徒がいなく、通いづらかった。息子が高校を選ぶ時、校区が違ってくるので早く帰りたいが、資金の目処がたっていない。火災保険をかけていたが、「地震で火事になったんだから!!」って見舞金しかおりなかった。今後の目処がつかなく、考えるのも嫌だと。(?歳、担当:下山、加藤)

・震災後、肺気腫、気管支炎で入退院の繰り返し、公害病認定。坂を登るのも苦しい。まっすぐ歩くのが精一杯。身内はいるけど、だめ。完全に孤独。ガスを使えないのは火を見ると火事を思い出して恐ろしいから。だからすべて電気を使う。絶対結婚した方がいい。一人はあかん。60歳になってからでは遅い。近くに何でも話せる人なんておらんし・・・。本当の友達は飲み友達ではあかん。飲めなくなったら、離れていく。(59歳、担当:河野、藤田、長船)

・野良猫が多く、今も知らないところの猫が来る。自分の食べるものがないのに、猫に与えて困っている。かわいそうに思うので。(60歳、担当:花島、前田、小波本)

・仕事は勤め先が全壊、倒産した結果無職になった。新しい生活を始めてから仕事も考えたいと思っているが、腰が悪いのでまだ不安だ。(57歳、担当:武内、谷口、西畑(稔))

・日雇いで働いているので、毎日お金が入ってこないし、交通費さえもなくどこにも行けない。食べていくのが精一杯(仕事は月10日くらい。今年に入って2回だけ)。左耳が震災以降聞こえない。今年に入って、病院へは行ってない。行けない。国民年金の支払いをコンビニでできるように。銀行では夜支払いに行けないので滞納してしまう。(59歳、担当:川口、耕、久保)

・ご主人自身が事業をやっていた関係もあって、国民年金の掛年数が足りなく、年金がもらえ

ない（事業をやっていた頃、先のことに自信をもっていたのが裏目になった）。(72歳、担当：木村（茂）、川端)

・何を言ってもしやあないやんかと言いつつ、何とかなりたいと焦りもある。イライラしながら笑っているという感じが痛々しかった。(50歳、担当：小坂、藤田、杉谷)

・気の合う仲間同士、次移る恒久住宅を「グループで申し込もう」という話しが出ている。自分としては元いたところに戻りたいが、希望の住宅がない以上、やはりせつかく知り合った仲間と一緒にいたいという思いもある。次へ移っても最初からまた「一年生」（一人ぼっち）の生活は辛い。(80歳、担当：長船、河野、藤田)

・ストレスでご主人が一時方向が判らなくなり行方不明になったことがある。今はパートで元気に働いている。人間関係がうまくできているので住宅は変わりたくない。(61歳、担当：西畑（み）、武内、谷口)

3月8日

・週4回パートに行っているが、交通費も寸志もなし。もっと条件のいい職場を新聞で探すが見つからぬ。洗いの仕事なら若い人に負けない自信があるが、年齢で引っかかって採用がない。(67歳、担当：赤西、高村、水戸)

・身体障害者になってから体調がすぐれず、2～3年くらい生活保護を受けていたが、一方的に市の方から打ち切られた。どうやら誰かの口利きがそのきっかけになったようで、市から呼ばれた時、他に同じような人がいないか聞きたいと言われた。(57歳、担当：市川、寺野、盛本)

・この先真っ暗。夜、気持ちが沈んで考え込んで暗いところへ引きずられる。そのとき「地震の時に死んだらよかった」と感じる。仕事帰り、駅から歩く時みじめな感じがして一人で「運命かなあ」とブツブツ言いながら帰っている。現在気持ちを奮い立たせるためにも、無理をして働いている。「心から病に入っていく負けてしまう」気がする。だから何より大事な「希望と活気」を与えてほしい。(66歳、担当：内海、山下、長船)

・震災直後は物質的に貧しかったが、今は精神的にダメージがまだ残っている。私たちは社会的弱者の立場にあるが、その弱者も一見、強者の立場にある人よりも豊かな生活を送っていることもある。(74歳、担当：南口、阿部)

・スーパーが近くにできる計画があるそうだが、近隣の住宅街は反対しているそうです。もっと仮設の人の立場にたって物事を考えてほしい。(67歳、担当：近藤、水野、松井)

・神戸市はいいところだけテレビや新聞で流しているから、「6千円でマンションに入れて幸せだねえー」といかにも市が潤っているような印象を与えている。が、実際はそうではない。仮設から仮設の移転などがあり、これからますます仮設問題は深刻化するだろう。また市営住宅だって100世帯応募したところで3・4世帯しか当たらないと言うのが現状なのに。(仮設の皆さんより、担当：福岡、津田)

・市はどういう基準で住宅の当たり外れを決めているのだろうか？友人が拾った応募用紙で申し込んだら当たったとのこと。自分も含めてたくさんのお年寄り、体の悪い人が仮設に残っている。何のための病名を書く欄かわからない（都心があっているそう）。市役所は目をつぶって書類の束から引いているのではないか。(64歳、担当：坂本、若菜)

・わずかな年金にたくさん払う医療費。今度の医療費アップはつらいとのこと。しかし生活保護を受けたくない。ご本人に生活保護を受けることは当然の権利であること、つつましい生

活をして我慢することはかえって良くない。巷ではそんな実情を考えずに復興したと言っていることなどお話しした。しかし、本人の意思は固そうだった。(79歳、担当：木村(茂)、喜多山)

3月15日

・家がなくて希望も何もなく、淋しい毎日を仮設にて送っているとのこと。以前に訪ねた時は明るく話されていたが、今は夜眠れず3時頃に目が覚め、今後のことを考えると涙があふれるとのこと。震災から2年以上経っているが、ますます孤独感が募っている。(73歳、担当：祝、加納、佐藤(朱))

・ご主人は私たちのことを大歓迎して、左手不随の身で一生懸命に3人の名前を丁寧に記入してくれました。隣の人との付き合いが少ないので、ボランティアがありがたい。暖かくなったら総合運動公園にご主人を連れ出す予定。(65歳、担当：赤西、赤松、岡安)

・生きるために不必要なものはすべて捨てたため気が楽になった。また震災がきっかけで妹と2人暮らしができ、心強い。「今は小さな幸せを探しています。」と常に冷静に先のことを見ようとしている姿勢や笑顔で前向きな考え方を語った彼女の強さたくましが印象的だった。(58歳、担当：南口、稲玉、貝沼)

・学園都市は雰囲気暗く便利が悪い。私は学園都市に住んでいるのですが、たしかに長田、灘よりは不便かもしれませんが、この土地すべてを否定するのではなく、よい面や便利な施設なども利用し、元気であるうちは前向きな考え方を持つてほしいと思った。(60歳、担当：高坂、望月、多谷)

・退職金を使って喫茶店を新築して2年目に震災にあい、全焼。ご主人は心筋梗塞と喘息があり、職探ししても就職が難しい。難しいことを条件にしないでお金を貸してくれば立ち直るきっかけになるし、返済もできる。(58歳、担当：武内、広井、堀内)

・震災で家は全焼。会社は倒産で職を失う。現在はアルバイト中。就職は厳しい。“仮設住民”は敬遠される。(44歳、担当：赤西、赤松、岡安)

・心臓が悪く、脳梗塞。現在年金生活。ここでの一人ぼっちの暮らしはつらい。妹に95歳の母を預けている。一緒に住んであげたいが、この仮設では無理だとあきらめた。妹も自分の生活があるので、しんどらしく、母につらくあたっているらしい。時々母を仮設に連れてくるが、そのとき母が愚痴をこぼすのがつらい。「もうちょっとしんぼうせえよ。公営住宅に当たったら、一緒に暮らそうな」そう言った顔が本当に忘れられない。(65歳、担当：寺野、岡本)

・部屋に入ると昼間だと言うのにカーテンを閉めきって電気もつけず、外から見れば恐らく留守宅だと勘違いされるような状態で、テレビを見ていた。「仮設の人とは、ほとんど顔を会わせない。ずっと一人でやってきた。」一言一言が心の扉の重さを感じさせた。(65歳、担当：寺野、岡本)

・母親が他の仮設に住んでいて連絡が取れないので行ってみた。ノックしても応答がないので戸を破って入ったら、倒れていて命が危ないところだった。119しようと思っても近くに電話がなく近所の建物から救急車を頼んだ。電話のない家も多いので公衆電話をつけてほしい。(28歳、担当：内海、吉田、矢萩)

・震災で腰を痛めた。薬の副作用か気分が悪くなったり、顔がむくんだりする。左官をやっていたが、腰のせいで今はできないでいる。そのことが心に引っかかっているらしくて、神経を

病むようになった。(47歳、担当：宮崎、木村(俊)、小林(明))

・国のため、兵隊として3年間北支戦争にて命を捧げ、終戦の困難な青春時代。貯金もほとんどありません。妻も亡く、失業しました。後余命少し、喜ぶことを1日も早くお願いします。命を捧げた我々に政治家も命を投げ出して助けてやって下さい。(75歳、担当：若菜)

・息子さんの家も全壊、職も失い、現在連絡が取れない。小学校3年生のお子さんはご主人と板宿に住んでいる。時折仮設へ来る。息子さんの奥様と長女6歳は徳島の実家へ帰り、離婚届を送ってきている。(59歳、担当：小林(好)、瀬戸)

3月22日

(記録作成せず)

3月29日

・避難所の小学校で転んで、左足を痛めて立てない。ヘルパーが週2回来てくれ、車椅子を押してもらい病院に通っている。ヘルパーに毎日来てほしいが無理。長田にいた頃のような近所付き合いがない。お酒を飲みにくる友達はいるが……。人間関係の希薄さを感じる。「死んでもいい」と言われ、何も言えなかった。「生きてても楽しくない」とも。山登りが好きだが足が悪く、その楽しみもできない。郷里の話しをしている時の懐かしそうな顔が印象的だった。

(73歳、担当：赤松、小崎、中村)

・耳が不自由で、他にも調子が悪い部分もあり、仕事にも支障がある。貯えもない様子。仕事も見つからず、身体を治す必要からも生活保護を受けることを考えるよう、話しをしたが受けたくないとのこと。これからの生活は4月に入って仕事があれば何とかなると。また行政の弱者への対応に大きく不満であると話された。(59歳、担当：西畑(夫婦)、榊、北岡)

・毎日病院へ通院しているが、前と身体の状態は変化なし。通院しても先生に適当に薬を出されるだけで、自分に合うかどうか判らない。(56歳、担当：西畑(夫婦)、榊、北岡)

・ボランティアの方が一生懸命回ってくれて気の毒だが、ある程度放っておいた方が皆自立するんじゃないのか。皆それなりにやっているから。いつまでも震災とは言ってられないし、いつまでもボランティアに甘えたらいけないとのご意見。(58歳、担当：桜田、盛本、寺野)

・政治が悪いことをしている。そんなことするんだったら税金を取るな。今まで払っている分を返してほしい。神戸に空港を作る計画をしているけど、空港を作るお金があるんだったら、寄付してほしい。空港をたくさん作ってどうする？旅行に行くお金もないのに。(47歳、担当：内海、中川、加藤(正))

・部屋に入ったとたん、せきを切ってお話しされた。仮設内の人間関係の難しさにどれだけ苦しんで過ごされたかをととても感じ、「せっかく地震で助かったのに、こんなところで苦しむとは……」言葉をかえすこともできず、ただ聞くばかりでした。(？歳、担当：木村(茂)、清重(智)、片川)

4月5日

・震災当時、こけて足を悪くした。バスのステップが高くて乗れない。(73歳、夫婦2人暮らし：瀬戸、朽木、土持)

・「一時貸付」の基準があまりにも厳しすぎる。「保証人」の基準も厳しすぎる。(本当に借り

たい人が借りれない) 私たちは何も住宅再建とか長期的な貸付を求めているのではない! 目先の生活のための貸付を求めているのだ。(79歳、息子2人の3人暮らし: 赤西、山中(博、舞))

・ボランティアは最近来てない。(昨秋以来) 来てもらえると元気が出る。今でも“待っていると、人”はあると思う。引越しの時に手伝って頂ける方が必要(個人的に)(74歳、夫婦2人暮らし: 赤西、山中(博、舞))

・避難所では人間の醜い部分がいっぱい見えて、悲しくて涙が止まらなかった。震災後母の具合が悪くなり、介護のため勤めていた会社を辞めた。介護をしながら住宅が当るのを心待ちにしていたのに、先月母が亡くなりとてもショック。(42歳息子12歳と2人: 天木、平井、盛本)

・援助金を受けるよりも、物価が下がる方が助けになる。結局援助金のしわ寄せはどこか出るから。(40歳、子ども2人: 内藤、佐藤)

・息子さんが出てきたが、生気のない表情でなかなか心を開いて下さらず精神的にまいっている様子で、ケアが必要と思う。父親が帰宅。86歳とは思えないぐらいお元気。(50歳父親と2人暮らし: 田中、保坂)

・震災で家も全壊し、何もかもなくし、また職業の方もなくし、わずかな貯金も使いはいたし現在では身内に借金までし生活をしています。妻も病弱で仕事も行けず、私の年金も少し、生活がたちゆかなくて困っております。皆さんと一緒に力を合わせて国や県・市町村が早く被災者の皆を救って下さるよう切にお願いします。(65歳、自筆、夫婦2人、担当: 田中、保坂)

・犬を飼っていたが亡くなり、話す相手がなく寂しい。(71歳、一人暮らし、担当: 青山、羽田)

・奥さんは失明されている。避難所では昼間トイレへ一人で行けないため、ご主人が帰られる夜まで何も飲み食いしなかった。また配給の際も見えないため、結果残りものになり、下着などに困った。住宅はご主人の会社の近くを希望したが、目が悪くても収入が少しオーバーしているのでまず無理だろうと言われた。(57歳夫婦2人、担当: 石田、寺野)

・仕事を探してもこちらからはなかなか無く、現在収入ゼロ。預金を少しづつ引き出しながら生活をしています。年金も何もないし。6月に引越したらお皿洗いでも何でも仕事を探したいと思っています。待ち遠しいです。(64歳?人暮らし、自筆)

・現在無職。年金もかけていた期間が短く、支給されない。今まで貯金で生活してきた。生活保護を希望したが、貯金額が50万円以下にならないと申請できないと言われた。もう少ししたら申し込むつもりだと。(69歳、一人暮らし、担当: 盛本、平井、天木)

・半月くらい前から地震の夢を見るようになった。今迄は見なかったのに。年金生活月4万円。今貯金のとりくづしでしのいでいる。子どもたちに言われ、年数万円の簡易保険を払っている。苦しい。生活保護を受けたいが土地を所有しているために現状では無理。(72歳一人暮らし、担当: 瀬戸、朽木、土持)

・1回通院するのに、6000円前後必要になるので月に1回か2回ほどしか通院できない。現在は通院をやめている。医療費の負担軽減を。(62歳、自筆)

・政治家の先生方、マスコミの方々も三宮、神戸港、高速道路などのメーンのところだけを見て、復興したなんて言っているが、ちょっと一步裏通り入れば、更地にすらぼうぼうの箇所があらこちらにある現状をどうとらえていますか? この際とばかりに実行に移した区画整理のために家も建てられず。財力のある人はいいが、多くの人は高齢者で、資金の点で建てられな

い人も多くいるのが現状です。(65歳、自筆、夫婦2人、担当：青山、羽田)

・若い頃、頭を強打。胸を切除する大手術を行い、2ヶ月半意識不明の重体になる。障害者の認定を受けるのはプライドが許さなかったが、公営住宅の当選に有利だと聞き、最近6級の認定を受ける。歩き方動作などに危なっかしく見える。仏教に救いを求めているから精神的に問題はないというが、人のぬくもりを求めているのを感じる。ただシャイなのでその気持ちを表さないでいるようだ。別れ際の玄関での握手、お互いにジーンときて心が通じたって感じです。これからも個人的に訪ねようと思います。(47歳、一人暮らし、担当：多谷、山本、北岡)

4月12日

・好きできた人ではないのに、西区役所でどこから来た？灘から・・・では灘区役所へ行ってくれと手荒い言葉と扱いを受けた。話しを聞き、文に表せない差別的な発言を仮設に住んでいる人に行っている実態は本当にひどいと思った。(71歳、一人暮らし、担当：清重(直)、山本、本村(茂))

・震災前に食道の手術を受け、それが原因で身体が常に痛い。家ではほとんど寝ている。現在世話してくれる人達がいるのでいくぶん心強いが、その方々が転居した時にはどうなるのか先行が不安なところがある。(70代、一人暮らし、担当：瀧口、盛本)

・震災時、近所で多くの人々が亡くなったのでそのことが心に残って離れない。(？歳、2人暮らし、担当：北村、石塚、佐藤)

・何にしても給付が65歳以上ですべての対象から外される。一人暮らしの女性ともなれば、収入も望めず遺族年金だけでは苦しい。せめて遺族年金で暮らしている人は、60歳から適用してほしい。(64歳、一人暮らし、担当：井出上、山本、寺野)

・心臓が悪い。手術を受けなさいと医者から言われてるが、医療費がかかるので受けられない。(60万+40万)かかる。時々発作が起きるが、毎日薬を飲んでる。何とか今のところは生きていけそうである。(65歳、？人、担当：小波本、赤松(由))

・土木関係の職人なので将来心配。退職金・厚生年金なし。高齢者が何でも優先されるけど、若くても病気持ちなので不安。50代が一番損。何の助けも優遇措置もない。近所の人もみんなイライラしている感じ。仲のいい人が引越していくと寂しいし、不安になる。(58歳、2人暮らし、担当：赤西、亘)

・巡回者(ボランティア的な役人、警官等)たまに来るが、声をかけてすぐ帰るだけ。(70歳、2人暮らし、担当：赤西、亘)

・市営住宅の抽選は、テレビで放映して厳正に行っているとのことを証明していく必要があるのではないかと。30分でも1時間でもいいのではないかと。字が汚い、きれいで選別されるのではないかと。納得できない。仮設の人達も疑問を抱いている。平成10年で出ていってくれと言われても浮浪者にならざるを得ない。(60歳、一人暮らし、担当：長船、青山)

・奥さんは再訪問に来てくれたととても喜んでいて。夫婦で話しをしていても暗い雰囲気になってしまいがちでこうして来て話しをするだけで気が紛れましたとおっしゃっていました。(65歳、2人暮らし、担当：清重(智)、山田)

・「困ってる」って言いたくないし、絶対言わない。くさっても言わない。人にメークかけたくないし、だからそのかわり自分の好きなようにする。今の世界の若者はあんまり起こらなくなった。橋本総理とかあんな人にだまされたらアカン。地方自治体が無駄使いするからピン

ポーになる人が多くなる。(76歳、一人暮らし、担当：加藤（純）、南口、矢萩)

4月19日

・息子さんが震災前に事故にあい、身体障害者1級となってしまった。見舞いに行っても彼を見るだけで血圧が上がり倒れそうになる。一緒に住めそうもないので一人でここに住んでる。だんな様も15年前に亡くし、一人暮らしは慣れていると。(66歳、一人暮らし、担当：丸笹、津田)

・生活保護は自分の土地が売れる見込みがあるので受けられない。また子どもたちが自分の権利を主張するので自分の意志で売却できない。一人暮らしで寂しい。周囲にすごく気を使って住んでるような感じで、精神的にまいっているようです。(64歳、一人暮らし、担当：小林(好)、矢萩)

・95歳の実母を65歳の娘が介護。デイサービスも利用したが、かえって体調が悪くしたので辞めた。保健婦さんは2ヶ月に1度来る。ストレスがピークに達している様子。自分がダウンしたらどうしようという不安を持っている。現在の福祉では共倒れになるしかない。(95歳65歳の2人暮らし、担当：小林(好)、矢萩)

・母親の遺伝で体中にイボができる。病気によって離婚をせざるを得なかったし、病気によって他人からいろいろつらい目にあわされてきたのだと思う。それで神経がまいり頭痛がひどいのだと思う。近所の方がよく世話してくれる。ありがたい。住宅は申し込んでおらず、最後の最後までここにいますと。(66歳、一人暮らし、担当：中村、山本、清重(直))

・政治家・役所の一部の人が悪いことばかりしていて、開いた口がふさがりません。また今の世の中は恐いくらいに変わってしまいました。子どもたちを一人で外へ出せないのですから。雨の降る夜は特にわびしく、泣きます。年とって体が弱くなったせいでしょうか？ 21世紀を見てから死にたい。嫌、75歳まで長生きしたのだからと思ったり、これの繰り返しです。(75歳、一人暮らし、担当：加藤、阪井、片山)

・菅原市場で商売してたが、帰りたくでも区画整理に入っていて無理だろう。商売もあきらめた。(70歳、一人暮らし、担当：赤西、奥塚(明)、朋子)

・夫は去年亡くなった。(注：去年訪問時69歳、あしなが育英会に寄付したいと言っていた) 近所の方が親切で他のところに住むと親しい人と離れるのが寂しい。(65歳、一人暮らし、担当：小波本、林、西ノ上)

・何年も税金を取られているのだから、行政にそれなりのことをしてもらうのが当たり前ではないか。被災者と言うのはやめてくれ。我々は行政から見捨てられた民である。(65歳、2人暮らし、担当：小波本、林、西ノ上)

・これまでも訪問の中でも最高に明るい雰囲気味わえた。前向きな姿勢に感銘を受け、また周りの人に対する思いやり、感謝の気持ちの大切さに改めて気づかされました。その中で積極的・精力的に仮設住人のために活躍されてる方の話しを伺い、ただただ関心、感動するばかりでした。(71歳、担当：木村(茂)、岡)

・心臓が悪く、入院を繰り返ししている。労災病院に通っていたが救急車がここからだと行ってくれない。また重度障害者2級でずっと労災病院に通っていたから、その近くの仮設に移りたいと区や市にも要求したが、だめだった。「老人や障害者を守ります」と選挙運動してるくせに本当にあきれてします。公営は家族用の住居がほとんど。市は仮設での孤独死を待ってい

るようだ。(68歳、一人暮らし、担当：寺野、坊寺、岡本)

・西神ニュータウンができた時ここへ道路を作りに来た。「こんなところに誰が住むんやろう？」と思っていたのに自分が住んでいるなんて……。戦争中22日間も太平洋の海の上で飲まず食わずで過ごしたが「あの頃は国のために」という目標があったから何も恐くなかった。今の方がずっと心細くて怖い。(68歳、一人暮らし、担当：寺野、坊寺、岡本)

・要望①県警音楽隊、機会があれば是非聴かせていただきたいです。ずっと以前にこられた折りは留守にしている残念に思います。②衣類(外出着になるもの)のバザーを少し高くても結構ですので。また食器なども有料でお願いできたらと思います。③仮設住宅を出ていきましたも淋しいので電話にてボランティアの方が週にたとえ10分～15分でもお声を聞かせて頂けたら、心のオアシスになることと思います。(69歳、一人暮らし、担当：中村、山本、清重(直))

・一人暮らしで身寄りもなく、とてもさみしい思いをしているのに頑張っているのを感じた。時折話しの合間に涙を浮かべていたがボランティアが来たことを喜んでくれた。別れ際も何度も頭を下げていられた。(84歳、一人暮らし、担当：木村(俊)、清重(智))

4月26日

(記録作成せず)

5月3日

・詩吟・お花・お茶を教えていたが、地震で道具が全部だめになった。しかし詩吟だけは何もいらないので、今も時々やるようにしている。(74歳、担当：西ノ上・白岩)

・酒を飲みながら食事をされていた。非常に感情が高ぶっており、大声で時には涙ながら一方的にしゃべられた。国は今年厚生年金の見直しをしなかった。また我々にも何もしてくれないのに無駄な金だけは使う。身寄りは一人もいない。だが、血のつながりのない人から援助を受けて引越しも可能となった。今後収入があれば(公的支援etc)まずこの人に返したい。(60代後半、担当：木村(茂))

・私は昨年から体調がすぐれず、仕事をしていませんので、収入がありません。1円の金もありません。食費等は2ヶ月に1回実家より送ってもらっています。食事は、現在2日に1回です。今は体の調子も良くなっていますが、お金がないので働きに行くこともできません(45歳、担当：矢野・牧野・木村(茂))

・神戸選出の議員は、何もしてくれない。何らかの金銭面の支援を単に年齢の基準で分けないでほしい。(70歳以上でも元気な人・50代でも不自由な人がいる)。公営住宅の建設はあてにならない。中央は、被災地を忘れてる。小さな仮設・離れた仮設が置き去りにされている。先だつ資金がないから、困っているのに貸してくれと頼んでも必ず破棄になる。(64歳、担当：赤西・小山・熊代)

・住宅に当たっても、大型犬が飼えるか気になる。つらい仮設生活をともに耐えてきたから愛着が深い。捨てるなんてことは絶対にできない。(？歳、担当：多谷・井手上・石田)

・民間の賃貸住宅を何軒かまわってみたが、年が言ってるということで貸してもらえない。結局、復興住宅の当選を待つしかない。しかし、申し込んでも当たらない。4度も外れた。これからもこの畳からナメクジがはい上がってくる仮の住まいで根気よく当選を待つ。つれ合いがいるということで、お互いに救われている。(88歳、担当：多谷・井手上・石田)

・提案：医療クリニックでは、この2年間に大勢の人の病状を細かく把握し、改善してきている人も多かった。また医師と患者の信頼関係もできた。しかし患者さんが引越せば、元のモクアミ。ボランティアは、そういう引越して、しまったと人と次の優良病院を一緒に探したり、西神第1までカーボランティアするなどのフォローができるんじゃないかと。(自治会役員、担当：多谷、井手上、石田)

・心が重い。昔、空襲で夫をとられ、地震で家が倒れて、私は悲しいわ。人に言うに言われん。夫は直撃で・・・その時子どもが5人おって、つらかった。上見りゃきりないし、下見てもきりなし、つらい目に遭うとる。その上地震やもうこんなこと・・・涙を拭きながら足の調子の悪い・何もたれへん、痛い人や、足悪いから食べることもあまりでへん。娘や孫・近所の人の助けで、どうにかなってる。(87歳、担当：上原、長船、土佐貫)

・勤めに出るより、交通費が高くなる。うかつに仕事を決められない。パートの口もない。一日中家にいる。人里は慣れてこんなところにおったらおかしくなりそう。(60代、担当：上原、土佐貫、長船)

・何もかもバラバラになってしまった。82歳にして病気もないし、病院にも行ってない。背中もピンとしている。だけど長田へ帰りたいたいよ。子どももないし、ここにいてぜいたくは言ないが、家は決まらないし、みんなぼちぼち出ていくから寂しい。(82歳、担当：加藤、増田、山下)

・自分もボランティアをしていた。ボランティアは「心」。心のないボランティアはすぐわかる。専従ボランティアはマンネリ化し、好き嫌いの感情もどうしても出て来て、公平さがなくなる。いつも同じ服を着るようにした。少しでも変えると何か言われるので、自分の身にしみ、こちらが見るに忍びなくなり、今はボランティアをしていない。(50代、担当：武内、花島、亀中、丸笹)

・仮設に移ってから調子が狂い、ストレスがたまった。近所と話しもできず、落ち着けず・・・気がついたら肝臓が化膿していた。(70代、担当：武内、花島、亀井、丸笹)

今の日本がだめなのは、教科書で教わったことをする人が日本を動かしているからだ。毎日毎日、たとえ1日でも教科書に書かれていることしか起こらなかった日が今迄あったか？青信号だから渡っても安全、とだけ考えている人は、いつか事故に遭うもんだ。まさに、この震災に対する国への警鐘です。(70代、担当：小林(好)、寺野)

5月10日

[留守訪問]

・7年前、心臓病で手術を受けた。今も血管が3ヶ所詰まっていて発作が起こることがある。そのためニトロをいつももち歩いている。時々、ケミカルシューズ製造の仕事を手伝いながら、年金暮らしをしている。きつい心臓病なのに、障害認定は受けていないとのこと。震災の時、仕事で岡山にいたので、飛んで帰ってきたが、83歳の母は頭がつぶれ、義理の弟も家の下敷きになり、すでに亡くなっていた。しかし「わしよりもっとつらい経験した人もおる。声がするのに助け出せなかった人を思うと・・・」と涙ぐんでいらした。(64歳、担当：盛木、山本、坂本(佳))

・近隣の方は、働きに出ている人が多く、話し相手もない。寂しくて沈んでしまう。同居の孫は20歳の男の子で話しもあまりしないし、隣近所の顔さえ良く解らない。2年間で役所の人

が来たのは1回のみ。草刈り一つ来てくれない状態である。近くの知り合いもとうの昔に公営に引越してしまったし・・・。(70代、担当：林、加藤、伊藤、長船、浦口、清重、本田(仁)、水戸)

・神戸市役所への窓口になるボランティアが必要と思う。またボランティアは時々来るが、主旨のわからない団体や実態の解らない人も多い。(38歳、担当：赤西、小波本、藤田)

・仕事の面接には行くが、体が悪いということで断られてしまう。(59歳、担当：藤原・阿部)

・2種5級の障害者(足が不自由)。震災前はケミカルシューズの職人だったが、工場がつぶれ、その後大工をしていた。5月2日迄約2ヶ月糖尿病で入院していたが、会社は自動的にクビになった。入院費は、友人に50万円借りたが、通院する金も薬代もない。3食食パンを食べている息子に、これ以上迷惑をかけたくないので、生活保護の申請に行ったが、らちがあかなかった。仕事に行けるくらい目が見える様になるまで、1年かかると医者に言われた。夜になると不安。このまま目が見えなくなるのではと・・・。(57歳、担当：平井、野口、小林(弘))

・復興は高齢者優先といいがなら、仮設に残っているのは年寄りばかり。この裏の棟の91歳の人もまだ住宅が当たってない。また風の強い日は住宅がギシギシ鳴って男でも気味が悪かった。気の弱い人は住んでいられない。(69歳、担当：野中、小林(弘))

・ここは空気が良くて、一番端っこなので、バス停も近くとても便利。若い人も多くて楽しかったと娘さんが話してくれました。(50代、20代、担当：花島、宮久保、岡、木原)

・交通事故のため、障害2級の手帳を持っている。後頭部から脊髄を傷めてる。週に1回、三ノ宮方面へ通院しているが、杖・車椅子・人手がいるためたいへんである。それも行くのに1時間以上かかる。(？歳、担当：小野、中沢)

・ご主人は、糖尿病で入院。1ヶ月ぐらいの予定であるが、医療費がかさむのが悩み。(65歳、担当：阿部、藤原、矢萩)

・仮設入居後は、仕事をしてない。かつて三菱の仕事をしていたが、年のせいかどこも雇ってくれない。家も当たらないし・・・。家賃もいらんことだし、いつまでおつてもええわ！一人でいると退屈だ。ふれあいセンターはなじめない。たまに駅の西区民センターに行く。(72歳、担当：赤西、藤田)

5月17日

[留守訪問]

・以前店3軒とマンション8室の家賃が入っていたが、全壊なので今はその家賃がなくなった。土地は整地されているが、まだ建てる目処が立たない。そのうち息子が建ててくれるかも・・・。年金生活ではあるが、以前のような豊かな生活でなければ、貯金をおろしながら何とかやっつけていける。(73歳、担当：藤原、井手上、佐々木)

・生活保護の件は、土地の名義を子どもに移せば受けられるけれど、それが不可能な程難しい。(家族構成が少し複雑なので)。でもそれを乗り越えなければ、今のままの年金25000円で暮らさなければならぬ。(77歳、担当：武内、小林(好))

・生活保護をもらいたいような、もらいたくないような・・・。長男の奥さんが生活保護は受けるのを反対している。(85歳、担当：林、砂田)

・1棟10軒あったうち、残っているのがうちを含めて3軒だけになってしまった。寂しい～～。出ていく人は周囲に気を使ってか黙って出ていく。気がつけば、空き家になっている。その結

果、ネズミがやたら増えた。うちのネズミとり器によくかかっている。(73歳、担当：赤西、杉本、長船)

5月24日

・ご主人は、昨年45歳で亡くなった(白血病)。震災とご主人が亡くなられたばかりということで、今の生活や将来のことを考えると不安になる。また仮設住宅の中では、年齢的なギャップがあってお付き合いがしにくい。(話しが合わない)。娘さんたちとは、友達のような感じで話しができる人でしたが。(娘さん高校生と中学生)(39歳、担当：盛本、内海(貫)、白岩)

・公営住宅の抽選の仕方が納得いかない。特にまったく収入のない家を取り残されていっているのが不満。また一方通行な市の態度が気に入らない。もうすぐ70歳になるので、定期がもらえる。そうしたら市にもっと訴えに出かけたい。(69歳、担当：丸笹、永安、岡本)

・「あの時死んどつてもよかったんだけどな」……。一階平屋建。目が開いたら天井が真上だった。「こんなところで死んでたまるか」と脱出したが、家はペシャンコ。隣の奥さんも近所の知ってる人も……。十数人が死んだ。火が出ただけよかったと思う。橋本龍太郎も瓦礫の下這ったらわかるねんけど……。5万人もの人数が2年や3年で公営住宅に片付くはずがない。希望も何もない。子どもにはやっかいになれないし、奥さんはとうに死んだ。「人間老けたらあかん。それこそ孤独死や」と……。話しておられました。(61歳、担当：武村、野中、長船)

・年金だけの生活。ぎりぎりいっぱい。子どもなし。夫は死去(20年以上前)。老人ホームにも入りたいが、まず家に落ち着きたい。妹と共に永住できるところへ。年がいくと坂や階段は平安だし辛い。住宅もエレベーターがついているのは、5階建て以上なのでなかなか当たらず困る。家賃は5年後に値上がりするというが払えるか自信がない。(75歳、担当：武村、野中、長船)

・小生、健康状態はましな方だと思いますが、残された時間は少なく思いますので、一日も早く恒久住宅へ移って、終えの時を迎えたいと思っています。もっとたくさんの公共住宅の建設を切望します。“弱者救済”をキャッチフレーズに立候補し、当選された国会議員。特にかたくなに生活再建支援を個人補償としか考えない“自民党”の人達にはもう腹立たしくなるばかりです。国全体の構想も理解するものですが、もっともって現実に苦しんでいる被災者に目を向けてもらいたいと思います。(81歳、自筆)

・何回も死にたいと思った。夫が薬品の会社をやっていたが、震災前に死亡。会社の事務整理がやっと終わったと思ったら震災に遭い全壊。被災していない人達の冷たい目が辛い。生まれた時からこんな惨めなせ威喝をしたことがなかった。せめて夫が生きてくれていたらよかったのと思う。今はお金もないので植木・押し花ができない。きれいな花を見るたびにわびしい気持ちになる。だが、この震災で人のありがたさが本当によく判った。(70歳、担当：矢萩、井手上、亘)

・近所の人々がどんどんいなくなって寂しい。何かあったらどうしようかと思う。役所の人たちはよくちよく来るがあてにはならない。役所の間人は嫌。こんなに人と長く話したのは久しぶりで非常にうれしい。すっきりした。(82歳、担当：矢萩、井手上、亘)

・最近体調を崩し最悪の状態です。つい先日、家で死のうと思った。気分が悪くなって熱が出て、目が見えなくなり……。入院している時遺書のつもりで文書を書いた。この年になってなぜこんなひどい目にあうのだろうか……。こんなんだがあまり他人の世話にはなりたくな

い。娘が4人いるが、地震の後、いろいろ行き違いが生じ、一番下の娘とは縁を切らなければいけないことになってしまった。もうどうしたらいいのかわからない。やけになる。はっきり言ってもう生きるのは嫌だ。(87歳、担当：矢萩、亘)

・1月末で定年退職。酒を飲みすぎるため医者から仕事をした方が良いと言われているが、仮設からは交通費が高く不便なため職探しもできない。良く眠れなくなったので、睡眠薬を使っている。(65歳、担当：増田)

・窓のところから知らない間にいろいろな虫が入ってくる。カメムシ、ムカデ、クモ、ナメクジ等が寝ている枕もと、布団のへりに来ているのでビックリして夜中に起きたりします。これから梅雨の季節に入りますので、消毒をお願いします。現在も玄関のドアを開けると羽虫が何匹も部屋に入ってきて困っています。(62歳、自筆)

5月31日

・いろんなものをくれたりする与える心のある方だが近所づきあいはあまり良くないようだ。彼女は誰かに良いことをしてあげると必ず帰ってくるんだと言って、僕達にもそのつもりで接してくれていた。ではなぜ近所の人にはそうではないのか？かなり寂しいのだと思う。また、お手紙でも書こうと思う。(72歳、一人暮らし、暮らし、担当：稲葉、山本、清重(直))

・主人は59歳で亡くなった。震災にあい、ガンと言われ「生きるのが嫌だ」と気力を失っていた。お金もなくなり、病院にも行けなくなった。薬も何万とするとと思えば飲めなくなってガンもひどくなっていった。主人は迷惑をかけたくないと思ったのか、目を離れたスキに発作的に隠し持ったカミソリで自殺をしてしまった。近所に痴呆の方がいて、1年半の間自分の家の戸を叩き続けた。「夫殺し」と。毎朝7時にひどい時は14時頃まで。近所迷惑だし言われた言葉に対しても腹が立ったり、泣けてきたり……。でもどうしようもなかった。周りの人にも変な目で見られつらかった。ようやく心の整理がついて話せるようになった。しかし、季節の変わり目のせいか、また昨日からドアを叩かれている。(57歳、一人暮らし、担当：津田、小山、吉田)

・お食事の用意中でしたが、ガスを止めて話して下さり、デイサービスセンターでの楽しい出来事をたくさん話して下さいました。最後に涙を流しながら「来てくれてありがたいね」と何度も言って下さった。(83歳、一人暮らし、担当：津田、小山、吉田)

・住みなれないところのところに来たので、人と人の付き合いが難しい。「悲しみは喜びに！」「悲しい、悲しいと思っていても仕方がない。底辺0からはじめよう！」(80歳、夫婦2人暮らし、担当：津田、小山、吉田)

・避難所で最後まで残っていて、しかも一人だったので寂しかった。ようやく落ち着いた今、また、ここを出なければならぬと思うと嫌だ。59歳という中途半端な年齢のせいでどこにも行けない。市営住宅なんて絶対当たらないと思う。(59歳、一人暮らし、担当：津田、小山、吉田)

・脊椎等の身障3級。働けない。じっとしているのは嫌だが仕方がない。症状が悪くなると立っていらなくなる。生活保護を受けている者は入院しても3ヶ月経てば福祉での扱いが切れる。そのため無理矢理退院させられる。外にも出られず、何の楽しみもない。「働けないのが悔しい！」と何度も言っていた。(59歳、一人暮らし、担当：赤西、岡、田中)

・郵便局の疾病保険の通知ハガキが、震災で転居したため着かなかった。そのため平成8年度

の保険料（7700円）を納められなかった。今年3月心配して東灘郵便局に保険金を納入すると申し出たが、すでに期限が過ぎて、保険が無効になっていると。将来の病気や入院を考えて何とか継続できないかと相談窓口を探している。（82歳、一人暮らし、担当：西畑（み）、川端）

・長田で酒屋を営んでいるが、人口が減少しているので売り上げがなかなか伸びない。（50歳、3人暮らし、担当：西畑（り）、脇山、白岩）

・今後のために一言。震災の混乱の中でボランティアはしっかりした標識が必要ではないのか。（？歳、担当：西畑（り）、脇山、白岩）

・元いたところには戻りたくない。家がつぶれたところ、そうでないところでやっかみがある。ここにいた方がよい。（67歳、2人暮らし、担当：小林（好）、秋田、矢萩）

・震災後、喘息になる。テレビで問題になっている吸入薬を服用しているが、医者に聞いても「大丈夫」と言うだけ。ずっと仕事を続けてきたのに今はできない。動悸がするので。今年に入って3回発作に襲われ、自転車に乗って医療センターに駆け込んだ。救急車を呼ぶと迷惑をかけるから。外からは病気とは見られないのがつらい。会長さんの理解もあり、仮設での合同作業はできなくても、自分のペースで別に作業をしている。（53歳、一人暮らし、担当：小林（好）、秋田、矢萩）

・ここに移ってから、自律神経失調症を患いずっと調子が悪い。別にかくしてはいないけれど子どもは今の主人の子でないことを、他の住人が子どもの前などで無神経に話しをしたりするのが耐えられない。また、言ってもいないことを言ったように話す仮設内のうわさ話には耐えられない。（40歳、3人暮らし、担当：小林（好）、秋田、矢萩）

・抽選に落ちた。これでまたここでお正月を迎えなければいけない。ここへ来てまる2年、朝きて、晩きて、何もしないで2年が過ぎた。喜寿や誕生日になっても誰も何もしてくれない。おうどんを食べるのをお寿司にしようかしらと思うぐらい。けどあまり長生きしたらいかんと思う。若い人にしなだれかかってしまうから……。隣のおじいさんが引越してから寂しくなった。（77歳、一人暮らし、担当：加藤（純）、奥村、首藤）

・孫がずーっと泊まってくれていて、何かあった時は安心だが、お金をいれてくれない。孫と一緒に住んでいるということで、生活保護を打ち切られ、年金2万円と去年の暮れ亡くなった妹の残したお金で生活している。とても苦しい。孫を今は甘やかしているけど、自立させなければとここを出る時は、一人で生きるように言っている。（88歳、一人暮らし、担当：加藤（純）、奥村、首藤）

・家が当たっても引越しの代金はとともありません。家が全壊で生活や家具のため、借金も増えるばかりです。生活保護もなく、消費税が上がるばかりで、安い年金ではとてもやっていけない。返済の目処もできず困って居ります。それから、ボランティアの人達は一人暮らしばかり心配しておりますが、私たち病気持ちの年寄り2人のことも考えてほしい。（78歳、夫婦2人暮らし、自筆）

・今日の3人組は家族になって知りあいを訪ねたという設定で楽しい話し合いでした。（担当：小波本、杉谷、和田）

・震災後2年経った今、手が腫れたり、痛かったりするが、医師から震災のストレスだと言われた。今はストレスなんか感じていないと思っていたのに……。今頃になって症状が出る人が他にもいるとのこと。被災者のことは、もう忘れられていると思っていたが、こうして忘れ

ないでいてくれることをうれしく思う。自信も出る。(79歳、2人暮らし、担当：山本、長船、佐々木)

・「公的支援などいろいろ活動しても無理だ」と言いつつ「何とかしてほしいという強い思いも感じられた。このままでは見殺しにされる気分だと・・・。(65歳、一人暮らし、担当：永安、亘)

・肺に酸素が入りにくく酸素吸入を常時している。3度の食事をホームヘルパーさんに買ってきてもらうことだが、栄養のバランスが心配です。(70歳、一人暮らし、担当：永安、亘)
床が低いため、湿気で畳と布団が湿っぽくて気持ちが悪い。(63歳、夫婦2人暮らし、担当：木村、近藤、前田)

・(1) たとえ片方が80歳以上でも夫婦だと震災後の30万円(援助金)をもらえなかった。「一人住まいの80歳以上は出る。」(2) ボランティアは65歳以上の一人のところでも訪問している。(63歳、夫婦2人暮らし、担当：青山、榎谷、堤)

・緊急の連絡先などないので不安がある。ボランティアも来てくれるが、元気かどうか確認するだけであまりいろいろ頼むこともできない。今日は話しができたことをとても喜んで下さった。(85歳、一人暮らし、担当：藤原、渡辺、今井)

・足が悪いので部屋の掃除でも手の届かないところがある。ボランティア団体が来て話しを聞いてほしい。お手伝い(一般雑用)などをしてほしいと言っていた。またお隣の方が来年1月に引越すので一人になると思ったら不安で夜も眠れない。(77歳、一人暮らし、担当：篠原、浦口、阿部)

・来てほしいと思っても、ボランティアになかなか来てもらえないと言うのは、仮設の人達に取ったら見放されていると感じて寂しい思いをされていると思います。”来てほしい”と言っている仮設の人達の気持ちを大切にしたい。(担当：安部、篠原、浦口)

6月7日

[留守訪問、再訪問]

・生活保護を受けることを勧めた。私一人なら我慢できる。ただ公営住宅の家賃値上げの時や病気になった時不安だし・・・。近所の人も養老院に入れたけど1年かかった。と心が揺れていた。街中に住んでいた者にとって西神の町は何もないし、夜は怖くて不安。できることなら養老院に入りたい。こうした一言一言に十分回答できる言葉をボランティアは持ち合わせていないと思った。(75歳、一人暮らし、担当：白岩、湯浅、長船)

・生活保護を受けたいと希望している。生命保険に入っているとだめなので、この間解約したところである。貯金はまだあるが、なくなってからでは困るので、申請しようと思っている。(70歳、一人暮らし、担当：田中、足立、盛本)

・以前、住んでいた長屋は全壊。家主が新しく建て替えたら入れるという約束で立ち退きに同意の判をついたが、知らない間に業者に転売。敷金ももらえなかった。サギ同然なので弁護士や他の店子と相談することを勧めた。(88歳、一人暮らし、担当：高山、小林(弘))

・西神南の福祉用の部屋が当たったので、ヘルパーさん付き添いで見に行った。部屋の中は使いやすくいろいろ工夫もされ、向いの建物にはリハビリ施設もある。ただ廊下には鉄格子つけの窓があるのみで密室状態となる。今よりさらに孤独死が増えるのではないかと。自身は友達から電話がかかってくるので寂しくないが、ない人は孤立するだろうと。※(消防署への緊急連

絡用ブザーはついている。)長田区では暖房等の生活必需品として年間24000円市より頂いていたが、西区ではなしと言われた。交渉してもらえようになった。(障害4級のためか?) (76歳、一人暮らし、担当：榎谷、青山)

6月14日

[留守訪問]

・姉夫婦と同居していたので、市住に移る際当然自分も一緒に住むと思っていたが……。来るなど言われ仮設に住むことになった。姉夫婦とうまく言っていなかったのもっと早く仮設に申し込めばよかったと思う。3人で住んでいたのも、義援金もすべて姉夫婦のものになり自分には何も入らない。そんな話を聞いてもむしろ腹が立つだけ。土地は借地、家は親の名義、所有は姉夫婦になっているが、名義は自分のものだと思っているので、家の跡地がどうなるかはっきりするまで待っている状態。住むところの見通しが全然つかないのも不安がいっぱい。先のこと考えるとつらくなる。外にもだんだん人出なくなるし、暗くなる。なるようにしかならないと思うけど……。考えてしまい、ますます嫌になるだけ。お金、住居、人間関係などストレスがいっぱい。(65歳、一人暮らし、担当：佐々木、今野、伊藤)

・市営住宅の入居に対し、議員に頼めば即入居と言った人が実際に入居できた。「納得いかない気持ちです」皆困っているのだから公平にしてほしい。(61歳、2人暮らし、担当：藤井、高坂、西畑(律))

・深江のショッピングセンターで店を出していたが、全壊した。出店の人達は皆店を手放し、公社が14階建を立替えるが、再び店を出すには1400万円必要と、そんな力は私たちには無い。(61歳、2人暮らし、担当：藤井、高坂、西畑(律))

・仮設住宅が空いてるにもかかわらず使用させてくれない。(61歳、2人暮らし、担当：藤井、高坂、西畑(律))

・土木一般を経営していたが、震災時に機械などが全壊し仕事をなくした。景気低迷のため、立ち上がりができない。現在は友人の差し入れで生活しているが、いつまでも続けられない。義援金40万弱では2年半の生活はできない。300万ぐらいの貸付は保証人なしでしてほしい。友人もまた、被災者であり、その人達は自分のことで精一杯、頼めないことぐらい理解してほしい。国会議員や地方議員はあてにできない。感想：「神戸の行政は止まってしまってる」印象的でした。決定権をもっと身近に置く必要を強く感じました。(55歳、2人暮らし、担当：藤井、高坂、西畑(律))

・45年間働いて新築した家が、地震で無傷だったのに火災で全焼。火災保険に加入していたが、保証は少ししかなかった。早くに避難した人が多かったのも近くで出火した際、初期消火が間に合わず大火になってしまった。またバケツ1杯の水もすぐに出なかった。あの火が消せていたら……。都市計画のため、自分の土地を公示価格で買い上げてくれたけど、それでは新しい家は手に入らない。私は自分の住みたいところへは帰れないと言っていた。市営住宅は建て替えできたら、元の住民はそこへ戻れる。公平ではない。受皿のない私たちはいつまでも置き去りになる不安を抱えている。(65歳、2人暮らし、担当：藤井、高坂、西畑(律))

・公営住宅は老人や生活保護受給者にはなかなか当たらない。審査の時、家賃が払える収入のある人を優先しているのではないか。(60歳、一人暮らし、担当：吉田、長崎、矢萩)

・仮設は収納スペースがなくて、物置の中で生活している気がしてイラつくことがある。ずっ

と家の中にいたらおかしくなってしまうそう。友人で公営に当たって入ったが、孤独死した人がいる。「入りたくない、入りたくない。」と言って出ていった人なので心配していたところ。ショックだ。(？歳、2人暮らし、担当：小島、高橋、津田)

・ここで終わる。お墓に言った方が・・・。無我夢中の2年。希望はもう捨てました。子どもを結婚させて、一人住まいで地震にあい、何もかもなくした。娘も来てくれていたが、意見が合わなくて・・・。また周りの人が良く判らず友達ができない。(長田の人に知り合いがないので)ふれあいセンターもあまり行かない。(82歳、一人暮らし、担当：武内、誉田、国安)

・20年以上住んでいた文化住宅は全壊。その後区画整理にかかって再建させず。公営に早く入りたいが、年齢の関係なかなか当たらない。元気なので働きたいが職がない。職安に行っても仮設に住んでいると言うだけで相手にされない。差別ではないか。収入は娘さんからの仕送りで・・・。(58歳、一人暮らし、担当：八幡、加島、小林(弘))

・40～60代の男性を最重要に考えてほしい。男性と言うのは家に閉じこもりがちで、人と接する機会が少ないため、アル中になってしまう。精神的なケアが必要。(78歳、2人暮らし、担当：黒井、永安、石川)

・長田区の小さな敷地が残ったが、共同で住宅を建てる話し合いをしている。しかし、話し合いが進んでいない。ご主人は有料道路の料金所で勤めているが、年齢が高いため今月中に退職しなければならない状況で、本人はまだまだ勤めを続けたいと思っており、新しい職場を探さねばならない。住宅建設の費用が多額に必要で、それが最大の悩み。(65歳、2人暮らし、担当：西畑(稔)、唐牛、安村)

・最近、犬がまよいこんできたので飼っている。今日犬のために犬小屋を買ってきた。現在、失業中。預金で生活している。(足が調子悪い。)個人的なことは聞かれないような、かなりナーバスになっているように感じた。子犬をかわいがっているようなのだが、キャンキャンとなく犬を空ペットボトルでポコポコ叩かれていて、何だかそれでストレスを発散させているように感じた。自分がちゃんと訪問の主旨とかを説明できなかったのがとても悔やまれます。(30代、一人暮らし、担当：田中、川瀬、小林(好))

6月21日

[訪問、留守訪問]

・病気で困っています。お金がないことも困っています。福祉の援助(生活保護)を受けているが、限りがある。以前は、花屋の商売をしていた。福祉の方では、1日も早く仕事を探して復帰する様に言うが、年寄りでは、なかなか職が見つからない。また花屋での借金があり、生活保護の中から少しずつでも返しているが、なかなか・・・。お金に不自由している。震災後、嫁はうつ病で人との会話があまりりできない。だが、嫁がいることが唯一の支えになっている。感想：ご夫婦の暖かい心に触れ、心暖まるひと時でした。お2人で苦しみを乗り越え、早く花屋さんを再会できる日を心よりお祈りします。(57歳、2人暮らし、担当：石田、丸笹、本田(に))

ただ早く地元の住宅に入りたい。何度も落選してる。「どうせ貧乏人は、当たらない様になっているんでしょ」とポツリ。またこの辺は寂しいところ。ちょっとそこらへんを散歩するという気分になれない。特に夜などは、一人で外出できない。まして最近では気持ちの悪い事件が起きてるし・・・。(60代、一人暮らし、担当：赤西、内海、高橋)

・地震の時は、実家（奄美大島）の結婚式に行っていた。震災1週間後に兵庫区へ帰って来たら、家は全焼で荷物も取り出せなかった。（?歳、2人暮らし、担当：花島、藤原、松澤、阿部）

・家族は、夫婦と犬（ヨークシャテリア）1匹。公営に入ると飼えなくなるのがつらい。何とかならないか？。住宅申し込みは、さっぱり当たらず気持ちが焦る。ただ仕事（AM5:00~PM1:00）があるだけまじと思ってる。仕事をしていると気が紛れる。ここに一日中いると気がおかしくなる。もう東灘には、帰れない。だからあのあたりには、足を運ばないことにしてる。（50代、2人暮らし、担当：赤西、内海、高橋）

・人と話すことがあまりないので、来てくれてとてもうれしい。今の官僚は、公僕なのに服務違反をしてる。まったく・・・。現在は高校生と文通している。高校生は純粋なので、こちらが教えられて、勉強になることが多い。（83歳、一人暮らし、担当：加藤（純）、木村（茂）、佐沢）

・主人は1月31日に手術し、肺を1/3切除したが、いまだ完治してない。2人住まいでも部屋はいっぱい。隣に空きがあるなら貸してほしい。それに蛍光灯のカサが壊れたり、押入の中段が下がり修理したいが、勝手に直して役所に文句を言われるのも困るし・・・。ほしいものは、いくらでもある。でも言っていたらきりがいい。でも・・・とりあえず落ち着きたい。（69歳、2人暮らし、担当：加藤（純）、木村（茂）、佐沢）

・一人暮らしで腰痛のため、あまり外に出られない。だから訪問をたいへん喜んでくれた。長田の公営住宅に当たったが、これから建設するので、移転は2年後になるそう。明るい方で前向きな気持ちをもってられるが、外に出ることが少ないため、お話し相手を欲しているのが良く判った。金曜日以外は在宅とのこと。またお話しできたら・・・と思う。（69歳、一人暮らし、担当：杉谷、小島、長船）

・今、テレビ等でやっている公的支援の話はだか、引き伸ばすだけ引き伸ばして廃案にするつもりじゃあないかと思っている。日本はよその国には援助のお金をたくさん出すのに、自分の国には、何もしないことが腹がたつ。義援金は仮設への引越して使ってしまった。また市営へ引越すだけでも数十万かかる。引越せばそれなりの家具や必需品を買い足すことになるので、100万ぐらいは最低でも必要と思う。せめて、それぐらいあればいぶん助かる。（53歳、2人暮らし、担当：盛本、木原、伊藤）

・息子は大学生で、卒業論文を作成する必要があるが、仮設に住んでいると勉強ができないので家を借りている。その家賃を払うために塾のアルバイトをしてる。息子さんの世話を何かとされているが、ご本人も胃がなく、食事は流動食に頼っている。「何のためにこんな生活をしないではないのか？」と何度も繰り返して言っていた。「雨露がしのげるだけでもまだ」でも「ずうーっと我慢我慢の生活を続けている。こういう状態の被災者もいるんだということ、議員たちに伝えて、訴えてほしい。（61歳、一人暮らし、担当：石田、本田（に）、丸笹）

・糖尿・肝臓・心臓・じん肺などいろいろ患っている。7~8年入院していた。呼吸がしにくく、薬を飲んでる。足も悪く、以前は松葉杖を使っていたが、今はなしで、歩けるようになった。国民年金・労災・障害年金でやりくりしているが、それでも苦しい。役所は税金を取ることをばかり考えている。（78歳、2人暮らし、担当：花島、藤原、松澤、阿部）

・避難所では、4~5日前のおにぎりを食べ、学校のプールの水も飲んだ。震災時、頭にレンジが当たり、クモ膜下出血で意識不明に・・・。ちょっと見たところ元気そうだが、左耳は聞こ

えず、鼻も、味覚も判りにくくなったそうである。(56歳、一人暮らし、担当：小野、亀井、長崎)

・左膝が悪く、右目は白内障。食事は近所の人に来て作ってくれる。買物にも一緒に行ってくれる。(84歳、一人暮らし、担当：川口・佐々木(公)・矢萩)

[訪問]

・公営住宅に入居希望ですが、年齢が若いせいか落選ばかり。子どもでもいれば、もっと早く当選できるのでしょうか。②私たち2人は、入籍せずに長い間一緒に暮らしているのですが、市住等に入居する場合に、いろいろ問題が出てくるのかと心配です。③主人は目と耳に障害があるので、一人でいる時などは、犬がいないとどんなことがあっても気がつかない。(たとえば火事など)前回の県住でも、ペットOKの募集戸数が少なすぎます。もっとたくさんのペットOKの住宅を作ってほしい。犬と住める公的住宅に一日も早く入居したい。④生活再建支援金を支給してほしい。仮設生活の今でさえ生活は非常に苦しい。住宅という入れものさえ作っておけば、それでいいって言うわけじゃあない。その中に住む人が普通の生活を送れる様になってこそはじめての復興です。(38歳、2人暮らし：自筆)

・家も土地も自分のもので、半壊だったが元に戻す資金がなく、土地も家もあきらめ手放した。元いたところのことに話しが触れると涙ぐまれ、うつむかれたがもっともっと辛い方がいらっしやるのだからと自分自身でふつきっていられた。(70歳、2人暮らし、：担米本・井手上・坂本)

・高所恐怖症で高いところには住めない。(1~2階までは大丈夫)。低い階があるかどうか、TELで聞いても、人によっては有るといふ人もいたりして、返事がまちまちで判らない。もっと確かな情報を提供してほしい。これが最大の悩みです。(54歳、2人暮らし：自筆)

・傷害保険と生活保護で生活している。(片肺と肋骨7本がない)震災前も12年間入院していた。2番目の兄さん(宮崎県在住)とだけは、連絡を取っている。他の身内とは音信不通。この2~3ヶ月の間にふと死のことを考えることがある。市からの訪問者がきても2~3分話すだけだが、こんなにも長く話したことはなかったと喜んで下さいました。(61歳、一人暮らし、担当：大島、富野、吉野)

・震災で自宅は全壊。土地はあるが、長男名義になってるため、売るに売れない。土地を売ってせめてマンションの頭金にしたい。年金暮らしだが、それだけではやっていけないので、生活費は娘が負担してくれている。生活保護を受けれるかどうか相談したい。日が明るいうちは大丈夫だが、日が暮れると仮設周辺は、住宅も少ないので物騒で怖い。防犯ベルをもっている。「いつまでここにいるのだろうか……。でも絶対ここで死にたくない!!」と、とても印象の残る言葉でした。(80歳、一人暮らし、担当：寺野、浦口、清重(直))

6月28日

[再訪問]

・ふれあいセンターにも、あまり行かない。仮設の人達と近所付き合いもない。外科に通院して、多くの友達とおしゃべりしているのが楽しみ。「公営住宅には、全然申し込んでいません。最後まで残るつもりです。」と言った言葉が印象的でした。一人暮らしで本当は寂しいと思う。(とてもすごいいきおいで、お話しをされていた。)いつ死んでもいいようにお墓とお葬式代

を用意してますと・・・(82歳、一人暮らし、担当：清重(智)、長崎)

・チューハイを1日10缶呑んでいる。「酒呑みながら死んでもそれでよい！」などの言葉も出た。(56歳、一人暮らし、担当：岡本、白岩)

・視覚障害者(1級)。協同病院に月1回通院し、週1回ヘルパーさんと一緒に買い出しに行く。他に仮設に知り合いもなく、空き家も多いので挨拶をするくらいの人間関係しかない。夜中一人寝るのは寂しい。いつも午前1時頃から起きている。TVも若者向けでなじめず、一人でラジオを聞いている。死んだご主人の借金(国民金融公庫)を、月5,000ずつ返している。孫が名谷の小学校に行っており、こんな時だから心配で来いとも言わない・・・。(69歳、一人暮らし、担当：赤松、小林(弘))

・たまにコーヒーを飲みに出かける程度で、ほとんど家にいて、TVを見たり、本を読んだりしている。家に上がってくれと何回も言われたが、時間がPM5:00にせまっていたのと風が強く台風が近づいてきたようなので断りました。残念。足が悪く、支えがなければ立つのもしんどいとのことだった。(86歳、一人暮らし、担当：小城、林、立花)

7月5日

(記録作成せず)

7月12日

・被災後和歌山の友人を頼って避難していたが、仕事がなかったので帰ってきた。仮設も市街地はだめだが、ここなら入れると言うので来た。しかし、ここでは仕事ができない。西宮・尼崎の方では仕事がたくさんあるので、社会復帰するためには、やはり、元の生活に近い場でなければならない。東灘の方の仮設に移りたいと思い、住宅相談窓口へ行き責任者の方に話を聞いてもらったが・・・。いつまでたっても返事がない。今でも運動を心がけ体力づくりをしているのに。(55歳、一人暮らし、担当：白岩、亀井、丸笹)

・周囲も人が少なくなってきたので、寂しくなってきたところ。来年4月の引越が待ち遠しい。(70代、一人暮らし、担当：矢萩、井上、石田)

・隣の男性はアル中で今年3月に死去。存命中はテレビをつけっ放しで、物音を立てると壁を蹴ったり、相当荒れていた。死亡後1ヶ月して発見されたが、テレビがつけっ放しで死臭もなかったのが気がつかなかった。家族の方が来て後始末をきちんとしてくれたので良かった。ふれあいセンターが閉まったのが寂しい。カラオケやいろいろ楽しみがあった。自治会もなくなり、ケアする人もいないので不安だし、寂しい。(69歳、一人暮らし、担当：石田、井上、矢萩)

・健康だけが取り柄で頑張っている。中央市場への通勤の便が悪く辞めた。現在は工事現場での土木作業に従事(会社の車で通勤)。市営住宅は申し込んでいるが、なかなか当たらない。(42歳、一人暮らし、担当：矢萩、井上、石田)

・直腸ガンの手術後、人工肛門をつけられ毎日洗浄している。また、食事療法も欠かせない。右腕が19歳の時にリウマチで不自由に、体にも手術の傷跡があり動きづらい。震災前に住んでいた中央区は40年以上も住んでいて近所との付き合いも深く、現在もいろいろ支援して下さる人がいてありがたい。夫が亡くなってから1年間はここで納得して生活していたが、2年目に入るとだんだん気が滅入ってきて、早く中央区へ帰りたく願う毎日です。(75歳、一人暮らし、

担当：矢萩、井上、石田)

・トタン塗りの仕事で日給生活なので、こう雨が続くと仕事がなくなってお金がない。神戸市に通うのに朝早く、無理があるので仮設を市街に変えてと言ったが「1回入ってもらった仮設は変えられないんです。」と市の人に言われた。市の関係者は早く仮設を出たり、いい市営に当たっている。「ズルイ！こいつらは俺達の税金で食わしてやってんのに、なぜ？」と怒りの気持ち。市の奴は「じゃあ、姫路方面で仕事を見つけたらいいんじゃないですか」と言う。本当に誰のおかげで食わせてもらってんのか！！(30代、一人暮らし、担当：加藤、藤原)

・住民がマナーを守らないです。自治会がなくなって余計ひどくなりました。公営住宅の説明会では、あなたは高齢者で年金生活単身者だから入りやすいでしょうといつも喜ばしといて落選・・・。当たった人達を見るとひがみかもしれませんが、えこひいきがあるように思えてなりません。少ししかないお金でやっと生活だけはしていますが、お金がほしいです。先日神戸の被災された大勢の方たちが一生懸命になって義援金のことで頑張っているのをテレビで見て感激しました。みんな同じ気持ちやな一と。上の人達は私たちのことをみじめさを判らないと思いますが、この虚しい気持ちを察して、せめて申請の半分でも恵んで下さい。(80歳、一人暮らし、自筆)

・ここは皆様が見られたとおり、現状は西部劇のゴーストタウンのような有り様です。

1. 車8台捨ててあります。
2. 捨ててはいけない場所に布団が4~5枚。ゴミ袋が山のよう。生ゴミまで・・・
3. 雑草で夜通行するのに恐ろしい状態です。
4. ゴミは毎日捨ててあります。
5. 何かあった場合、連絡するところがありません。(自治会なし) ふれあいセンターは閉まったまま。
6. 空き部屋が多くなってきましたが、生活能力のある方々が出られ、老人で独り者ほど残っているように思えます。弱者のひがみかもしれませんが、一度参考までに調べて下さい。公平な抽選の結果とは信じられません。残っているものも皆、精神的にまいっております。明るさ活気がありません。何とか少しでも街らしいものにしたいと思います。行政でも交代で誰か来ていただいたら良いかと思いますが無理でしょうか？(74歳、一人暮らし、自筆)

・親しい人2~3人で焼き肉やカラオケ屋に行って楽しんでいる。しかし、近所の人もいなくなり寂しい。ふれあいセンターも閉まっている。早くここを出たい。2度の災害も立ち直ってきた。今回もこれから第一歩が始まると思っている。これからもやる事がいっぱいある。いいことがあると思ってやるしかない。(80歳、一人暮らし、担当：武内、木村(俊))

・震災後、上の娘の家(明石)にいたが、娘がボランティアで神戸に入り、腰を悪くして、もう面倒見れないと言われた時は涙が出るほど辛かった。その後、下の娘のマンションにいてここに来た。近所のおばちゃんも復興住宅に入ったが寂しいとしょっちゅう電話をしてくる。前は寂しいので神戸へよく行っていたが、JRを使うと毎月4万ほどかかった。今は無料パスをようやく使えるようになった。ここへ来てずいぶんストレスがたまった。しかし、空気はいいし、野菜が安く手に入るのので気に入っている。(72歳、一人暮らし、担当：内海、小林)

・自宅が全壊。自営していた建築会社も倒産した。妻とは自分が抱えている借金があまりにも多いので別れることにした。感情がこじれて別れたわけではないので、借金が返せて生活が立て直せたら呼び戻したいと思っている。子どもがいなかったの、その点だけは助かっている。

食べることには困っていないが、借金返済の目途が立たないところへ健康も害して仕事をできる状態でなくなり、先の見通しがまったく立たず、お先真っ暗である。ここで死ぬのを待っているかのように思えることもある。まったく何かしようという気力がわいてこない。どん底だ。避難所でボランティアをやっていた。小さな子どもが瓦礫の下に埋まっている両親のことで泣きながら助けを求めているので、暇そうにしている警察官に声をかけたが、上との連絡がつかないとの理由で動こうとしないし、避難所で声をかけても100人いる中で呼応してくれたのは、たった1~2人だったのがショックだった。避難所でも動く人とやってもらるのが当たり前になる人にはっきり分かれてしまって虚しさを覚えた。日頃から信じていた人達も、震災後の姿で本当の姿があらわれ、裏切られたような気持ちになった。震災後の体験でまったく人生観が変わってしまった。この仮設ではまともに話しができないような雰囲気がある。自分のところには一切ボランティアが来たことがなく、今回初めてである。人との関わりは両親や妹家族のみである。(44歳、一人暮らし、担当：赤西、盛本)

・親も姉も亡くなって居らず、今の生活の中で倒れたりして体が不自由になったらどうしようと不安になったりしてストレスがたまっている。今は新しい住宅に入るまでは頑張るつもりでいる。(55歳、一人暮らし、担当：西畑(稔)、赤松(由))

・市営住宅に補欠で当たったが、それっきり連絡がなかった。こちらから連絡しても「調べてみます」と言うだけ。ふれあいセンターは電気も止められて、子どものおもちゃもテレビもない。「早く出ていけ」と言わんばかりだ。今、住民は皆閉じこもっている。「いつまでもいようとは思わないけど」自治会がないから話すところもない。(？歳、3人暮らし、担当：長船、山本、小波本)

・人はみんなわがままになってきていると思う。それぞれが自由に振る舞っていると、いつかきっと痛い目に遭うと思う。みんなが少し我慢したり、気をつけたら解決することもあると思うのに。(70歳、一人暮らし、担当：津田、丸笹、立花)

・ふれあいセンターが閉まってから、皆が好き勝手にやり放題で、もうむちゃくちゃだ。俺が何とかまとめたいと思ったが無理。今は酒を飲むことしか楽しみがない。でも、自分には仕事もあるし大丈夫。ボランティアの者は相手の目をしっかり見て話しを聞く姿勢が必要だ。そろそろボランティア活動をしたいと思っている。西区のボランティアセンターへ問い合わせをしようと思っていた。時間がとれば「週末ボランティア」にも参加したい。(48歳、一人暮らし、担当：赤西、盛本)

・ふれあいセンターが開いていないため、避難する場所が無く、あっても歩いて10~20分かかるところです。私どもの家庭には身障者がおり、台風などで「危険、いますぐ避難しなさい」と言われた時、対処することが難しいです。早めに連絡、電話などがほしい。市の方、週一度でも集会所を開けて皆の意見を聞いてほしいです。年取った人、足の悪い者は困っています。(47歳、自筆)

7月19日

・今までタクシーの運転手をしていたが、目が悪くなったため、クビになった。去年の暮れ血圧が上がった。その後遺症か？今は失業保険で食べているが、ずっと家にいるため「ずぼら休日やろー」と言われるのが辛い。後2年半で年金をもらえるが、失業保険も今年12月で切る。その後どうしたらいいのか？今、健康保険証も持っていない。(58歳、一人暮らし、担当：星)

加、内海（貴）、長船）

・望むこと。1.住宅の確保。2.交通の便（買物バス）3.ふれあいセンター活動度増4.健康管理（老人）、市の訪問の徹底。5.交通事情が非常の悪い（バス料金も高い）6.病院が近くにない。
（74歳、一人暮らし、自筆）

・家だけ変わっても復興でけへん。土建とか全然仕事がなくなつとる。仕事がないと食われへんし、復興にならへん。今、大きい仕事は大阪の土建屋ばかりで神戸の業者に仕事がこえへん。復興は早かったけど、神戸の人は泣いている。家賃がタダでも高速代払ったら月4万ぐらいかかる。長田に移らしてくれへん。これじゃあ仕事にならん。なんぼ言うてもあかん。病人、老人を大事にせなあかんけど、仕事を一生懸命やるもんも大事にして。若いもんが働けんと年寄りも助けられん。いざという時に仮設で相談に乗ってくれる人がおらん。救急車を呼ぼうと思うぐらい具合が悪かった時、福祉に相談すると「今から役所に来い」と。こんなことしてて、半日経って死んだらどうするねん。夜ここの仮設は無法地帯や。鍵かかけてても力尽くでこじ開けたら簡単に開いてしまう。若い者とかが空き家でシンナーすいよったり……。警察も役所もみんな考えてほしい。机上で福祉や何や言われても困る。殺人事件が起こってからでは遅い。「政治家はきれい事ばかりいうて自分のためばかり。国民のために命かけてみい」きれい事、立て前ばかりで国がおかしくなっている。（55歳、2人暮らし、担当：星加、内海（貴）、長船）

・去年の1月入居したが、外についている湯沸かし器から水が漏れ、使用不能となっています。元栓を止め、ふれあいセンターを通し、修理を依頼したがまだ来ていない。1年半近く使用不可能です。現在は携帯プロパンを使用。風呂も明石市内の銭湯に通っています。（59歳、自筆）

・主人は胸部打撲で震災当日は気が張っていたため元気であったが、23日市民病院へ行くと断られ、国立病院に行くように言われた。妙法寺の病院の紹介で国立病院に入院したが4月23日に亡くなってしまった。病気などしたことない人だったので信じられない気持ち。（一人暮らし、担当：瀬戸、西川、藤原）

・犬5匹と暮らしている。首・胸・腰・足を震災で打撲。当日、友人に助けられ病院へかつぎ込まれた。今もリハビリのため通院中。犬5匹の世話をしなければならぬので生きてきたが、そうでなければ自殺していた。兄も先日亡くなり、7人の兄弟もどんどん少なくなっているのが悲しい。（一人暮らし、担当：瀬戸、西川、藤原）

・小さい頃に足を悪くされ、膝の半月板を取っており、歩くのが少し不自由。つい4、5日前、仮設の外を歩いているとダンプカーがそばを通り、その風にあおられて田圃の中に落ち、錆びた釘を踏んでしまった。包帯をされていたが、足が腫れており、ますます歩き難くなったとのこと。公営住宅は申し込みもややこしいし、今でさえ生活はやつとの暮らし。結局、最初一度申し込んだきり。引越で残された飼い猫が半野良猫となっている。部屋が暑くて入り口を開放すると勝手に入ってきて部屋の中を荒し回り、食べ物をあさっていく。（74歳、一人暮らし、担当：丹野、水野、寺野）

・ここは社会の縮図だからいろんなものを見てきた。でも人間って不思議だと思う。何がなくても何もないところからでも生活してゆける。今はたまに友達と食事するのが楽しみ。9月の公営募集は当たると信じている。こんなところにおいて前向きに考えていないとみじめになるでしょ。今まで一回も申し込みしなかったが今回にすべてをかけている。復興住宅のパンフレットは何度も開けたり閉じたりしたので、ボロボロになっていた。目を輝かせて説明してくれた。

(76歳、一人暮らし、担当：小林(弘)、長崎、加藤(純))

・ふれあいセンターを開けて自治会らしきものをつくってほしい。何かあった時に言いに行くところがない。秩序がゼロ。やってくれるような人もいない。やくざのような人ばかりである。台風の時のロープは自分で張る。みんなが孤立している。みんなで和気藹々という感じはない。

(68歳、一人暮らし、担当：加藤(純)、小林(弘)、長崎)

・地震で倒れてきた壁で右肩を打撲し、最初はただの打撲だと思って医者へ行かなかった。一年ほど経って右肩が腫れてきて医者へ行くと「もう手術しても治る保証がない」と言われた。去年の2月頃右目が見えなくなって大型の運転手を辞めた。その後、ガードマンの仕事をしたけど右目がさらに悪化。3ヶ月で辞めた。(目が悪くなった原因を医者に聞いても教えてくれない)今、生活のリズムが変わって夜ぐっすりとは眠れない。早く公営住宅に移りたい。親戚の兄弟も散り散りになって連絡先がわからない。本当に孤独。1日、テレビを見るしかなく何の楽しみもない。頭を使うのは「今日、何を食べるか」ぐらい。話し相手もなく話すことを忘れてしまう。震災で本当に生活が一変した。(62歳、一人暮らし、担当：矢萩、小野、西上)

・子どもが夏休みに入りました。去年は祭りがあり、今年はないそうです。みんな楽しいのでやっぱり祭りをしてほしい。他の仮設で櫓を建てるのを見るといいなと思います。またふれあいセンターを開けてほしいです。開ければ人の輪ができてちょっとでも話しができると思います。(34歳、一人暮らし、自筆)

・ふれあいセンターが閉鎖して住民の休憩場所がなくなったような気がする。市がふれあいセンターを週2回開けてくれると言う話だったので、ふれあいセンターの閉鎖を私たちも反対しなかったが、市はその後まったく開けていない。何とか開けられないものだろうか？市は住民を不安にさせるようなことばかりする。住民であるのに住民でない。まるで島にいるようだ。またボランティアの訪問も減ってきたよなきがする。窓口である自治会がないせいか？主人は震災の時頸骨を損傷したため、頭痛等の痛みが激しく、毎日通院している。同じ姿勢でいると気分が悪くなるので仕事ができない。(29歳、3人暮らし、自筆)

・犬の散歩中に転んで2ヶ月入院。退院したばかり。身寄りのない一人暮らし。通院ができない。バスの乗り降りがうまくできないので。タクシーで5~6千円かかるのでよほどのことがない限り通院できない。両隣がいないので不安。夜がたいへん寂しい。電話もない。将来引越しをどうしたらいいのか？(75歳、一人暮らし、担当：山本、大塚、立花)

・ここは何かあっても救急車が即来ない。いたずらが多いためらしい。また、ここに住んでいるのがわかると、なかなか職に就けない。あまりに不便なので辞めたり休んだりすると思われるらしい。(48歳、一人暮らし、担当：桜田、山口(里)、前田)

・クモ膜下出血で体はたいへんな状態。1血年半病院通い。今もリハビリ中。涼むところもなく、クーラー代もバカにならないし、早く公団に当たり身体が回復するのを待っている。去年8月頃から生活保護を受けつつかつの生活をしている。(43歳、一人暮らし、担当：田中(勝)、山口、坂本(佳))

・地震3日後に救出されたが自分以外の家族は全員亡くなった。病院に一年6ヶ月入院し、足を4回手術した。バスに乗るにも2、3段のステップにもたもたして乗れない。最近では自転車でリハビリに行っているが、行き30分、帰りに2時間かかるのでほとんど行っていない。去年訪問した時と変わらず、今回も戸口までなかなか出てこれない様子でした。指先の力は紙の花や蝶を作ることでだいぶ戻ってきた。指先を使ってできる内職でもないかと言われた。やっそこ

ここで知り合いもできたし、今すぐこんな体で街に戻ったところでやっていけない。ここでよくリハビリしてから戻るつもりなので公営住宅に申し込まないと言われた。(48歳、一人暮らし、担当：山本、立花、大塚、小林(好))

・私は両膝関節症によって長く歩くことができません。兵庫区におりました時は1週間に4、5回通院して、これ以上悪くならないようにしてきましたが、ここに来てからは週に一回か2回でいつも足が痛くてたまりません。公営住宅も当たらず、このままでは車椅子の生活になります。どうか病院の近くの仮設住宅でもいいですからかえて下さい。入れて下さい。(65歳、一人暮らし、自筆)

7月26日

(記録作成せず)

8月2日

・視覚障害で自宅で鍼・灸の仕事をしている。公営住宅では往診はできるけど、自宅営業はできないらしく困っています。お客は40～50代の人で安くしているので食べるのがやっとな。(20代、一人暮らし、長船、佐沢、杉谷)

・自分の土地が狭く、建坪率60%のため、建築許可がおりない。また2階建てにすると日照権の問題が出てくる。公営の申し込みは考え中である。今まで団体生活(団地に住んだこと)がないので不安。(83歳、2人暮らし、担当：小波本、佐藤(由)、坂本)

・私たちが黙っていると行政は何もしてくれない。自分たちのことは自分たちですが行政に言わないといけなところは言っていないと、と言うことがわかりました、政治が悪いことをやっても黙っているのはふに落ちない。積極的に行政に被災地のことを訴えていくつもりです。普通に生活していてこんなに税金も納めてきたのになぜこんな不公平が起こるのでしょうか？(75歳、3人暮らし、担当：赤松(由)、藤原、佐藤)

・母が92歳で特別養護老人ホーム(岩岡方面)でお世話になっている。毎日世話に通っている。おしめの取り替え、昼食時車椅子で移動と病院に行っても細々としたことがたくさんあります。自分の体が持つうちは大丈夫だが私がダウンしたらどうなるのかと心配です。(72歳、一人暮らし、担当：赤松(由)、藤原、佐藤)

・自宅は全壊。仕事場は助かったが倒産してしまった。周りが被災を受けたから。瓦礫の処理で頑張ったのは夫なのでどんなわがままをしても辛抱していくつもりです、と奥さんは言われた。地震後ご主人は寝たきりになり奥さんや子どもたち以外と話しをしなくなった。薬を飲む前はいい夫だったのに人が変わってしまった。私ももう限界ですと奥さんは言われた。娘さんや家族の中でただ一人働いている。家族全員が精神的にまいっている。夏祭りにはご主人を連れ出す予定。私たちが来たということでご主人、息子さんも起きてきて「ありがとうごさいます」と自ら言って下さった。(55歳、4人暮らし、担当：赤松(由)、藤原、佐藤)

・体を横にすると胃や肺のあたりをぎゅっと締め付けられたように痛む。これは震災前からの病気で外から見てもわからない。この病気のために仕事も辞めた。外から見ると何の支障もないように見えるので他人には「何ぶらぶらしとんのか」と思われると思う。でも、最近はどう思われてもいいと割り切るようになった。(54歳、一人暮らし、担当：小川、立花、坂本(佳))

・19歳で結婚、20歳で出産。夫、息子は戦死。遺族年金と国民年金で経済的には安定している。

震災後腰を悪くし、左目打撲で視野が狭くなった。物忘れもひどくなり、さらに最近、ヘルペスにかかり、さんざんだ。震災で本当にたいへんな目にあった。特に物忘れがひどくなったことが一番悲しい。(79歳、一人暮らし、担当：瀬戸、羽田、大戸)

・中央区に土地は少しあるけど都市計画があるので建てられない。中央区の病院に通っているので、その近くの公営に申し込むが2回外れた。3回目に挑戦するとのこと。「当たりますように祈っています」と言うと、涙をぬぐっておられた。(76歳、2人暮らし、担当：長船、杉谷)

・今回の地震は災害でまたこんな目があったのは我々だけではないと思いつつも、だんだん世間から忘れられ、今どんな生活をしているのかも阪神地区以外で考えて下さる方たちが少ないと思うと……。国や政治が悪いことをしても悪いと思わず、改善の声ばかり。国民は皆平等なのではありませんか？困っている人には福祉が手を差し伸べていますが、これからこの年で苦しい再建を考えなければならない者たちへの援助も考えていただきたい。重ねてお願いします。不正を断てない行政の責任者はどこを向いて仕事をしているのでしょうか？(75歳、3人暮らし、自筆)

・年金でぎりぎりの生活をしている。生活保護の受給をできないか相談したが、基準をオーバーしているため、だめと言われた。生活保護を受けている人は保険や医療費で手厚いほどを受けて生活している。行政の対応に不公平を感じた。震災前、築後10年の中古住宅を購入したが一度風呂に入っただけで全壊。借金だけが残った。家財道具もなく年老いてわずかな年金で生活している状況では隣近所とも親しく付き合えず、孤独で、ましては仮設内でいじめにあっけましている。(73歳、一人暮らし、担当：井手上、西畑(稔))

・最初は「お客さんが来るから」と煙たがられていたがぎこちないながらもお話しをお伺いするうちに徐々に心を開いてくれ話が弾むようになった。何よりも決定的だったのは仮設の方と私(十河)の出身地が同じ岡山であったことだ。これを契機に私たちに親密に接してくれるようになった。私たちを見送ってくれる時は豊かな暖かい表情になってとても印象的だった。「友達が一人増えてうれしい。また遊びに来てね」と言ってくれて私たちの存在を大切に思ってくれている人がいると思うとうれしかった。(77歳、一人暮らし、担当：十河、山本、矢萩)

・母は痴呆状態がひどくなり、昨年7月に姫路の施設へ。仮設に来てからは徘徊がひどくなった。(48歳、一人暮らし、担当：十河、山本、矢萩)

・4回も市営住宅に申し込んだのに当たらない。ここの仮設も4回目ようやく当たったのにいったいどうなっているのか？当たっている人はすぐ当たっているのに私ら一人暮らしは当たらない。「今度当たらなかつたら自殺するわ」笑いながら言われたが、これは本当に心の叫びだなと感じた。私たちも「何言ってるんですか」と笑いながら流そうと思って必死だったが、さらっと流せる言葉でないと思う。(75歳、一人暮らし、担当：津田、長崎、川口)

・こないだの台風で部屋の入り口は水浸しになるし、電気はとぶでたいへんだった。やっぱり仮設だし造りが悪いなと感じた。公営は高齢者優先とか言いながら全然当たらない。抽選しているところを公開していないし内密な部分が多くて疑ってしまう。(2人暮らし、担当：津田、川口、長崎)

・今は健康であるが、毎日少しづつ自信がなくなっていくような気がします。市営を申し込んでも当たらないのは老い先短い人間より望みのある人達に住宅を与えなくてはと考えているのでは……。とか、子どもと一緒に生活しても、若い人に気の毒になるし……。などと考え込む

毎日です。(76歳、一人暮らし、担当：林、川端(昭)、寺野)

・とにかく仕事をしたい。俺は技術をもつとる仕事やから(たぶん、造船)サラリーマンと違って向こうから「明日来てくれ」って声がかかる人や始発のバスに乗ってちょっとの間頑張っ
ていっとったけど、やっぱり間に合わん。体まで壊してしもたし、そうしてると仕事したくて
ももう声がかからんようになった。連絡こへんね。俺は65歳までは働きたい人や。でもここ
じゃ無理や。まともに昔みたいに立ち上がるにはここじゃ無理な人や、体が悪くなったから「し
ょうがない」ってあきらめもついたけど、これで元気やったら耐えられへんやろな。(59歳、
一人暮らし、担当：尾上、岡本)

・落ち着いてきたけど余計に後遺症が出る。あの日のことは忘れられない。(77歳、2人暮らし、担当：尾上、岡本)

8月9日、8月16日

・前回留守だったのは「入院中」とのこと。「体調はあまり良くない。もうあきらめている。」
かつて胃ガンの手術をして2/3摘出。その後、神経痛、高血圧などと病み、耳も遠くなった。
うつ病もあり「睡眠薬をため込んでいっぺんに飲んだらどうか」と思うことがある。ここにおっ
たらイライラが募るばかり。住宅の担当者を食事で接待し、優先的に当選させてもらったとい
う話を聞いたことがある。年寄りが外れるのはなぜ？(70代、一人暮らし、担当：赤西、藤
原、岡)

・ペットを飼える家が少ない。ペットも子どもと一緒にだから……。また、犬なりにわかっ
ているから……。公営住宅を申し込むにも二の足を踏む。(30代、2人暮らし、担当：長船、
田中、内海)

・終戦間近に出征したが、満州からシベリア送りになり、当地で4年を過ごし、ようやく日本
へ帰ってきた。その後、会社勤めをしていたが、体調を崩し25年間の長い入院生活を送ってき
た。全身の血管はボロボロで、様々な病気が進み視力もかなり衰えている。現在は、犬を散歩
に連れていくことで前より健康的になった。今後の住まいも犬と一緒に住めるところを選ぶつ
もり。人生の大半を抑留生活と入院生活で送り、無駄にしてしまった。(71歳、一人暮らし、
担当：川口、脇山、羽田)

・家は全壊だったが40坪の土地は残っているので、できることなら家を建てたい。市や県が少
しでもお金を貸してくれればいいのだが、年齢や収入などで制限されてしまう。震災で倒れた
お墓をきちんと直した。立て直ただけで200万円かかると言われた。(71歳、一人暮らし、
担当：白岩、武内、亀井)

・アルコール中毒。8/7に退院し、快気祝いで飲んでめまいを起こし、救急車で別の病院へ入
院。暴れたため、ベッドに縛り付けられた。翌日には退院と言われ帰ってきた。体を治したい
がどうしても飲んでしまう。(52歳、一人暮らし、担当：井手上、矢萩)

・36歳の時にクモ膜下出血で倒れる。その後後遺症か右下半身にしびれが来る(5年前から)。
朝起きてからだをほぐさないと動けない。仕事を探している。軽作業ならできる。(54歳、一
人暮らし、担当：井手上、矢萩)

・神経痛であまり歩けない。だから行動範囲が狭くなり、近隣との友人、知人がほとんどいな
い。自分の子どもには完全に見放された。訪ねても来ないし、あってもまともに口を聞いてく
れない。早く死んだ方がええと思うことがある。(87歳、一人暮らし、担当：赤西、藤原、岡)

胃ガンの手術をしたり、ヘルペス、リウマチとたいへんなことばかり。子どもの家庭とうまく言っていない。心の痛みをわかってもらえず、何度死んだ方がいいか、仮設の横にある池に飛び込もうと思ったことか。ただ、お父さん（仏さん）を守りたいだけでつっぱってきている。

（75歳、一人暮らし、担当：藤沢、大滝）

・こうやってボランティアが訪問してきて話しをシェアすることでとても心が晴れますとおっしゃっていた。去年までは元気だったけど、今年に入ってとても疲れたと感じている。周囲の方がどんどん転居されているからだと思う。震災前は一戸建てに住んでいた。仮設住宅で生活していくうちに、集団生活という者の心構えと言うものができたと思う。本当にいろんな人がいるのだということがよくわかった。（76歳、一人暮らし、担当：原、小山、清重（直））

・ここに住んでいる者の中には認められないで自暴自棄になっている人がいる。認められないで閉じこもりっぱなしの人がいる。だれかれ構わず話しをできる、そういう環境が必要や。ボランティアの方々とのおふれあいが本当にうれしい。「人に認められる」「私は世の中で何らかの役にたっているんだ」と感じていることが自殺しないですむことなんや。自分が生きとつても死んどつても、誰も喜び悲しみもせえへんと思うから酒におぼれるようになってしまうんや。

（担当：赤松（由））

・入居者の一人に少し問題があり、住民の生活がおびやかされ、つらい思いや傷ついた人がいる。それに対する行政の対応はまったくだめで、とても不満が残っているが近くの派出所のお巡りさんがとても頑張って対応に努力してくれた。（66歳、一人暮らし、担当：首藤、西畑）

・今までボランティアが来ても「何かないですか」と訪ねられるのが嫌でいつも断っていたが、今日は腰痛がひどく歩くことも座ることもできず、ホームヘルパーを頼みたいと泣きたいくらい思っていた。誰に相談したらいいかわからず、本当に情けないと思っていたところだったので来てくれてうれしかった。（63歳、一人暮らし、担当：首藤、西畑、井手上）

・震災のために会社を辞め、今までの貯えで生活している。年金がないので働きたいがシルバー人材センターへ行って職を探しても70歳までしかなく、なかなか見つからない。神戸で仕事がなかったら大阪に出て探そうと思っている。（72歳、一人暮らし、担当：武内、脇山、小野）

・自宅の解体の際、十分頼んでいたにも関わらず、突然解体が行われ、思い出の品やまだまだ使える生活用具など何も取り出せなかった。解体時の家主立ち会いもなされず、公費解体なのに60万請求された（勿論払ってはいないが）。むろん、謝罪などは一切なく、ずいぶん心を傷つけられた。（74歳、一人暮らし、担当：武内、小野、脇山）

・近所付き合いが苦手でフランクにできない。公営住宅へ友人が転居していき、「孤独死」を身近なこととして感じてしまう日がある。甲状腺で一時的に失語病となり、肺気腫の手術や静脈瘤、血圧、喘息などの病気を抱え不安を感じている。（74歳、一人暮らし、担当：西畑、首藤、井手上）

・福祉（生活保護）を断って仕事をしたいが、ここから仕事場まで遠く体を壊してしまった。福祉から抜けられない。籠に入れられた鳥のようだ。ノイローゼになることが何回かある。独り言を言いまくることもある。近所の人は頭がおかしくなったと思っているだろう。考えると頭がおかしくなる。こんなこと生まれて初めてだ。（60歳、一人暮らし、担当：東條、佐沢）

・クーラーの掃除を浦口さんにしてもらっている間に健康状態のこと、娘さん、息子さんのこと、仮設のこと、公営住宅申し込みのことなど話して下さいました。その後部屋の掃除とシャワーカーテンの取り替えをしました。身体障害2級ということで体を動かすのが辛そうだった

なので手伝いができて良かった。(一人暮らし、担当：岡、浦口)

8月23日

(記録作成せず)

8月30日

・父96歳の世話で忙しい。1日18時間寝ている。ヘルパーさんに週2回来てもらっている。私自身、目の手術をしたいが父を一人にできないのでそのままである。(60代、2人暮らし、担当：赤西、赤松(由)、小林)

・今年の5月、脳梗塞で倒れ3ヶ月入院した。そのため左足が少し不自由になり、言葉もたどたどしくなった。せっかく復興住宅に当選したが、入院療養のために見送りになってしまった。

(65歳、一人暮らし、担当：赤西、赤松(由)、小林)

・道路の植え込み沿いに住んでいるこの方でさえ草刈りボランティアに来た人達は、市の職員かお金をもらって(自治会から雇われて)いる人だと思っていたようだ。ボランティアとしての気持ちが相手に伝わっていないと思ったら残念でならない。(78歳、一人暮らし、担当：寺野、亀井、寺谷)

・避難所で人の嫌なところをうんざりするほど見てしまったためどの人を見ても容易には信用することができなくなってしまった。ふれあいセンターで皆が集まっているのは知っているが、不平、文句、愚痴ばかり。他人に対する文句に相づちを打つと賛成したことになるので、どうしても足が向かない(本当はお話し好きな方なのに)。政治に何を言っても具体的にフィードバックされたことがない。(65歳、一人暮らし、担当：亀井、寺野)

・ある朝、目が覚めたらムカデが腕に上がっていて2ヶ所刺された。また、ある日電話をかけようとしたら通じず、調べてもらったら野ネズミが上がってきて電話線を咬みきっていた。もうノイローゼになってしまって早く引越したい。震災以降、親子、兄弟が不仲になったとよく聞かすが、突然、一方的に私のところもそうになった。でも、自分にはそうになった心当たりがまったくない。(70歳、2人暮らし、担当：内海、藤原、若菜)

・この仮設の平均年齢は69歳になる。会長も来年5月に引越すのでその後どうなるのであろう。(2人暮らし、担当：内海、藤原、若菜)

・酸素吸入の機器をつけているため、外出が制限されてしまう。(63歳、一人暮らし、担当：赤西、赤松(由)、小林)

・シルバーハイツとか他の公営住宅の状況をその都度知りたいと思います。仮設におりますと精神的に苦痛で、たとえ1日でも良いから晴れ晴れとした気持ちになりたいと誰もが思っています。できるだけ早く配分をしていただきたい。以前、兵庫区にいたので今も地元の病院に通院していますが、だんだん苦痛になり困っています。一人で寂しい。早く住宅に当たりたい。

(75歳、一人暮らし、自筆)

・自宅兼用で一人でお好み焼き屋をしていたが、1階で被災した。パジャマのまま避難したが、2~3時間後に火の手が廻り全焼した。近所は倒れた家が多かったが、自分のところは前年の9月に500万かけ家の補修をしていたのでつぶれなかった。近所の人達だけでも数十人がなくなっている。人に「補修したばかりなのにもらったいなかったね」と言われることもあるが、補修していたからこそ下敷きにならずにすんだ。その金で命を買ったようなものだと思っている。

この間、仮設の盆踊りの練習をした時、浴衣のことが話しに出て自分だけ持っていないことがわかった。震災で失ったことを思い出し、自分の家が全焼したんだということが、また自分の中で蒸し返され何ともやりきれない気持ちになった。そのことを親戚に話したところ、周りに声をかけ2着も届けてくれた。また仮設の人も浴衣を探してきてくれてとてもうれしかった。自分は被災者の中でも周りの人達が本当によくしてくれて恵まれていると思う。時々、先のことを考えると不安にはなるが深刻にならずにすんでいる。(69歳、一人暮らし、担当：田中、谷川、盛本)

・近所との付き合いがないがあまり寂しいとは思わない。と言うがボランティアが来るのを待っていたということなので、本当は誰かと話しをしたかったのだと思う。(63歳、一人暮らし、担当：白岩、青木)

・大手の機械電気工の仕事をしていたが仕事のしすぎで体を壊した。20年前から仕事をしていない。10年前には胃潰瘍で胃と十二指腸を全摘出した。震災直後の病院通い(三宮)は苦労した。現在も週3回通院している。住宅の申し込みはしていない。通院を考えると中央区か兵庫区を希望しているので今のところ申し込むところがない。(64歳、一人暮らし、担当：武内、岡、西畑)

・昨年4/20の訪問時、糖尿病で目が見えなくなり、寝たきりになっているご主人の看病がたいへんな状況と話されていたが、今回さらに病状が悪化して週2回人工透析を受けるようになったということです。今の仮設では(娘さん2人)4人で住むには、夫の病気を考えると狭い。できれば空き家になっている部屋を療養用に貸してほしいと神戸市にお願いしているが良い返事がない。(51歳、4人暮らし、担当：武内、岡、西畑)

・公営住宅に入居する時のたいへんさを皆がどれほどわかっているのでしょうか?100万または45~60万の金は必要となる。また、プライドがあって生活保護を受けようとしたくない人もいる。公営住宅で被災した人は行政が家主なので元のところへ戻れるが、民間で被災した人は家主に再建能力があれば元に戻れない。不公平ではないか。東京や大阪の人に言いたい。住宅は公営に入っていた方がよい。もし、震災になれば神戸より混乱はひどいはず。震災では神戸の底辺の人がやられている。行政がやっているのは貧乏人を無視した政策だ。(71歳、2人暮らし、担当：小林(好)、井手上、矢萩)

・娘が奈良にいていろいろ面倒を見てもらっている。後、今までの貯えで何とかやっているが、65歳になれば年金受給になるのでそれまで持ちこたえたい。垂水の自宅は傾いたままの状態。1ヶ月に一度は見に行っているが、もう年で立て直すのは無理。土地、建物を処分したいが目途が立たない。処分できれば世話になっている姉にお礼をしようと考えている。こちらは知り合いがないので寂しい。本当に寂しい。愛犬がいるので何とかもってこれたようなものだ。(64歳、一人暮らし、担当：小林(好)、井手上、矢萩)

・震災で2階がつぶれ、家族3人3時間半下敷きになっていた。「もうこれで終わりか」と思った。火が回っていたら生きながら焼かれていたところだ。3人とも負傷した。息子は脊髄損傷で1年間入院していた。右足が曲がらないので足を引きずりながら歩いている。震災前は仕事をしていたのに今は無職である。(78歳、3人暮らし、担当：小林(好)、井手上、矢萩)

・母にボケの症状が出はじめ息子2人とも心配している。(3人暮らし、担当：永安、米本)

・震災で家内を亡くす。週末には息子、娘が来てくれる。だが、息子の世話にはなりたくない。不便はないが寂しい。仮設はほとんど空き家だし、夜は静かすぎる。(79歳、一人暮らし、担

当：小野、長崎)

・借家が半壊して解体するので大家に出されたが、その家は修繕されて家賃を上げ別の人に貸していた。半壊の証明しかもらえなかったので65歳以上で公営住宅の5年間補助と言うのが適用されない。(2人暮らし、担当：安永)

・動脈硬化で手がしびれ、心臓発作を止める薬を体に張り付けている。娘さんが明石と西神1丁目に住んでいるので買物など面倒を見てくれるので大丈夫。だが、震災前は朝早く散歩したり近くの友達との付き合いもあったが、ここに来てからはそれほど親しい人もなく暑さもあってあまり出歩くこともない。(79歳、一人暮らし、担当：岡、武内、西畑)

・私は明治生まれの87歳です。地震で家も何もなくなりました。今は仮設住宅で細々と暮らしています。市の皆さん、どうぞ助けて下さい。お願いします。(87歳、一人暮らし、自筆)

・避難所でご主人が糖尿病になってしまった。毎日、同じ食事だった。(81歳、2人暮らし、担当：小野、長崎)

9月6日

・目が少し悪く、耳も遠い。ひっきりなしにしゃべられていた。「やっぱり長田に帰りたいわ」「9月の抽選にかけています」「6軒のうち4軒が空き家になるんや。淋しうなるで」「字が書きにくいので、今まで隣の人に頼んでいたけど、これからどうすればいいのやろ」(81歳、一人暮らし、山本(美)、永田、寺野)

・もと住んでたところの近くに帰れて良かった。そこは私らに(入れる条件が)あうのが、たった3戸だった。どうせやったらと思って思い切って応募してみたのよ。入れるなんて思っていなかった(目も悪く、耳も遠い)。隣より先に公営住宅当たるなんて、市の人はどこに目をつけて選んではるんやろ。(75歳、2人暮らし、担当：山本(美)、永田、寺野)

・妹の方が年金が高く、助けてもらっている。また身の回りの世話を一生懸命してくれる。役所の手続きなどもすべて妹が代わりにやってくれる。とても姉思いである。でも妹が倒れたらどうなるのだろうか、この先や妹の健康のことが思いやられます。一番の願いは、早く市住に当選したい。地震の時、2階が自分の上に落ちてきて、頭を13~14針縫った。足も半年前まで杖を使っていた。びっこは引くが、今は杖を使わずに歩けるようになったと喜んでいて。(75歳、2人暮らし、担当：赤松(由)、赤西、原)

・姉・弟とも障害あり。足が悪いので仮設の外へは出ない。米も頼んで買ってきてもらう。外に出てしゃべるのは苦手で、室内で作業するのが好き。市住に当選し、3月に引越すがその時手伝ってほしい。また引越してからも訪問してほしいということです。(78歳、2人暮らし、担当：赤松(由)、赤西、原)

・ストレスによる脱毛症と狭心症のために病院通いをしている。階段が辛い。早急に市営住宅に当選したい。(担当者のコメント：ストレスや病気など辛いことがたくさんあるのに、自治会長や近所の方々の励ましで、今までやってこれたんだと思う。)(70歳、一人暮らし、担当：西川、盛本、浦口)

・5年前から、足に人工関節を入れている。また早期の肺ガンを克服した。ご主人は大きな病気にかかっているのに、とても元気そうで、奥様と仲良く暮らしている。(74歳、2人暮らし、担当：西川、盛本、浦口)

・土地のことでややこしいことをして、人を長田区に入れんようにしているようだ。西神中央

のバスは、遠回りばかりして便利が悪い。月・水・金に訪問販売が来るが、買物も不便。市長は1回でもいいから仮設を見回りに来てほしい。(74歳、2人暮らし、担当：小波本、木原、青木)

・昨年、子宮ガンの手術をして、体力が持たなくなった(放射線の影響?)。手術の時に胃炎と肝炎も見付き、糖尿病もあった。1日のほとんどを寝ている。家事をする体力がないので、何もしない1日もある。暑い日には特に動けなくて、日が落ちてから買物に行ったり、洗濯をしたりしている。息子がアルバイトをしてるが、自分も早く体力をつけて働きに出たい。(44歳、2人暮らし、担当：小波本、木原、青木)

・8月31日に退院。肺を取った。緑内障でもある。トイレの段差で足を打つ。「年取ったら足上がったようで上がってへん」「誰かいたらいいが、一人もんはつらい」。買物は近所の人についでに頼むより他ない。洗濯とかも頼んで。みんな地震でつらい目にあってるし、わかりあえるから助け合ってやっていける。西神というまったく知らんところに来て心細かったが、慣れたら西神がいい。気管が悪いので、街は車が多くてあかん。近所の人も住宅に当たり、いなくなるので不安。これから一軒二軒とポツンと残されるとつらいし、生きていけん。「一度、総理大臣でも何でもここに来て暮らしてみたらわかるねん」と怒っていた。(担当者のコメント：退院されたばかりでしんどそうだった。咳き込むと息が切る。家の中のことをいろいろするのはつらくたいへんだと思う。甘えたいし、いろいろしてほしいと思う。本当に一人はつらいと思う。)(72歳、一人暮らし、担当：長船、加藤(純)、佐沢)

・西神南の公営は500戸あるから皆は入れるというが、駅までの距離を思うと……。透析はすごくしんどい。すんだ後、疲れて帰れなくなる(週2回、5時間)。だから通えない公営には行っても仕方ない。10分歩いただけでも死にそう。ここで頑張ってるのも一人ではようやらん。透析やって命は長引くけど、長生きしていいんやろか?。もし通えない住宅に入って、タクシーで通院するとしたら……。元気なら西神南のサラの住宅に入れてもろうて、ケッコウな話しやけど。その話しに乗れない私は情けない。安いし、いい住宅らしいのに……。小さい10坪の住宅では、再建しようにも家にならん。地震がうらめしい。持ち家で死ぬまで居れたのに……。住宅当たらんからといって、首くくるわけにいかんし。運のいいもんとかかんもの違いと言えればそれまでだが。地震でこけてしもうた。死のうと思ったけど死ぬ気になれなかった。死ぬ人って案外元気な人かもしれない。(担当者のコメント：気丈にしてるけど、時折漏らす言葉にしんどい気持ちににじんでいる。握手した手がとても冷たかった。透析後は血圧が40くらいになるそう。貧血がいつもらしいです。なんでこんなに体悪くなっちゃうんでしょ。)(78歳、一人暮らし、担当：佐沢、長船s、加藤(純))

・若い頃から、リウマチで苦しんでいる。最近は腰も曲がってきて、水を飲むと食道の途中で詰まる感じがして、いつまでたっても胃に入っていない。「骨が弱いんやろな」。痛みのひどい時は横になることにしてる。でもこの痛みは誰にもわからない。こんな身体で長年コツコツと築き上げたものを地震で根こそぎ奪われた。(66歳、一人暮らし、担当：山本(美)、永田、寺野)

・寝たきりの父(96歳)を介護してる。ヘルパーは神戸市民福祉振興協会から来ているが、買物で2時間だけ。もっと長期頼みたいが、協会では2日までしかこれないと言う。眼の手術したいが、家の面倒を見てくれる人がいない。世間では高齢化社会というが、世話する人があってこそ成り立つ。介護する人が倒れてしまうようでは成り立たない。母親は地震前に93歳で亡く

なる。介護でたいへんだった。両親の介護疲れで、背中・腰・足など悪くなった。犬を2匹預かっているが、朝の散歩がたいへん。アルバイトで散歩させてくれる人がいれば、お願いしたい。朝6～8時頃（かなり大きな犬）。うち1匹は愛護協会に里親探しを頼んでいるが、なかなか見つからない。父は動けないだけで頭はしっかりしている。今は介護疲れで、母親の仏壇に「早く行かしてほしい」と祈っている。（67歳、2人暮らし、担当：矢萩、木村（俊））

・バスの行き先が見えない。両眼視力低下（糖尿病のため）。自分でインシュリン注射を打っているけれど、目が悪いので打ちにくい。保健婦さんが月1回、血圧測定に来る。（65歳、一人暮らし、担当：矢萩、木村（俊））

・土地は借地で家は自分で建てていたが全壊し、人生の生活設計が狂ってしまった。パート勤め（3時間）で生計を立てている。朝5時起きで三宮まで仕事に出かけて、午前中（9～10時頃）に帰ってくる生活。朝は駅まで20分かかって歩くのはつらい。仮設住宅では自分の性格が引っ込みタイプなので、あまり親しい友達がいない。（64歳、？人暮らし、担当：林、井手上、西畑（み））

・弱視のため見えにくいですが、足は大丈夫。だが杖を使っている。小鳥を飼っていたが去年の夏、あまりの暑さにこれでは鳥がかわいそうと思い、鳥好きの友人に預けた。最初は寂しかったが、今では近所の犬を散歩に連れていったりする。（77歳、一人暮らし、担当：伊藤、谷川、喜多山）

9月13日

・足が不自由。静脈瘤に苦しんでいる（そのため、クーラーは使いたくない）。ヘルパーさんは週3回来てくれるが、兵庫区に友達が多いので、早く帰りたい。お隣が孤独死だった。私がすぐ発見したがだめだった。いい付き合いだったのに。一日がつらい。寂しい。（71歳、一人暮らし、担当：藤井、白岩、田中（善））

・何らかの事情で他の仮設から移ってきたようだ。健康状態は血糖値が高く、病院に通っているとのこと。住宅については、応募するけど、まずは高齢の方たちを先に入れてもらって、自分は後1年くらいはこのままの生活を覚悟しているということです。（39歳、一人暮らし、担当：丸笹、小林（好））

・心臓病で通院。足も手術後、毎日リハビリに通っている。家内は血圧が高い。早く住宅が当たればと願っております。民間住宅をと思いましたが、年金生活では高くて市営住宅を希望しております。（自筆）（担当者のコメント：夫婦2人でそれぞれの身体の痛みや不安はずっと抱えていらっしやいますが、自分が倒れたら相手がたいへんだろうという気持ちがあって、それが自分を奮い立たせているみたいです。）（84歳、2人暮らし、担当：小林（好）、丸笹）

・元住んでいた家は他の家族に譲った。元のところへ行くと息が詰まるので、もう帰りたくない。ふれあいセンターで毎日ラジオ体操をしている（安否確認のため始めた）。鉄アレイで運動不足にならないようにし、また自転車で走り回っている。普段退屈しているから、人が来たら楽しく良く話しをする。（72歳、一人暮らし、担当：小林（好）、丸笹）

・今はとにかく働くしかないなので、気が張っていて元気です。今まで24万円の援助金を受けただけなので、もっと援助がほしい。行政は何かと理由をつけて援助金を出さないようにしているみたいだ。（70歳、2人暮らし、担当：清重（智）、青木、長）

・神戸で働いていたが（タクシー運転手を23年以上）、定年のため今は休んでいる。失業保険

の計算の対象にされたのが、震災で暇になった時の3ヶ月間の所得だったので、額が少ない（147,000円）。これと年金8万円以外の収入がないのに、高額な国民健康保険の支払い請求が来ている。払っているが、医療費の支払いなどもあり生活が苦しい。（61歳、2人暮らし、担当：清重（智）、長、青木）

・老人性うつ病で病院に通っている。家が当たらないので不安。また娘3人は遠いところに住んでいる。睡眠薬をもらっている。食べ物がおいしくない。（担当者のコメント：精神的なもののから胃を悪くされているようで、やせすぎているように見受けられる。点滴を受けるか、入院された方がいいように思える。心配だ。）（81歳、2人暮らし、担当：山本（美）、小野、長崎）

・ご主人は入退院の繰り返し。30年前から病院に通っているが、3年前に肝臓ガンを宣告された。最近も1ヶ月入院していた。ご飯はおいしく食べられるが、時折体がすごく痛む。投薬によって40度近くまで発熱する。奥さんがあたりの野菜を摘んできて、煎じて飲ませてくれる。「体に良いと聞いたことは、何でもやってくれる」。手術も3回くらいして、今も点滴用の針が手の甲にさしてある。（担当者のコメント：自分ほど呑気な人間はいないと言われ、根が明るい方だという印象を受けた。だからガンでも前向きに暮らせるのだろう。）（83歳、2人暮らし、担当：盛本、内海、石田）

・この仮設に来る前は加古川の仮設にいたが、隣の人が酒を飲んで血を吐き亡くなったので、住み替えをしてもらった。今回公営のワンルームが当たり近日中に引越しできるが、ワンルームのため水屋（食器棚）などを捨てて行かないと入居できない。（70歳、一人暮らし、担当：杉谷）

・被災2ヶ月後に避難所を出て、名古屋の親戚に世話になった後、6月入居。戻ってきてから元の場所にプレハブの店を建て、酒屋を再開した。お客さんは少なくあまり儲からないが、主人もこれが生き甲斐になっている。主人は平日店に寝泊まりし、休日帰ってくる。私は夕方5時前に店に行き、立ち呑みのお客さんの食べ物を作る。常連は十数人ほどだが、大事にしていきたい。借金をして店をやっているの、今までかけていた生命保険を解約してしまった。支払いがたいへんなので。（72歳、2人暮らし、担当：盛本、内海、石田）

・住宅が当たった。やれやれですね。ここの人はいい人ばかりだけど、いつまでもここに居るわけにはいかないし……。良かった。あさって誕生日なので無料パスがもらえる。無料パスを使っていろんなところを探検しようと思っている。未来が決まっているという安心感あり。（69歳、2人暮らし、担当：谷川、加藤（純）、長船）

・母（95歳）は、地震後体が悪くなった。発作で2回倒れ、足・目・耳が悪くなる。今では言うこともできず、ベッドの上にいる。外へ仕事に出たいが母がベッドから落ちたり、3日に一度一日中寝ないので、看病についていなくてはならない。内職もいろいろ当たってみたがない。公営住宅は申し込んでも落ちてばかり。どうしようもないから仮設にいる。震災直後から比べると役所の対応も変わってきている（いい加減自立したらと言う態度）。母親のことを置いて自分のことだけ考えられない。母親に寂しい思いはさせたくない。母から「元のところに帰ろう」と言われるのがつらい。復興している様子を見て、自力でできる人はいい。私らはどうしたらいいのかと寂しい気持ちになる。（49歳、2人暮らし、担当：矢萩、杉谷）

・震災で新築間もない自宅が全焼。地震で建物自体は損傷なかったが類焼した。主人は地震直後に近所の人々の救助に行っていた。焼ける前に私（奥様）は、家の権利書や図面・印鑑の入っ

た引き出しを……。娘は布団を持って逃げた。震災後、家のローンのことで電話がジャンジャンかかってきてたいへんだった。今でもローンを返済している。自宅の跡地は仮設になっている。土地を貸す時、市ともめた。市からは毎月3万円振り込まれている。跡地には仮設に毛の生えた程度の家でも再建できればと思うが、市住も申し込んでいる。どうしようかと迷い、頭が混乱している。この2年間、家のローンや娘の結婚のことなど心身共々たくたに疲れた。先月末頃、目に黒いクモの巣のようなものが見えたので、病院に行ったら神経がやられているとのことだった。安定剤を服用。体質もアレルギーになり、草刈りで腕に炎症が起きる。また仮設に来てから体が動かなくなり、寝ても起きても体が痛い。でも自治会が良くやってくれるのでうれしい。(63歳、2人暮らし、担当：杉谷、矢萩)

・生活保護が震災後打ち切られた。お話しを伺うと九州に土地がある様子。ただし、打ち切られた原因がはっきり分からないとのこと。一度市役所に出向いて原因をはっきりさせることを勧めた。現在、生活費は九州の資産を売却したという設定で、大阪の知り合いから借金しているが、でも間もなくその人からも借りられなくなるとのこと。ご主人は胆石、20年前から右腕・右手がしびれ、動きにくい。奥さんは気管支炎で、通院に交通費・医療費がかなりかかる。また、神経過敏になり夜も眠れない。公営住宅の申し込みもほとんどされていない様子。(68歳、2人暮らし、担当：井手上、吉村、清重(直))

・息子さんは震災で職を失い、今は1時間800～1,000円の在宅看護の仕事をしている。定期的に仕事があるわけではないので、収入が不安定。(？歳、2人暮らし、担当：井手上、吉村、清重(直))

・母親が狭心症の上、肺を手術しておりしよつちゅう病院にお世話にならなければならず、救急車を頻繁に呼ばなければいけないのがとても心苦しい。近所の方々に迷惑をかけるので、深夜タクシーがあれば教えてほしいとのこと。(72歳、2人暮らし、担当：井手上、吉村、清重(直))

・前回の支援シートから生活保護の話をしたところ、「被災後申請に行ったが、13坪の土地があったために断られ、市にその土地を売った。もう行く気がしない。今は年金(43,600円)と土地代金の残りで生活しているが、それももう少ししかない。それが全部なくなったら、もう一度申請に行くつもり」という話だった。(76歳、一人暮らし、担当：藤原、佐々木)

・仮設に住んでいる人は低所得者が多く、病気になっても病院に行けない人が多いと思う。半分でも国が見てくれたらと思う。(以上本人自筆)市長選……「ろくな者がおらん。今言っても聞いてくれへん」「選挙でこれはと思って入れても、党同士がひつつくから一緒」「前科者が政治家に居座られては……」等と不信感を感じるが、選挙に行くと……。家は再建の目処がついた。築90年で「建て直さなアカン」時壊れたのは確かだが……。でもその後のローンがづらい。(80歳、息子と2人暮らし、担当：谷川、加藤(純)、長船)

・医者代が上がって「医者に行くのは止めとこと思うけど、行かな仕方ない」と困っておられた。「寝込んだら困るし……」時間もお金もかかる。(66歳、2人暮らし、担当：谷川、加藤(純)、長船)

・震災後、岡山の山陽団地(県住)に居たが、ここへ移った。「山から山へだ」。やっぱり神戸の方がいいと思い、仮設へ申し込んだ。山陽団地は不便すぎた。JRの駅まで出ないと何も無い。バスを乗り間違えたらどうしようもないところじゃ困る。仮設は一時しのぎのハズ……。それを承知で入ったのに、いつまでたっても出られない。目はともかく、足や手はしびれても

うあかん。「なるようにしかならんのやから」としか考えられへん。手の打ちようがない。「この国で長生きしたらたいへんや。本当は住みやすいところなのに」。歯茎がなくて話しにくい。食べにくい。入れ歯はすぐ取れる。(74歳、3人暮らし、担当：加藤(純)、谷川、長船)

・最初「話すことはない」と固辞されていたが、去年のシートを見て生活保護を勧めに来たと来意を伝え、話してもらった。国民健康保険なし。未納のため取り上げられた(?!)。すこやか福祉手帳を出し「一人だから……」を繰り返している。わずかな年金で始末して生きている。1日あたり2,000円。「どうやって生きてんねん」と尋ねると「ちょびっとしか食べんと我慢してる」。生活保護の資料を見せたら「9万もろうたらエライことや。そんなにもらったことはない。どないやっても。一人暮らしやから」と……。息子の荷物を置いている。全壊のためか車で寝泊まりしているらしい。だから実質一人暮らし。神戸市のエライ人(担当職員らしい)によく話しを聞いてもらう。「困ったら言ってくるよ……」と言っていたと言う。(73歳、一人暮らし、担当：加藤(純)、谷川、長船)

・前会長がボランティアを断っていたため、この仮設にはあまりボランティアが来ていない。主人は自分の仕事そっちのけで、仮設住民の世話を奔走している。公営住宅を申し込むつもりだが、でも当たったら仮設のことが気になって仕方なくなるだろうと。奥さんはパートに出たいと思っているが、西神中央付近では、年齢制限が厳しくて雇ってくれない。(66歳、2人暮らし、担当：井手上、吉村、清重(直))

<若菜麗子(支援シート編集担当)の感想>

まず、ほとんどの仮設の方が、会長さんや役員の方の頑張りに感謝されているのにうれしく思い、安堵しました。でもその方たちでさえ、どうにもできない現実があります。特に最近気になるのは、在宅介護の問題です。ホームヘルパーと違い、毎日1日のうちに何回か周期的に回ってきて介護してくれる人が必要です。そういう人達の協力があって介護が楽になる。介護者が入院・通院できる。仕事を探せるという状況が作られると思います。現在、神戸市(他の被災地でも)ではその体制が作られていません。人手不足・財政難でたいへんなことと思いますが、地震によって浮き彫りにされた高齢社会の実態!!。

日本の未来像(被災地)に新たな政策を考え、日本の高齢社会を牽引する役目を果たしてもらいたいと思います。頑張ってください。神戸市職員・兵庫県職員・知事・市長そして橋本龍太郎首相!!。

みんなが見てます。待ってます。

9月20日

・(前回渡した老人福祉資料の確認)まずショートステイは無理。一度行ったことがあるが回りをバカにする言葉を言ってなじめなかった。(痴呆老人も一緒のため)区のふれあい安心の電話番号を教える。犬2匹のうち1匹は仮設を出ていく方がもらってくれるがもう1匹が……。前に保健所へ連れていったことがあるが、その後つらかった。できるだけ連れていきたくない。

(96歳父、67歳娘、担当：東條、佐沢)

・(直そうとして壊したポットの件)現在その都度お湯を沸かしている。あまり大きなものは

いらないとのこと。近日中に代わりの小型ポットを持っていくと伝える。(75歳、一人暮らし、担当：東條、佐沢)

・土地の借地権を持っているが、家を建てるだけの資金がない。だが地代だけは毎月払い込んでいる。息子は遊び人でありあまり仕事をしないが、器用でいろんなものを作れる。だが一定収入がない。(75歳、2人暮らし、担当：永安、佐沢、清重(直))

・軽度の知的障害を持っているので、現在しあわせの村に毎日通っている。名谷までバスに乗って。行き帰りとも付いて行っている。(お母さんが)今は毎日喜んで通ってくれており、元気になってくれた。公営住宅は施設への通いを考えると、交通の便の良いところを希望する。ただ転居すれば人間関係が新たになり心配。今、隣近所の方々が良い人でいろいろ世話をしてもらっている。公営に転居してもボランティア訪問してほしい。(68歳、2人暮らし、担当：西畑、向井、石田)

・寝たきりのお母さんが、ベッドから落ちるとのことだったので、市から給付(本人負担0円、定価22万円迄)される電動モーターつきベッド(横のサク込み)のカタログを用意し訪問したところ、すでにサクつきの介護ベッドを使用していると。しかし、お母さんに痴呆の症状があるらしく、それで時々おかしくなってベッドから落ちるらしい。介護の本を2冊ほど買って読んでいるとのこと。寝たきりのお母さんの足首を持って、両膝が頭に向かうように体を曲げると食欲が出て床ずれがなくなり、痴呆らしきものも減少(新聞記事)を紹介したところ「毎日やってあげたいが、自分自身も腰が痛くてやってあげられない」とおっしゃっていた。(85歳、2人暮らし、担当：西畑、向井、石田)

・訪問したが留守だったので、前回相談された救急患者移送可能なタクシー会社と公安委員会公認で24時間営業のタクシー会社を書いた手紙をポストに入れた。(？歳、2人暮らし、担当：清重(直)、永安)

・1日2000円で暮らしているとのことだったので、生活保護の専門家が近日中に詳しく説明に来ることを伝えに行ったところ、息子さんが居られた。以前同居の59歳の方は今はいらっしゃらず、お母さんが介護されていたようである。また生活保護は今受給しているが、支給を辞退して今後は今日居られた息子さんが生活費をみるとのことであった(?)。本人留守のため、それ以上話せなかった。(73歳、一人暮らし、担当：西畑、向井、石田)

・最近、いところが自殺したのがショックで精神的にまいっている。市営住宅に住んだとしても、仮設に住んでいた方が人とのふれあいがあつたと思うのが不安。人との付き合いがなくて孤独になるのが……。 (60歳、一人暮らし、担当：清重(智)、藤原、赤西)

・震災後、避難所に3日間救援物資が来なかった。水も隣の人と半分ずつ分けなさいと言われてたが、一つの容器に入っているものをどうやって分けるのか?。周りで夫婦の話し声が聞こえると、自分が一人なので寂しくなり、避難所を出たらお見合いしてでも結婚しようと思った。また震災後、しばらくの間はガラスの音が耳から離れなかった。公営住宅の申し込みだが、「収入基準」の中の「政令月収」について<例>が書いていないのでどう算出してよいのかわからない。(59歳、一人暮らし、担当：脇山、杉谷、青木、田中(康))

・市営住宅を命綱と思って賭けている。主人は65歳だが、いまだ働かなくてはならない。個人年金をかけていたのを、途中で国民年金に切り替えた。25年かけないともらえないので、7年分一括払いした。地震で何もかもなくなって残ったのは年金だけ。かけておいてよかった。主人は朝、西神中央まで1時間半かけて歩き、帰りはバス(朝早い時間のバスがない)。(65歳、

2人暮らし、担当：小波本、白岩、矢萩)

・夫婦ともパートで生計を立てている。奥さんは三宮で清掃パート。詳しくは聞かなかったがご主人の仕事は、場所が一定していないとのこと。奥さんは以前クモ膜下出血で長期入院。「今度倒れたらもうアカン」と医者から言われている。ご主人は足が悪く障害3級、関節に金具を入れている。寒い時はいつもうずくとやっている。(62歳、2人暮らし、担当：矢萩、小波本、白岩)

・競輪で大穴が当たった(350万)こともあり、家族とはバラバラになった人生にしてしまったのは、自分のせいと反省。7人兄弟の3番目で、私は良くない人生を歩いてしまったと。今は毎日1時間歩き健康管理をしている。(71歳、一人暮らし、担当：小波本、白岩、矢萩)

・近所の方が良く面倒を見てくれる。姉が近くにいるが、その側の住宅に当たってほしい。耳がとても悪くて、補聴器をつけていないと全然わからない。目も少し悪いので夜になるととても不安になる。(？歳、一人暮らし、担当：井手上、川口、浦口)

・糖尿病だったが、自己管理で血糖値・血圧とも正常。空き家の「広告のたまったポスト」の中へ放火されるのが心配。最近は特に空き家が増えていて心配も増している。また電気や水道を止められて生活できない人達もいる。生きていけない人達がいる。亡くなってしまう人達が実際にいる。行政に死を止めるくらいの力はあるはずだ。底辺で生活している多くの人々のことをもっと知ってほしい。(58歳、2人暮らし、担当：南口、長崎)

・無職・病気療養中です。両目網膜剥離裂孔。治療したが再発。水晶体にも混濁があり、現在左0.4、右0.2。時々症状がひどくなり人の顔もわからず、文字の判読もできない状態になったりする。その数日・数週間が一番困る。目にショック・振動を与えないよう大事にして生活していくしか方法がありません。(57歳、一人暮らし、自筆)

・震災当時の病気で、今も元住んでいたところへ通院。かかりつけの病院へ行きたいので……。30年同じところに通っている。「公営住宅は病院の近くがいい」と元の場所にこだわる。(70歳以上、一人暮らし、担当：亀井、長船、真田)

・仕事先が神戸。ガソリン代と高速代がかかるので(自分持ち、日給制、保険・ボーナスなし)加古川仮設から転居(市外用の仮設住宅募集を見て)。親戚の家に避難していたが、加古川仮設に入居するのに一年かかった。加古川I.Cの近くで工場だらけ、車がないと外出不可能だった。今歩いてダイエーとか行ける分まし。夫が震災当時(3ヶ月)仕事がなかったので苦勞した。住居が決まらないと生活の計画が立たない。仮設では閉じこもりがちになる。精神的に落ち着かない。近所付き合いはあまりない。去年入ったのでここのやり方がわからずそのまま……。ガス・水道が使えないので(生活費が余計にかかる)、出来合いのものになる。市営住宅に当たっても敷金・家賃30万(知人の話し)はしんどい。まとまった金がない。(30歳、2人暮らし、担当：真田、長船、亀井)

・1ヶ月前から畳が持ち上がり、踏むたびにキィキィ音がするので困っているとのこと。畳を上げたところ、床板がせり上がっていた。サラダ油を板に塗り、音は小さくなったが畳自体は浮いたまま。住宅供給公社に依頼するよう勧めた。(60代、一人暮らし、担当：白岩、矢萩)

・全壊だったので、当日家にいたら1階で死んでいたかもしれない。震災前はアクセサリー販売をしていたが、地震で廃業。中国や台湾から安いのが入ってくるので、再建は無理と思った。その後タクシー運転手をしていたが、深夜の仕事なので今年6月からはマンション管理人をしている。市営住宅に当たっても、今の給料(手取り14万円)ではやっていけない。家賃も払え

ない。来月くらいから日曜だけでも、タクシー運転手のアルバイトをするつもり。家族（奥さん・娘さん）で住みたいが、収入が多くなってしまいうので無理。矛盾を感じる。市住は一人で申し込むつもり。「孤独死する人の気持ちは良くわかる」と言っておられた。（56歳、一人暮らし、担当：小波本、白岩、矢萩）

・涼しくなってきたけど、体の調子もそんなに良くない。これまで行きたいと思うところがなかったの、住宅は申し込まなかった。だが今度は以前住んでいた近くに建つので申し込むつもり。東神戸の病院に通いたいが、交通の便も悪く交通費が高いから（5000円かかる）全然行けない。もう体のあちこちが悪い。白内障も進んでしまう……。 （65歳、一人暮らし、担当：小山（秀）、耕、加藤（純））

・（仮設内で呼び止められ）…土地はあるが息子さん名義になっていて、売るに売れない。生活保護を受けたい→被災者連絡会に連絡済み。話しを聞くと裕福で無理のよう（6/21、6/28 支援シートから）

須磨に住んでいる娘さんが生活の面倒を見てくれている。須磨の老人会には行っており、時々出かけるとのこと。これからも子どもに面倒見てもらうために、利便性の良いところに住みたい。引越しボランティアの情報を知りたい。（80歳、一人暮らし、担当：西畑、石田、向井）

・（仮設内で呼び止められ）…夜の一人歩きが怖いと。（6/21支援シートから）

家に閉じこもっているのがつらい。一刻も早く長田の方の恒久住宅が当たって、靴の仕事を開きたい。とにかく住宅が当たらないと、何も始まらない。仮設には何もするが起らない。（65歳、一人暮らし、担当：瀬戸、寺野、浦口）

9月27日

・30万円の義援金は、95年11月の時点でもう期日が過ぎていたからと言うことでもらえなかった。役所とはケンカのし通し。仮設がなかなか当たらず、申込書に眼科医の証明書を貼って出すと、やっと当たった。娘親子は母子家庭で仮設が当たらず、せめて孫（中学生）だけでも仮設で預かりたいと役所へ願い出た。しかし聞き入れられなかったばかりか、「仮設ばかりもらいに来んと、家探せ」と若い職員から返された。役所の人間は心がない。冷たすぎる。昔は大きなクラブを経営していた。役所の人間や当時とても良くしてくれていた市議員なども、今となってはまるで手の平を返したように知らんぷり。人間落ちぶれたらだめ。（68歳女性、一人暮らし、担当：米田、盛本、亀井）

・「仮設の住民も自立せなあかん」「地震がなかったらもっと悲惨な生活をしていた人もいたはず。ホームレスで助かっている人もいるし」（担当者のコメント：震災で逆に救われているかもという発想は新鮮だった。）（62歳女性、一人暮らし、担当：米田、盛本、亀井）

・仮設での孤独死の問題をどう考えて居られるのか。健康上の問題だけでなく、その奥に（1）経済上の悩みから将来を悲観し、生きる意欲を失い、悩み抜いた結果病気になる、金もないから医者へも行けず……。たとえ治っても将来がないから死んだ方がましだとなる（2）あるいは悩んで寝られぬからヤケ酒飲んで、アルコール依存症になって孤独死していく（3）このまま生きていても金もなく将来のあてもなく、たとえ息子があっても建てた家の二重ローンに追い回され、親を見る余裕もないという中での孤独死（4）商売を息子に譲ったが、お客が今までの半分もないので四苦八苦。親を助ける余裕がないことは目に見えているので、無理は言ぬと将来を悲観しながらの孤独死。今現在でも仮設にはこういった人がかなり居られるのではな

いかと思われる。孤独死の人が生活保護者であったか否かは知らぬが、《経済の事情が悪いと思われる仮設の人の状況を、一軒一軒聞き、これはと思われる人には生活保護手続きを取れるようすべきではないか。また近隣の人々にも聞き、これはと思う人に適切な処置をお願いしたいのです。福祉課・ボランティアの人々をお願いします》ボランティアと言って一週間に一度か10日に一度、電話で異状ありませんかと安否確認しているくらいでは役に立たぬ。私のような健康者には却って迷惑（受話器を取らねばならぬから）と言って何時倒れるかわかりませんが？。（87歳男性、一人暮らし、自筆）

・車も家も工場もすべて焼けた。また地震が来ると怖い。地震があったあの頃のことは、もう何も覚えていない。（70代女性、一人暮らし、担当：矢野、加藤（純）、長船）

・妻が台車を押して買物に行くので、段差があったりエレベーターを設置していない公営住宅はだめ。だけどエレベーターありでも階段が3段ある。それがネック。また入居した時、私たちは補助があるけど、前から入っている人には「なんで……」と思われることだろう……。 （80歳、2人暮らし、担当：加藤（純）、矢野、長船）

・前回訪問時（96年3月30日）、奥さんが糖尿病の治療中で板宿まで痛みをおして通院しているとのことであったが、今回訪問したところ、あれ以来症状が悪化して糖尿病の合併症を起こし、今年の2月に西神医療センターで右足を切断手術。3月に心臓を悪くしペースメーカーを埋め込む手術を受け、目も悪い状態になっていた。現在ご主人も腰痛で検診を受けているが、収入の関係で仕事は無理して行っている。娘さんも勤めに出かけているので、昼は奥さんが介添えもなく身の回りのことを足をかばいながらしている。義足がなじまず十分歩けないとのこと。前回玄関の段差を何とかしてほしいとの要望については、自分のベッドのそばの手すりを市でつけてもらったが、玄関にはスロープはなかった。昼間の一人での生活はたいへんな様子で、公的な介添えはできないものかと思う。（64歳、3人暮らし、担当：西畑（稔）、浦口、内海）

・震災後、近くの自治会館に100人程度避難していたが、区会長より早く退去するよう言われた。その時主人がまとめ役となって、地元市議員に相談に行ったりして、全員を仮設住宅に転居できるよう奔走した。そのため肝心な自分の仕事ができず、勤めを一時的に断念していた。その後この仮設に移ってきたが、市内の日雇い仕事に行くのも遠くなってしまい、月15日くらいしか働けずきつい。早朝5時起きで働いている。早く兵庫区の公営住宅に当たって、そのしんどさから解放されたい。震災後、家財道具や毎日の生計で今まであった貯えを使ってしまった（奥さんは両膝がリウマチで座れない。自宅で温水リハビリをしている）。（56歳、2人暮らし、担当：西畑（稔）、内海、南口）

・畳と畳の間にすき間ができ、指が入る（最初は何ともなかった）。困ったことがあった時市に相談したが、県にしろと言われ、県に相談すると市にしろと市や県はまったく動かない。北区・西区・須磨区（名谷）に新しくできる公営住宅は交通が不便で坂があり、若い人で車のある人しか住めない。主人は「人に頼らず、自分らでやることはやる」と言い続け住民でできることをやっている。（担当者のコメント：ボランティアで話しを聞くだけで本当に何ができるのか？。住民が困ったことや問題になったことをメモして報告するだけで終わりと言うのはだめだと思うし、住民の気持ちに配慮られるようにした方がいいと思う（草刈りや引越しの手伝いetc）。仮設のことやそこに住んでいる人達のことを行政や一般の人達に考えさせてほしい。）（63歳、2人暮らし、担当：藤原、橋元、西川）

・寝たきりの奥さんは人工透析のため、8月11日から入院されていた。透析を1日4回受けてい

る（9月30日退院予定）。ご主人は奥さんの看病をしなくてははいけないという思いで、気が張っているとのこと。震災の時は2時間以上体を動かすことができず何とか助かったが、もう30分遅れていたら焼け死ぬところだったと。退職金で建てた家を一瞬にして失い、思い出（写真）もほとんど残らなかったと言われていた。（74歳、2人暮らし、担当：白岩、西畑（律）、青木）

・震災前まで50年間お花の先生をしていたが、今は個人的に手芸をしている（新聞の切り抜きや牛乳パックなどで）。朝は4時半～5時くらいに起きて、心の中に浮かんだことをすぐ実行するようにしている。少し落ち込んでいるなど感じると「自分をしかって」立ち直るようにしている。（86歳女性、一人暮らし、担当：白岩、西畑（律）、青木）

・震災時、3階建ての鉄筋マンションが倒壊。何かの下敷きになり背骨を骨折。すぐ入院できず避難所から週2回の通院で治療を続けた。その後遺症か、近頃足がしびれてきて心配している。今まで4回公営住宅に申し込んだが当たらない。最後まで当たらないのではとの不安が先に立って、体に影響している。仮設住宅の多くの人は夏の耐え難い暑さ、冬の隙間風の寒さで健康を害してきており、もう限界である。行政はこの実態を把握して一人住まいの年老いた方から優先して入居させるべきである。仮設住宅の壁の隙間が大きくなって来たので、市に修理を依頼したが係らしい4人が来て、何の対応もせず、辛抱しろと言わんばかりの態度で帰った。知人を介して市住宅課長に掛け合い、やっと直すといったやり方に不満を感じる。（69歳、2人暮らし、担当：西畑（稔）、浦口、内海）

・兵庫区役所は地震の後、対応がものすごく悪かった。現在元いた場所に自宅を建築中。元家主と借家人の間柄であるが、男2人で同居している。17年間の付き合いである。私（家主）が、Aさん（借家人）の世話をしている。Aさんは15年前から入退院の繰り返しで仕事ができず、両親とも絶縁状態。生活保護を受けている。私はアパートがつぶれて収入がない。老齢年金のみで生活している。家の再建など様々な法的手続きをどこに相談していいかわからない。（73歳、2人暮らし、担当：大滝、亘）

・家を買って10年目で被災。もう再建する資力がない。主人は水汲みでぎっくり腰、骨が砕けている。ストレスで肝臓も悪く、食欲なくやせている。名谷の病院へ通っていたが、フラフラでほとんど歩けず、今は近くの病院で毎日点滴を受けている。私は心労がたまってきた体調が良くない。糖尿・慢性腎炎。1日も早く公営住宅に入りたい。空き家ばかり申し込んでいるが当たらない。空き家募集はたくさんあるのにおかしいと思う。なぜ当たらないのか？。隣は4人家族、家を再建されたので週に1回くらい仮設に戻ってくる。（68歳、2人暮らし、担当：大滝、亘）

・東灘への移転が決まり、もう荷物も運んでいた。奥さんはもうそっちに移ってヘルパーさんのお世話になりながら生活している。自分もそっちに移ろうとしていたところに“心筋梗塞”で倒れ、2回の入院。無理のできない体になってしまった。今は家の中を動くだけでも苦しい状態。（担当者のコメント：「引越しボランティア」に電話しました。詳しいことは今日の夕方方向こうから電話が来るそうです。後は残りの分の荷造りだけなので、早く引越して奥さんと一緒に暮らしてほしいと思った。これから寒さも厳しくなるので、仮設での暮らしはもっと体に悪いはず。荷造りくらいなら手伝いますと伝えてあります。もしもその日空いている方がいれば、どうかご協力を。生きてほしいと思った。生きたいという気持ちと思うように体が動かないもどかしさが伝わってきた。）（67歳、一人暮らし、担当：岡本、寺野、山本）

・腎臓が悪く通院中。年なのでこれ以上悪くならないよう薬と検査で何とかやっている。息子

は鉄工所を経営していたが、震災で焼失。ショックでしばらく働けなかった(幸い借入金なし)。今も仕事を探しているが、なかなか合う仕事がない。50歳過ぎて今さら畑違いの仕事はできない。今のところ遊び癖がつけいて、何言っても聞かない。体が悪く、息子に面倒見てもらっているので強くは言わない。(担当者のコメント:収入は年金と貯金だけなので生活保護を勧めてみたが、「息子がまだ働ける年なので」と言っておられた。)(70代、2人暮らし、担当:岡、井手上、矢萩)

・震災による都市開発に引っかかったある地域では、その再開発ビルに入居できる(しかも抽選なし)。それだけでなく、その人達に限って焼け跡に作られた地域型仮設住宅に無条件で入れた。一方その地域から少しでも外れたところに住む人達には、何の恩恵もない。ましてやあちこちの仮設にバラバラに入れられた。いくらなんでもこの差はひどすぎる。都市再開発はわかるが、矛盾を感じる。今回腹の立つ話を聞いてもらえてありがたかった。当たらなければこの仮設で死ぬまで!!。(69歳、2人暮らし、担当:林(和)、羽田、脇山)

・半壊だった。いろいろ直して住んでいたが、いよいよ危険だということで去年5月に入居。西神南の市営住宅に1回で当たったのがうれしい(来年1~3月に入れる予定)。(?歳女性、一人暮らし、担当:林(和)、羽田、脇山)

・奥さんは障害3級。両目とも見えない(0.03~0.04)。網膜剥離でその後白内障の手術も受けたが、回復せず。夜は歩けないので外に出ない。病院にはご主人が付き添いで行く。「衣・食・住で住は大切なもの。住めるところを1日も早く確保してほしい」と。震災後4ヶ月避難所にいたが、奥さんは団体生活に慣れていなかったもので、ショックが大きかった。仮設に来ても毎日泣いていた。が今は……友達もできたとのこと。(72歳、2人暮らし、担当:岡、井手上、矢萩)

・心臓が悪くて足が少し不自由。1日1回買物に出るのがやっとで、他は家にずっと居ます。夫も心臓病ですが、まだ元気に歩けます。住宅はまだ当たりませんが、主人という頼る人がいるので生きていけます。一人ではとても……。2人なので何とか大丈夫です。(78歳、2人暮らし、担当:林(和)、脇山、羽田)

10月4日

・天井が浮いたので、住宅供給公社に問い合わせ直してもらったが、電話での対応が悪かった。妻は心臓が悪く、現在息子のところにいる。娘が10日ごとに仮設に来てくれるが、私としては公営住宅よりも老人ホームに入りたい。一人ぼっちで誰にも気づかれずに死ぬのは嫌だな……。今はダンスを教えたり、書道などしているが先のことは……。(担当者のコメント:先週、週末ボランティアが来ることを知っていたが、外出しなければならず残念に思っていたので「今日来てくれてとてもうれしい」と喜んで下さった。)(87歳男性、一人暮らし、担当:清重(智)、米田、向井)

・現在妻子と別居中。4月に胃ガンの手術(胃を全摘出)。今はリハビリ中のため、仕事ができない。以前は重機関係のとび職をしていた。会社の保険は6月で切れてしまい、医療費に不安を感じる。7月までは貯えで何とかだったが「これからは病院にも行きにくい」。収入がないため、水道などの光熱費が滞納になっている。ポストの中に督促状が数枚入っている。水道代については「10月6日迄に払って下さい。未納の場合、水道を止める」との内容であった。(担当者のコメント:すぐに被災者連絡会に電話し、10月6日午後訪問してもらおうよう手配し

た。生活保護を受けることができればだいぶ楽になると思うが。)(46歳男性、一人暮らし、担当：赤西、内海、脇山)

・少し前迄、神経科に通院していた。障害2級。今回の住宅募集のことを考えるとノイローゼになる。私はここでもう満足しているのに不便なところ(三田や北区等)に行かされるなら自殺しますわ。「住宅申し込み案内」を見るたびにイライラする。(63歳女性、一人暮らし、担当：赤西、内海、脇山)

・今回の住宅申し込みの件だが、どこに申し込んでいいのかわからない(話しが複雑になっているので)。第3希望まで書いても「無効になるよ」とヘルパーさんに言われた。当たる気がしない。ここは環境もいいから、別に引越しなくてもいい。私は喘息持ちだから、空気の良いところがいい。年寄り優先やとか言いながら、嘘ばかりや。住宅当選の基準はどうなっているのか?。かえって一人暮らしはなかなか入れてくれない。

・ある部屋をお母さんが使っていたようだが、今は娘さんや息子さんが使っているようだ。居るようだが、ずっとは住んでいないみたい。電気は切られているが、鍵は開けたまま使っているので、ご近所の方々も気にされている。せめて鍵だけでもかけるようにしてもらいたいとのこと。(近所の人、担当：脇山、内海、赤西)

・3日前、気がつくと☆印のマークが家につけていた。訪ねて来た西区の職員に聞いたところ、若い一人暮らしの人につけているとのこと。そして「今度市営住宅に当たらなかつたら、自分で努力して下さい」と言われた。私が若いからといって、被災者としての扱いをしてくれない。好きで家を失ったわけではないのに……。余裕があればとっくにマンションかどっかに行っている。(45歳女性、一人暮らし、担当：赤西、脇山、内海)

・灘区に土地があったが、神戸市から公園にしたいので提供してほしいとの申し出があり、東灘の市営住宅に入ることにした。離婚して、子どもは夫側にいる。そのためか、周りの人は自分のことを良く言わない。また、ここに居てもしっくりいかず、とにかく早く落ち着きたい。(64歳女性、一人暮らし、担当：祝、青木、小林(好))

・1年8ヶ月入院。心臓と肝臓が悪く、2週間前に退院したばかりとのこと。「ケアライン119」と「ベルボックス」の資料を渡した。長期入院のため、近所に知り合いもなく、ケアラインなどの安否確認先になってもらう人がいないので、申し込みは難しいと言われた。警報ブザーを用意して非常の時は押して下さいとお願いしました。今は身の回りのことを自分でしているが、ちょっと動いたらしんどくなるので、その都度休むようにして生活されているとのこと。(65歳女性、一人暮らし、担当：祝、青木、小林(好))

・9月30日に奥さん退院→退院後が気になるので訪問。奥さんは人工透析のため2ヶ月ほど入院されていた。退院しても1日4回の腹膜透析が必要で、ご主人が面倒を見ている。退院後も体の調子はすぐれず具合が悪いとのこと。手足がむくんで「痛い」と。家事は以前からご主人が担当している。1日4回の透析の合間を縫って買物に行かれたりと、とても忙しい毎日を送っているとのこと。看病のためにご主人は腰を痛めてしまったが、奥さんを心から支えているという印象を受けた。ご主人の奥様への温かいまなざしは本当に愛されていると言うのが伝わってくるほど。奥様もご主人に心から元気づけられているという感じがしました。奥様は体の具合は相当悪いが、顔には笑顔がこぼれていて、心の支えって言うのは生きていく上で本当に大切なものであるなど感じました。息子さんが一人おり、2週間に一度の通院の時、車椅子を押しに来てくれる。息子さんは昔から一人で暮らしていたため、3人で暮らすのは不可能の様子。シ

ルバーハイツに申し込む予定だが、ご主人が年輩であるため、いつ体の具合が悪くなるかと不安を持っている。ホームヘルパーのお話しをしたが、2人で出来る限り力を合わせて頑張ることでした。(74歳、2人暮らし、担当：盛本、藤原、十河)

・引越しをしたいが心臓病で無理がきかない→荷造りの手伝いで訪問。7月21日心筋梗塞で倒れ、25日間入院。その後ニトログリセリンを服用して小康状態だったが、ちょっと無理をして動いたら9月16日に再発。西神医療センターに5日間入院したが「もうこれ以上治療のしようがない」と言われ退院。入院費用は30日間で45万円。「何ぼ金があっても足らん」と言っておられた。医療費は社会保険(発病までタクシー会社勤務、現在休職中)なので2割負担だが、会社を辞めると国保で3割負担になるので、辞めるに辞められない。休業補償は月117,000円。3日前ダイエーへ買物に行ったが、帰りに手がしびれ仮設の人に持ってもらった。「半人前の体や。歩くのも怖い。そーっと歩かないと」と言っておられた。目も悪くなってきて、視点が定まらない。寝られないので睡眠薬を服用しているが効かず、平均睡眠時間は3時間。奥さんは市営住宅に戻ったが、骨粗鬆症でほとんど寝たきり。週2回ヘルパーさんが来るが、それ以外はたぶん姪が面倒見ているのでは……。妻が携帯電話を持っているので、時々連絡を取り合っている。心筋梗塞になるまで病气らしい病气をしたことがなかったのに。市営住宅への移転が決まり、勤務が終わってから仮設から市営住宅へ夜中荷物を運んでいた。「その時の無理がたたったのかも」と。発病後10キロやせた。「後1年生きられるかなあ。持たんやろな」と悲観的な見方をされていた。「病气とだましましやっっていけば……」と助言はしたが……。何とか1日でも長く生きてほしいと思った。(62歳男性、一人暮らし、担当：亀井、矢萩、井手上)

・ラジオつき懐中電灯の修理を依頼された。そして簡単に修理ができた。「市営住宅では猫を飼えないので悩んでいる」「とりあえずは空き家を申し込むつもり。身寄りが近くにいないので、引越の時にできれば手伝ってほしい」と言っておられた。(担当者のコメント：身内の方が近くにおられないようなので、少し寂しそうでした。じっくり自分の話しを聞いてくれる相手がとても必要なのかなと思います。)(70代女性、一人暮らし、担当：木村(俊)、奥田、岩崎)

・復興住宅申し込みについて：「申し込み案内書」の内容がわかりにくい！という声がしきりにある。作成する側にも事情や言い分はあるだろうが、現在仮設在住の6割強が高齢者であり、また在日の外国人も少なくない。①字が細かい。しかもびっしり書かれていて見づらい②振り仮名がない③図解がほとんどない④説明が事務的⑤見たい内容が見つけにくいetcーなどで悪戦苦闘しながら読んでおられる方が多いようです。Q&Aのような形式で高齢者にもわかりやすい冊子などがあればと思う。我々もただ詰め込んだ知識を並べて話すのではなく、難解な言葉や役所言葉を使わずに説明したいものだ。それにしても、今回の募集が“最後の募集”と信じ「これで外れたら……」と言われる方が目立った。(担当：赤西)

→私たちは市の職員ではなく、ましてや毎週これる人がいるとは限りません。完璧な返答を用意していこうと言うのは、無理があると思います。私たちの知っている範囲でしか答えられないという気持ちで訪問した方が良いと思います。(担当：若菜)

10月11日

・震災時、奥さんは八幡さん(神社)に体操に行っていた。皆でおしゃべりをしていた時、揺れが来て立っていられなかった。崩れた建物を見て、とっさに「主人はもうだめじゃないのかと思った」と。震災前、奥さんはゲートボール・民謡・婦人会などあちこち動き回っていたが、

仮設に来てからはふれあいセンターにもあまり行かないとのこと。もっと気軽にゲートボールなどに出かけられるような場所や仲間があればと思う。(81歳、2人暮らし、担当：福濱、盛本、亀井)

、震災で夫を亡くし、その後長男も進行性のガンで亡くなった。息子は脳性小児麻痺。本人は高血圧。息子の介助に苦勞しているとのこと。「でも私はその息子のために、息子がいるから生きているんです。私が死んだら、誰が息子の世話をするんでしょうか」と言っておられた。

「いったい、どういう基準で仮設内での住む場所や転居順を決めているのでしょうか」「障害者・高齢者などのハンディを背負ったものを優先的に便利なようにしてほしい」。(担当者のコメント：震災で夫を亡くした時の状況、進行性のガンで亡くなられた長男のことを話し終えた時、彼女の目に涙が浮かんでいたことに気づきました。)(78歳、2人暮らし、担当：南口、西川、丸笹)

・1匹の犬と2匹のうさぎが居る。息子が飼っていたものだが、市営住宅が当たったため、自分が世話をしている。もし自分も当たれば、ペットと別れねばならない。西神の仮設に来て2年間のうちに、三度狭心症で倒れたが、それ以外は健康。55歳の定年まで働き、72歳まで警備員の仕事をやっていた。家でじっとしているだけだと生活・体のリズムが保てなくなる。「やっぱり働いている方がいい」。近所で良い職場が見つければいいのだが、西神の方ではあまりなさそう。やっぱり三宮あたり。縁側でほのぼのとした訪問になった。(75歳男性、一人暮らし、担当：福濱、盛本、亀井)

・パーチェット病(特定疾患=難病)―15年前から。最終的には失明する可能性が50%。また心臓が悪く、足のむくみがある。母(82歳)は、脳梗塞による言語障害及び白内障であるが、年の割には健康です。母の病気に対する医療費と自分が難病ということもあって退職後の生活が気がかりです。(56歳、2人暮らし、担当：南口、西川、丸笹)

・寝たきりの主人に2週間に1回、看護婦が来てくれる。私は眼科・歯科・循環器科・泌尿器科に通院。9月から医療費が一気に上がって、8月までの約3倍のお金がかかっています。たいへんです。(74歳、2人暮らし、担当：南口、西川、丸笹)

・灘の方に住宅を申し込むつもり(祖母の病院の近く)。腰椎ヘルニアがあり、薬を飲んで痛みをやわらげている。32歳だが定職が決まらない。ラーメン屋で寸胴鍋を持ち上げてヘルニアになった。労災の証明をもらうため医者に行ったが、書類不足だと言うので再申請しなかった(労災にならず)。気さくな感じでよく話す人だが、言いたいことをその場でズバツと言ってしまうとのこと。職場でも上司に直言したりして長続きしないようだ。自分の性格や状況は把握されているようだが、特に就きたい仕事もなく、将来の見通しもないようだ。頭の回転の速そうな人なので、何か仕事なり目標が見つければと思う。運転免許がなく、年齢も30歳過ぎているので仕事の選択の幅が狭くなってしまうようだ。(32歳男性、一人暮らし、担当：瀬戸、矢萩、尾崎)

・震災後、長女と末娘夫婦の家に4ヶ月ほど世話になった。ご飯代くらいはと思い払った。やはり気を遣うことが多く居づらかった。長女と一緒に住んでいるが、娘は10月からやっと職に就き、安心した。しかし、仕事の場所・内容についてまったく教えてくれないとのこと。子どもの頃から口数が少なく、自分で抱え込んで悩んでしまうタイプのように、仕事も嫌になるとすぐ辞めてしまう。それが心配。だが、朝・夕の食事はしっかり作ってくれるので感謝している。(79歳、2人暮らし、担当：瀬戸、矢萩、尾崎)

・ガスが止められ、電気も止まっている。あまりボランティアと話したくない感じを受けた(正直、少し気持ち悪かった)。ご近所で聞くと、戸や壁を叩いたり、大声で意味不明の話を夜中や昼にわめき散らすので、眠れなくて迷惑しているとのこと。また家の中にゴミをたまえているようで、悪臭がし、ネズミが出て困っているとのこと。(？歳男性、一人暮らし、担当：小野、脇山)

・心臓が悪く、肝臓も悪い(4年前から)。炊事場でこけて、胸の骨が2本折れて3ヶ月程入院していた。近所の話しによると、アルコール中毒で他にも2名同じ人がいて、3人でケンカしていたとのこと。回りに迷惑をかけたり、警察沙汰になったりといへんだったようです。(？歳、一人暮らし、担当：小野、脇山)

・震災前は、住宅の環境が悪く、よく病気をしていたが、仮設に来てから環境が良いのでとても元気になった。娘がよく来てくれて、何でもしてくれるので、とても助かっている。また、1年くらい前に一度倒れてから、近所の人がいりょう面倒をみてくれるのでとても良かった。(86歳女性、一人暮らし、担当：武内、道行、浦口)

・換気扇の修理を頼まれた。補修完了。(？歳、？人暮らし、担当：小山、井手上)

・息子と2人暮らし。動脈瘤で2週間に1回、病院より往診あり。ヘルパーさんが週2回来て、掃除・買物などしてくれる。食事はおかゆのみ。堅いものは食べられず、耳も遠い。息子は腰を痛めている。早く家に当たりたい。入院していたが、病院で死にたくないの、ここに帰ってきた。息子のことが心配。2人ではいずり回って生きているのは、私たちぐらいではないでしょうか。地震がなければ、こんなことにならないのに。家具は連絡なしに家を壊され、持ち出せなかった。娘が3人いるので時々来てくれる。肩で息をさされていて、しんどそうであった。「今度来られる時まで、目を開けていられるように祈ります」と言っておられた。希望住宅の順番を間違えたので、変更できるのだろうか。(93歳、2人暮らし、担当：浦口、道行、武内)

・復興住宅へ11月頃転居予定。今まで、子どもの通学費で電車賃(1日4,000円)がかさみ、「タダほど高いものはない」と痛感した。不満をあげるときりがないが、空港を作ることが一番不満。投票に行くことが楽しみになる選挙にしてほしい。(？歳、4人暮らし、担当：祝、谷川)

・年金35,000円/月、外国籍。ここは家賃がただだが、市営は料金かかるので心配。(74歳女性、一人暮らし、担当：祝、谷川)

・震災時はたいへんだった。思い出も何も地震でつぶれ、頑張りようがなかった。夢を持つ暇もなかった。家を再建する目処がつけき、少し心に余裕が出て来た気がする。がんばらなしゃ一ない。後は子ども(3歳)のことが心配である。子どもが泣くと回りに迷惑がかかると思い、泣かさないようにしていたら、しゃべらないようになってしまった。(40歳、3人暮らし、担当：祝、谷川)

・国会議員や市会議員は、自分の利益のことしか考えてない。年俸の1%か2%でも寄付したら、そのお金でかなり被災者支援ができるのに、誰もそれをしようとしな。競馬や競艇などの売り上げの2%ほどを国が取っているそうだが、それを被災者に回せばかなり助かるのに……。福祉(生活保護)を受けているため、言いたいことも言えない。(？歳、？人暮らし、担当：比嘉、藤原、青木)

・住宅のことが心配です。今度住宅に当たらなければ、どうしようと思うと毎日が不安です。本当に何とかしてほしいと思います。空港よりも住宅を。(68歳、2人暮らし、自筆)

・年金は一銭も上がらないのに、消費税は5%も上がり物価は高く、生活は苦しい。個人補償をお願いします。空港を作るより、被災者を助ける方が先だと思います。いつまでも仮設にいたら体が悪くなります。冬は寒く、腰も足も悪くなり、早く住宅に変わりたく思います。いつも落選ばかり。老人は優先だと聞いていましたが……。仮設で死にたくありません。(81歳、一人暮らし、自筆)

・これといった身寄りの方もおられず、現在生活保護を受けておられるとのこと。ギャンブルが好きだが「地震の時に死んだ方が良かった」「真面目にしたら良かった」等とも言っておられた。腸が悪いということだが、お腹はパンパンに腫れていた。入院するよう勧めたのだが(回りにも言ってるようで)、病院で死にたくないと。病院にいたらたばこも酒も……自由がなくなる。痛かったり・苦しかったりするが、自由のない病院で死ぬのは嫌だと。医者ははっきり言わないが、自分で先がないと自覚している。「死ぬまでに公営住宅に入れたらいいな」という気持ちで応募すると言っておられた。それ以上、何も言ませんでした。小さな頃から働いて、働いて……だったので満足に学校にも行けなかったとのこと。ただでさえ字が小さく、わかりにくい住宅の申込用紙であるが……書けなかったようである。お手伝いして、後は印鑑を押せば投函できるようにしました。ただ当たった時、また書類に書き込みがあるので大丈夫かな?と心配してしまいます。(64歳男性、一人暮らし、担当：長船、里村、橋本、若菜)

・今度入る市営住宅は、家賃が4万ちょっと。私の年金では払っていけない。極端に言えば、家賃を払って私が食べないでいたら丁度です。家賃減免制度について詳しく知りたい。(68歳、一人暮らし?、担当：赤松(由)、石川)

・今年2月、出勤するため歩いて行いたところ、足を付け根から骨折してしまった。労災を使っています。1回目の手術は失敗でくっつかず、2回目の手術がようやく成功。現在松葉杖です。本当なら今頃は治っているのに長引いています。この年でリウマチ、骨粗鬆症と年寄りがかかる病気になってしまい、将来働けるかどうか心配で、そのことを考えると不安でいっぱいです。同居の方には、避難所にいた時、それ以前とたいへんお世話になっているそうです。(35歳、2人暮らし、担当：赤松(由)、石川)

・市長が直接自治会のふれあいセンターに来て、自治会の役員の方と話しをしてほしい。アルコール中毒の人と実際に会って現実を見てほしい。1ヶ月でも一緒に暮らせばわかるはず。生活保護の制度を勧めると、かえってその人の自立の芽を摘んでしまう場合もある。自分が難民で保護を受けるのが当たり前みたいになってしまっている。生活保護を受けるべき人が、頑張っただけで無理して仕事しているのに矛盾を感じる。仮設に残っている老人のことが気になり、今まで住宅に申し込まなかったが、今回ようやく申し込んだ。(68歳、2人暮らし、担当：赤松(由)、石川)

・地震のため、日課であったジョギングができなくなり、体力が衰えている。病院に行こうにも、医療費が高く行けない。生活費は年金だけ。一度は水道代も払えず市に止められたが、同じように止められ孤独死した人が報道されてから、水道は通じた。(67歳女性、一人暮らし、担当：久保山)

・最近食欲がなく、何をするのも億劫である。トイレを我慢することができずに、漏らしてしまうこともよくある。今まで2度公営住宅に応募したが、神戸市内は当たらなかった。同じ町内に住んでいた人が孤独死で亡くなり、次は自分の番だと毎日寝るのが怖い。市役所にも直談判に行ったことがあるが、門前払いされた。持病の気管支炎が再発しそうであるが、医療費が

高いため、医者にかかることができない。(75歳女性、一人暮らし、担当：久保山)

10月18日

・弟と2人暮らし。その弟はアル中。兄弟は他に3人いるが、誰も面倒を見ようとしてくれない。震災以来、一緒に暮らしているが、もう嫌。公営住宅に当たっても、もう一緒に暮らしたくない。震災時、弟は明石の姉の家でしたので、罹災証明書がない。だから弟一人で申し込むことができず、かといってこのままの状態でも放り出すこともできない。頭がおかしくなりそうだ。→長船・若菜フォロー①公営住宅を一般募集で申し込み、現状収入がないので生活保護申請する。②身内の同意があれば、専門病院へ入院できる。(65歳、2人暮らし、担当：寺野)

・韓国→下関→神戸と27年前に来た。身内はほとんど韓国にいる。糖尿病、高血圧で通院中。住宅の申し込みは今日済ませたが、日本語が十分読めない。(76歳、?人暮らし、担当：寺野、藤原、原、亀井)

・仕事をクビになった時の不安。仮設の住人が少なくなっている。公営住宅になかなか当たらない。通勤にかかる時間など言いたいことがある。税金ばかりふんだくって、こんなに家が当たらないのなら、税金払うのがバカバカしい!!(61歳、2人暮らし、自筆)

・家はまだ当たってないけど、当たったらラッキー。外れたら残念としか思わない。外れた時、がっくり落ち込むと体を悪くするから。(?歳、2人暮らし、担当：石川、加藤(純)、森田)

・震災時、母・本人・娘・妹と暮らしていたので、罹災証明書は1通しかない。移住時、母・妹は加古川の民間アパートへ、本人・娘はこの仮設に来た。通勤が少し遠くなったが、ポートアイランドの職場まで通っている。パートタイムで時給800円。生活サイクルの違いから、2世帯に分離。だが母は神戸生まれなので、慣れないところでの生活は精神的につらいと。市内に戻りたがっている。役所に世帯別で申し込みたい旨、相談するが担当者によって答えが違う。また5時までの役所ではパートに出ている人間としては、じっくり話すことができないと困っておられた。(27歳、2人暮らし、担当：長船、赤松(由)、保坂)

[再訪問]

・当たった公営住宅の家賃が年金で払えそうもない。減免制度について知りたい。すでに家賃と敷金を払い込んでいるが、家賃減免制度が適用されているかどうか分からない。当選や入居手続きの際に何も知らされなかったと言われていた。申込書を見ながら計算してみたが、減免制度を受けていけば、今よりかなり安い金額になる。どうも通常の家賃のようであった。市住宅局の電話番号を教え、「すでにお金を払い込んでいるが、今からでも減免制度の申し込みができるか」と問い合わせるように勧めた。(担当者のコメント：住宅申し込み説明書には、公営に当たったら、対象になる方は申し込んで下さいとあったが、目立つところに書かれておらず、この制度を利用していない人もいるのではと思います。)(69歳女性、一人暮らし、担当：川口、矢萩)

・申し込みの際、希望住宅の順番を間違えた。変更できるか。変更の仕方の説明に行くと、住宅の申し込みを民生委員の人に手伝って書いてもらったが、自分の希望と少し違った内容の申し込みとなった。第一希望が、来年10月に入居予定というところなので、当選してしまうと、その間に回りの人がどんどん減ってしまって寂しい。「早く出たい」ので変更したいと言われていた。また、目が悪く、文字が書きにくいと言うので、お手伝いして変更希望の届け出を作

成、投函できるようにしてきた。(担当者のコメント：お母さんは心臓が悪く、息子さんも杖を使わないと歩けない。こういう事情なので、仕事もできず、生活保護で暮らしているとのこと。ヘルパーが入っているが、住宅が当たってからでも、この先心配だなと思った。)(93歳、2人暮らし、担当：内海(貴)、盛本、矢野)

・年金35,000円とのこと。家賃減免と生活保護について。昭和19年徴用された主人の後を追って、日本に来た。主人は山口県の炭鉱で2年働いたが、体の具合が悪くなり、終戦と共に退職。昭和52年に肝硬変で亡くなった。地震の時は、2階建ての持ち家(借地)に住んでいたが、「もう、広い家はいらん」と。韓国へは3回帰ったが、もう帰国するつもりはない。「日本で骨を埋めたい」と言われていた。気さくでよく話される明るい方でした。在日ということで、いろいろな苦労があったことと思いますが、そういうことは表に出さず明るく振る舞っておられました。公営住宅に当選したら、家賃減免制度があるので、必ず申し込むよう勧め、生活保護の書類を渡しました。日本語の読み書きが不自由なので、減免申し込みも孫と相談するとのことでした。(74歳女性、一人暮らし、担当：川口、矢萩)

・子どもが泣くと回りに迷惑をかけると思い、泣かさないようにしていたら、しゃべらなくなった。そっとノックしたつもりだったのですが、お母さんから「子どもが寝つかない」と怒られてしまいました。ものすごく神経質になっていて、ノイローゼかもしれません。3歳だという子どもは確かに話すことはせず、2歳くらいの感じですが、おむつは取れていないし、本当は外で遊びたいのだと思いますが、昼寝しないこと、外に出ることに対して、体を叩かれて怒られていました。しゃべらないことに加え、表情がなくなっています。このままではかわいそうです。女の子もお母さんも。書類は(子どもへの不安・疑問などの電話相談が載っている公報のコピー)渡せなかったので、手紙をつけポストに入れました。(40歳、3人暮らし、担当：白岩、南口、木原)

・高齢者の一人暮らし。福祉の人が「公営住宅の見学に行くなら、平日行った方がいいですよ(トラックなどの通行状況がわかるため)」とアドバイスしてくれたとのこと。交通の便などよく研究されているようだ。(87歳、一人暮らし、担当：長崎、脇山、青木)

・ストレスで肝臓を悪くし、食欲なくやせ、フラフラで歩けず。主人はストレスがたまっている。住宅が当たらないため。家は全壊。隣家が倒壊し、その巻き添えに。築10年。「一生ここでいけるやろう」と思っていたのに……。もう再建できないから更地。市の人曰く「ここは立ち退きしなくていいから最後まで残る。だから当たりにくい」そうだ。しかし、これでは「主人が持たない」。抽選だから仕方ないとはいえ……。主人が弱っていくことを思うと……。震災前までは元気だったのに、震災時の水汲みで腰を痛めてからだ。家の軋みや隙間が2年経つとひどくなってきた。これから先、台風の時が不安。(68歳、2人暮らし、担当：長船、赤松(由)、保坂)

・障害認定2級。住宅募集のことを考えるとノイローゼになる。最後に当選したら、不便なところしか残ってなかったなんて、どうしようと思う。こればかり考える。とにかく毎日のことだから、買物が便利なところに移りたい。(63歳女性、一人暮らし、担当：加藤(純)、石川、森田)

・胃ガン手術で全摘出。リハビリ中のため、仕事もできず。社会保険も切れ、光熱費も滞納。水道も止めると言われている。アル中が進行している。昼夜逆転。身内、近隣とも接触はほとんどない。扉・窓・カーテン閉めたまま、呼べど応答なし。隣人に聞くと、1) 保健所、自治

会、民生委員などいろいろな人が接触中。2) アル中で入退院を繰り返している。3) お金があればお酒を飲んで暴れるとのこと。(担当者のコメント: 結果として、保健所などが入っているので連携した方がよい。専門家の力が必要と思う。)(46歳男性、一人暮らし、担当: 大滝、藤沢)

10月25日

・ここはいろいろなボランティアが訪問に来る(大半は安否確認)。ぜいたく言えばキリがない。タダで住まわせてもらっている。しかしこうも空き家が増えてくると取り残されている感じがする。(85歳、2人暮らし、担当: 赤西、藤原(正)、小田)

・仮設への移転のため、退職した。今は自分たちが食べて行くだけの年金で生活している。遊びに行ったり娯楽に手を出すとやっていけない。働きたいけど60歳以上ではなかなか見つからない。職安にも行くが、ユニック(トラックとクレーンが一体となった特殊車両)の運転の仕事はどれを見ても60歳までだ。支援金は5万円を2回もらっただけ。10万でもまとまってもらえば家でも借りてるけど、10万だけでは……。 (65歳、3人暮らし、担当: 藤原(也)、長船、盛本)

・糖尿病。血糖値が300以上あり、常にアメを所持しているとのこと。仮設住宅では、友達がたくさんできたが、今後住宅を移転すれば、また人の関係を一から作らなければならず、寂しい。(68歳女性、一人暮らし、担当: 西畑(稔)、坂本(佳))

・こっちの方が仕事場に近くて良いと思うが、兄弟やらがたくさん灘にいるので是非帰りたい。その方が安心。(54歳、2人暮らし、担当: 加藤(純)、丸笹)

・仮設では回りがどんな人かわからないので、挨拶程度の付き合いしかできない。ふれあいセンターにはあまり行かない。長田には心を許して話ができる友人がいるので、どうしてもそちらの方へ行ってしまう。娘は全身のリンパ腺が腫れている。CT、レントゲンを撮ったり、入院したり「いつ、どんななるかわからん」状態。爆弾を抱えて生活しているようなもの。でも会社勤めは続けている。(担当者のコメント: お母さんは80歳にしてはとても若く感じるが、娘さんがそんな状態なので、自分がしつかりせねばと言う気力を感じた。)(80歳、2人暮らし、担当: 武内、亀井)

・私(母親)は、糖尿病、喘息、アレルギーがあり、心臓が悪くなると顔がむくんでくる。息子は精神障害があるので「しあわせの村」の施設に通っている。元住んでいたアパートが建築中で、年内には入れるかもしれない。(担当者のコメント: 病院帰りで少しお疲れのようだった。息子さんが自立できないので、自分がしつかりせねばと言う感じが受け取れた。)(64歳、2人暮らし、担当: 武内、亀井)

・前は運送会社の社長をしていた。今は年齢の関係で、働くところがない。現在は生活費がなく、虚しい。しかし皆さんも同じような生活をされているので、何とかやっていきたい。子どももいるが、今はなかなか顔を出さない。公的支援があれば立ち直るかもしれない。(66歳男性、一人暮らし、担当: 小波本、井手上)

・三宮に夜働きに行っている(年金5万円ぐらい←2ヶ月間)。近所付き合いはほとんどない。中央区土地は娘さんに任せ、公営住宅を申し込んでいる。仮設住宅に一人でいると気が滅入る。働きに行ってる方が気が晴れる。中央区にできれば戻りたい。公営住宅に移ったとしても、引越のお金がない。(担当者のコメント: 最初は戸口を少しだけ開けて話しをされていたので

すが、「中に入っていいですか」と声をかけると、「どうぞ中に入って」といろいろお話を聞くことができました。やはり一人暮らしは寂しい感じで、お部屋の中ではとてもリラックスされ、お話しされていましたが、お金の問題は切実だと思いました。)(69歳女性、一人暮らし、担当：清重(智)、南口)

・「みんな良くしてくれるけど、夜になるとガタン、ガタンと音がして寝られない。すぐ起きてしまう。昼はみんないるからいいけど、夜が怖いねん。明日選挙だけど、すぐに帰れると思ってたから、住民票移さなかった……。一人で住んでいて、どうしたらよいか迷うわ……。落ち着けへんもん。何もできないし……」とずーっとつぶやかれていた。この辺をととても怖がっているようです。(64歳女性、一人暮らし、担当：加藤(純)、丸笹)

・仮設にいと気が落ち着かない。いじめがあったりして、人間関係が嫌だ。早く住宅に当たって仮設を出たい。震災時、右の踵の骨が2本折れて、5ヶ月入院した。今も通院しているが、右足をかばっているうちに、左膝が悪くなった。今は、区役所からの補助を受けて生活している。神戸空港は必要ない。空港作るお金があったら、被災者の復興のことを考えてほしい。国内で困っている人がいるのに、海外にばかり寄付するのはおかしい。国内で困っている人のことを第一に考えてほしい。(61歳、一人暮らし、担当：西畑(律)、青木)

・息子(学生さんと思われる)と2人暮らし。地震前から主人の両親と文化住宅の2階と1階に住んでいた。だから公営も同じところか近いところに住みたいが、両親はともに70歳以上の世帯で、自分たちは40代、20代の世帯。待遇が異なるため、望みは叶えられないだろう。地震の少し前から、それまでの貯えを少しずつ削って生計を立てており、働き手はいないとのこと。

(担当者のコメント：「今のところ、何とかなってます」と言われていたが、漠然とした不安を感じた。)(40代、2人暮らし、担当：佐々木、矢野、寺野)

・今は住宅さえ当たれば……という思い。ここは他の仮設と比べると部屋も別々だし、作りもしっかりしている。これ以上ぜいたくなことは言ない。孫が大阪市大なので、阪和線で堺の方まで通っている。私一人ならどこでも良いが、孫の交通の便を考えると三宮あたりで暮らしたいと思う。(担当者のコメント：とっても遠いところまで通ってますよね……。私なら休みがちになります)(60代、2人暮らし、担当：加藤(純)、丸笹)

・市の高齢者融資で返済はたいへんですけれど、元の場所に家の再建を頑張ってみます。返さなくても良い公的支援を心から待ってます。西神南の公営住宅を見せてもらったが、窓の網戸と鉄柵は自費です。洗面台はお湯が出ず、水だけとのことでした。せつかく21世紀に向かって建てたと言うのに、もう少し行政の暖かさがほしいと思いました。ここの仮設でさえ、お湯が出ますのに。西神中央駅の近くは、駅や病院、商店も近く、住むのに便利です。こちらあたりに、市営住宅が建ててほしいと思います。(自筆)(担当者のコメント：自宅再建は来年末とのこと。それまでに近所の方がすべて引越され、新しく入居する人がいないのではと心配されていた。また高齢者融資は10年間無利子というものの、10年後に完済しなければ、土地・建物を担保として取られるとのこと、かなりリスクも大きいなと感じました。)(73歳、2人暮らし、担当：寺野、矢野、佐々木)

11月1日

・母子2人暮らし。ここでの生活は職場が近くなり、気に入っているが、母は職場が遠くなり、長田に帰りたがっている。しかし、住宅申し込みは母が折れてくれたので西神南に申し込んだ。

この棟は自分たちしか住んでいないので恐い。特に夜は静かすぎることもある。(58歳、2人暮らし、担当：石川、亀井、渡辺)

・去年、子どもが産まれたが、障害を持っている。子どもの訓練にのじぎくと湊川の学園に通っている。鳴き声や訓練の時に出す声も大きくなっているので仮設では気を遣う。市営住宅に入ることができれば、周りに迷惑をかけることも少なくなるだろうと思う。(？歳、3人暮らし、担当：藤原、井手上、羽田)

・県営住宅が当たり、3月に転居予定。市営住宅よりも当たるだろうと思い、応募した。だが、共同生活をしたことがないので不安を感じている。長田の土地は資金面でのやりくりがつかずあきらめた。住んでなくても税金だけは取られるし、多少無理すれば建てられるだろうが、この年であまりたいへんになるのも・・・とあきらめた。地震後、一年ぐらい子どものところにいたが、そこで主人がノイローゼのようになってしまい、食事がとれなくなったので仮設に来た。ここの生活は一步出ると見えすぎる感じで見張られているようだ。(76歳、2人暮らし、担当：藤原、井手上、羽田)

・今、一番辛いこと、困っていることは家が当たらない。3回外れている。今回はどうなるのか？先月、定年退職した。地震で一年間長く置いてもらったが・・・。一日中、何もせず、家にいるのは持て余すし、収入の面からも何か仕事をしたいと思う。掃除でも何でも・・・。糖尿病だが内服薬でコントロール中。しかし、甘いものが好きなので、つい食べ過ぎてしまう。ふれあいセンターでラジオ体操など、いろいろされているが初めから行っていないので行きにくい。(61歳、一人暮らし、担当：藤原、井手上、羽田)

・市はもっと住宅について考えてもらいたい。たとえば民間住宅でも買い上げて住宅を多く建設して、1日でも早く仮設の住民が出られるようにしてほしい。震災で死ぬ思いをした。やっとの事で命は助かったが、ストレスのため頭部がはげてしまった。以前にはなかったことである。(？歳、2人暮らし、担当：小波本、森田、赤松)

・ここは住み心地がよい。買物は便利だし、公園もある。花を植えたり、散歩したり、毎日暇だが楽しい。隣は空き家だし、いくら音を出してもいい。病気、怪我はしたこともない。ただ年金が少ないだけ。仮設がこんな良いところだとは思わなかった。しかし、ずっといるわけにはいかない。(77歳、2人暮らし、担当：林、盛本、谷口)

・住宅募集は第2第3希望を書かせているだけ。行政のやり方は汚い。住宅倍率情報のFAX引き出し方が仮設住民全員に伝わっていないのはおかしい。大きい仮設はニュースになったりして注目を浴び、救援物資などが届いているようだが、小さい仮設ではまったくない。隣が空いた時、鍵を貸してくれるよう頼んだが貸してくれなかった。市は柔軟性がなく、まったく融通がきかん。腹が立つ。最近、もう腹が立つことさえも慣れたと言うか落ち着いてしまっている。子どもが友人から「家はどこ？」と訪ねられる。その時に仮設に住んでいるということが子どもにとってもストレスになっている。そのことは理解しているが、親としては家計のことがあるので腹を割って正直に説明している。ただ、わかってもらっているかどうか・・・。市長選挙、腹が立った。空港なんていない。(46歳、4人暮らし、担当：赤西、清重、青木)

・お金が必要。被災者支援法案を何とか実現してほしい。病気の主人を抱え、娘も別の仮設で息子2人を抱え暮らしている。市長選挙、遠いけど頑張って投票に行った。でも、はっきり言って、選挙へ行くのもむかつくぐらい嫌であった。市長・官僚たちは私財を肥やしているばかり。穴埋めは一般の市民にさせている。空港なんて今すぐいない。今必要なことをまずやっ

てほしい。子どもが少なくなっているこの頃、子どもにもっと心豊かな環境になってほしい。週ボラの方から年賀状が届き、とてもうれしかった。大事にしまっている。こうやって膝つき合わせて話しができるのがありがたい。こんな話し誰にもできないから。(75歳、2人暮らし、担当：赤西、清重、青木)

・住宅が当たるのを楽しみにしているだけ。震災で会社は倒産。2年間、職安に通っていたが今は行っていない。どっちみちないやろ、いい年だし。今まで、30年以上勤めていた、その貯金で何とかなるか・・・？誰も見てくれる人がおらんし、健康だけは気をつけている。(56歳、一人暮らし、担当：加藤、長船)

・着の身着のまま外に出た。つぶれた先から火が回ってきた。従兄弟は7ヶ月の子どもをかばおうとして家の下敷きになりながら、子どもを必死に抱いていたが息ができなくて死んでしまうたと悔やんでいた。鷹取の駅に死んだ人を並べて・・・、須磨寺も死体置き場になって・・・。5000人もなくなった。みんな大国公園に逃げたけど、火が回って来るかもと駅に逃げ・・・、そして鷹取中学に逃げ込んだ。先生が一番頑張ってくれた。4ヶ月もいた。最初はどうもおかしいと思っていたボランティアも、そのうちに慣れると甘えてしまう。「家のことどうしよう」と思っている時に「お体はどうですか？」では・・・。それにしても市議員なんか一度ものぞきにこんかった。一言ぐらいねぎらって、自分も同じ立場やと言ってくれてもいいのに。マッサージ20から30分してくれる人が廻ってきてほしい。年寄りとか満足するのに。(63歳、担当：加藤、長船)

・住宅を申し込んでいるがなかなか当たらない。内縁の妻であると申し込みをしにくいので、父親と自分の名で申し込んでいる。妻は失業保険をもらっているが年齢的に就職は難しいだろう。公営住宅が当たらないので最大の関心事となっているが、そのあたり、行政なりの対策はどうなっているのだろうか？(28歳、2人暮らし、担当：矢萩、島原、小林)

・震災時、一部損壊だったのでたいへん不利だと感じている。前に住んでいたところは、仮設が当たったため追い出されてしまった。私が仮設へ入居した翌日にはもう新しい人が荷物を運び入れていた。自分は一般の申し込みと同じになってしまい、西区、北区などにしか行けない。(73歳、一人暮らし、担当：林、盛本、谷口)

・80歳の時に腰を骨折。83歳の時に右大腿部を骨折。その時の主治医の先生から考えていけばボケないと教えられた。昨日食べた食事や秋の七草などよく質問された。本当にいい先生だった。今でも何か忘れたら思い出そうと必死で考える。耳が悪いので若い人にはよく怒られる。新聞はよく読んでいる。特に医療福祉に関心を持ってみている。(91歳、2人暮らし、担当：島原、小林、矢萩)

・地元のボランティアは生きてるか死んでいるか見に来るだけ。自分は裏の戸を開けているから死んだら隣の人が気づいてくれる。そんなボランティアはいらない。どうせならちゃんと見てくれ。病院を探してほしい。西神医療センターは入院するのに2ヶ月待ちだ。2日半埋まっていたが、人間は死にそうな時腹が減らない。これだけは言うておく。寒くて寒くてたまらなかつた。布団は目の前にあったが手が届かず。寒さで死んだ人もいたはず。左右の家の人、多く死んだ。自分もあの時、死んでいたら良かった。そしたら今のようなことはない。しかし、助かったとなると、後はなかなか死ねないものだ。以前、大工をしていた。仕事をすれば一滴も飲まない。今は仕事がないからしょうがなくこうして飲んでる。道具は瓦礫処理で全部持っていかれた。ただし、西宮の方の人に預けている道具が少しある。住所、電話番号を書いた

紙も全部なくなっているが、その人の友人宅を知っている。「道具を取り戻したら、また大工やるかね？」と言うと、うれしそうに「ああ」と言った。(65歳、一人暮らし、担当：佐沢、東條)

11月8日

・平成11年の3月、5月に入居予定の公営住宅に申し込んだ。みんな出ていったのかなど不安になるけど、周りを良よく見渡すと、洗濯機などがおいてあるのでほっとする。第一希望は灘の超人気のところに申し込んだ。やっぱり帰りたい。ちょっと風邪をひいただけでも慣れた医者がいい。今の心配はとにかく住宅だけ。(70代、一人暮らし、担当：仁井田、加藤、合田)

・3時間近く家の下敷きになっていた。避難所では毎日出血が続いて、一ヶ月後、巡回の診察がきた時、血圧が高い方なのに、80しかなかったので救急車で運ばれ40日間入院した。今も夫婦そろって医者通いだ。詩吟を教えているが、ここだと遠いので弟子がたくさん辞めた。本業の電気工事も体がこんな状態だから、そこそこしか動けない。収入はたいへんだ。妻もパートで働いているが、生活は苦しい。仮設は光熱費もただ、と思われているようだがそうではない。交通費と光熱費で家賃以上かかる。周りも出て行ってさみしくなるなあ。生活に直結したことをもっと市にやってほしい。詩吟で声を出しているから、今まで何とか元気にストレスなくやってこれたと思う。(2人暮らし、担当：西畑、長船)

・隣が先月末に亡くなって、しばらくは風呂に入るのも恐かった。2軒おいて隣の人が以前は1日4~5時間きてくれてよくしゃべってくれたけど10月13日に引越したのでさみしい。真正面に住んでいた人も9月に引越した。夜が気持ち悪いので、深夜までテレビと電気を点けっぱなしにしている。また若い女の人から2、3回いたずら電話がかかってきたので怖い。「○○(私の名を呼ぶ)のおばあちゃん、私、大西よ！」と話し掛けてくる。全然面識もなく、心当たりがないので怖い。(85歳、一人暮らし、担当：藤原、青木)

・胃腸が悪く、月2回三宮まで通院。白内障で目が霞み、腰痛でコルセットをまいている。生活保護を受給しているが、生活は苦しい。震災後、融資(10万円)を受けたので、来年から毎月、3000円ずつ返済することになっている。引越支援金について、中央区と西区の職員の言うことが違うので困っている。どうしたらいいのか？今はたばこを吸うことぐらいしか楽しみがない。近くに買物に行っても、途中でしんどくなって座ってしまう。家賃一万円ぐらい払ってもここにいたい。もう引越すのは嫌！(68歳、一人暮らし、担当：武内、矢萩)

・公営住宅、申込はしたが、当選する気はしない。人間はただ屋根の下に住んでいればいいということではない。ここに居ると島流しにあっているようです。私たちの声を伝える場、訴える場がもっとほしい。このように話を聞いてもらえると少しは気分が落ち着く。選挙の時、選挙カーのボリュームがやたらうるさかった。選挙前だけやなく普段来んか！と思った。冬、ドアが凍って開かないのでお湯をかけてから開けます。(40歳、3人暮らし、担当：赤西、森脇、亀井)

・震災後は「人間がよく見えた(不信)」。被災しなかった年輩女性が「仮設で3日乞食したらやめられないらしいね。いろいろもらえて」と口にしての聞き、悔しかった。これでも人間かと思った。(84歳、2人暮らし、担当：赤西、森脇、亀井)

・今年の9月まで、土地をガレージとして貸していて月30万円の収入があったので、今回の住宅申し込みは収入基準をオーバーして申し込むところがなかった。今は、年金の収入しかない

ので、生活が苦しい。銀行もお金を貸してくれない。(72歳、一人暮らし、担当：藤原、青木)
・今は生活保護を受けているので、役所の言うとおりにしている。何もすることがないので、運動のためと思って近所を歩くようにしているが、帰る時には足が疲れる。去年から足が痛くなった。今回は藤原さん(週末ボランティア、91歳のメンバー)に会えてうれしかった。藤原さんが活躍しているのを見て元気になりました。自分ももっとしっかりせなあかんと感じさせられました。(85歳、一人暮らし、担当：藤原、青木)

・平成2年、脳梗塞のため、足が不自由になる。車椅子の生活。障害1級。担当者のコメント：家がとてもきれいで、趣味を感じさせる家。とにかくとても素敵なおじさん。声が元気ではりがある。ビーズで絵を作っていた。(57歳、一人暮らし、担当：加藤、合田、仁井田)

・元の土地への住宅再建はいろんな関係であきらめ、市営住宅に申し込むことに決めた。生活は年金でどうにかしている。夫婦とも趣味を持っていて、ご主人は将棋が得意でふれあいセンターで、いろいろ楽しんでいる。奥さんは三味線などで活躍している。また、自治会の役員をするようになって人間関係もうまく言っており、むしろ、今後、住宅が変わって新しい生活が始まる方が不安。(64歳、2人暮らし、担当：西畑、加藤、佐沢)

・早く当たりたいです。一人ですし・・・。急に病気になっても困るし。灘まで1時間かかるんで・・・。肝臓が悪く、胃潰瘍。ストレスのせいらしい。みんな当たって、空き家になっている。いるのは9件中2件のみ。9月中旬から10月まで入院していた。誰にも相談できない。こんな知らないところでは・・・。親類も近所にいないし、不安に涙している。知り合いの多いところへ帰りたい。前の方にはよくしてもらっていたが、その人も9月に引越してしまった。月12から13万の年金で暮らしているが、病院通いなどで出費がかさみ、ぎりぎりです。こんな状態自分だけではないし、頑張らないと思う。皆さんがこんな風に運動してくれたら少し変わるかもしれませんね。役所の人とは直に話ししたがまったくだめだった。表札は名字のみ。一人暮らしってわかったら何されるかわからんから。(70代、一人暮らし、担当：亀井、長船、矢萩)

・20年来の原因不明の鼻から出血する病気と糖尿病で通院しているが、良くならない。特に夜中の出血が止まらない状態が最近は多くあり、10月には6回も病院に駆け込んだ。最近、医師に「鼻血ぐらいで病院に来るな、よその病院へ行け」と厳しく言われたのが悔しかった。今は違う病院に通っている。眠れない状況が続ぎ、まいっている。体が悪く働いていないので、生活保護を受けている。神戸には親類もなく一人だけの生活に不安を感じている。(57歳、一人暮らし、担当：西畑、長船)

・主人は大丈夫だったが、私は柱が倒れてきて5時間埋まっていた。入院を6ヶ月した。歩くことはできるが、まだフラフラする。(？歳、2人暮らし、担当：白岩、井手上、武内)

11月15日

・かつて住んでいた長田区の家が全壊。借入金がある(質屋みたいなところ)。年3%の金利。借入金600万円。うち200万円は返済の見込みがあったが、残り400万円は見通しがつかない。「利子だけでも払ってほしい。」と言われたが、返答できずにいる。市営住宅に申し込んだが交通費のかからないところに当たればと・・・。(40代、2人暮らし、担当：赤西、仁井田、西川)

・体調あまりすぐれず。買物はヘルパーさんに頼んでいる。時々、ご近所のお世話をして下さい

る方に用事を頼むことがある。耳が遠い。(83歳、一人暮らし、担当：赤西、仁井田、西川)

- ・ 入り口の階段、2段を3段にしてほしい。」と何度もいろんな人に頼んだが、実行してもらえなかった。最近ようやく願いが叶い、3段になった。ご近所の方がいろいろ動いてくれて助かっている。他の高齢者にはもしもの時を考え「気分が悪くなったら、鍵をかけずにドアを開け時よ」と声をかけている。裏で孤独死した方は77歳。80歳を越えても元気な者もいるのに・・・
- ・ 孤独死に若いも年取ってるも関係ない。(82歳、一人暮らし、担当：赤西、仁井田、西川)
- ・ 板宿に土地はあるが、家を建てる大きな借金になるので断念した。商売(八百屋に野菜を卸す仕事)も妻がもうしたくないと言うので辞めた。驚くのはどこで聞いてくるのか大阪や西宮の不動産屋から土地を売ってほしいとこの仮設に電話がかかってくる。土地は息子に譲る。災害被災者支援法もなかなか実現されないけど「まだ完全にあきらめてないで」仮設内には生活保護の人がたくさんいる。たいへんなことだろうと思う。(70歳、2人暮らし、担当：瀬戸、谷川、小田)
- ・ ベトナムの方でご両親は居られなかった。彼は日本語は大丈夫とのこと。ご両親は読んだりすることがちょっと難しいそうです。中3なので高校受験の予定。数学と英語が苦手だそうです。(15歳、3人暮らし、担当：瀬戸、谷川、小田)
- ・ 41歳の時に主人と死別してから30数年、スナックをして3人の男の子を育てた。震災前、長男が亡くなった時はすごいショックだった。踊りの師匠をしていて踊りが生き甲斐だが、母親の看病をしている時に膝を痛めてしまい、正座ができなくなった(もう踊りは教えられない)。次男は家族4人で住んでいるが家には行かない。週に一度外で会う(お嫁さんに気兼ねしているようだ)。収入は年金2万円と生活保護を受けている。公営住宅はようやく当たった。(78歳、一人暮らし、担当：瀬戸、谷川、小田)
- ・ 周囲の人達の動きがよく分からない。大部分が引越されたみたいで静かになってしまった。毎年、春になると花を植えたりしていたが、今年は何か落ち着かなくてそんな気持ちにはなれなかった。住宅さえ決まれば・・・。今、週2回パートに行っている。本当は65歳までというところを70歳までということで働かせてもらっている。仮設に住んでいるというパートを断られると言うことが多いらしく、友人は働けなかった。「住所不定」の扱いになってしまうらしい。これから寒くなると、ここでの生活はこたえる。ここはほとんどボランティアも来ず、忘れられている感じがしていた。こうやって皆さんが廻ってきて下さるのがうれしい。(65～70歳、一人暮らし、担当：藤原、青木、木原)
- ・ 震災後2、3ヶ月はボランティアに世話になり、ありがたかったが、今はボランティアや他人に世話をかけないようにしている。西区民センターに大正琴や民謡、詩吟の稽古に行っている。仮設にじっとしていたら気が狂ってしまう。元民生委員「足さえ悪くなかったらボランティアで走りまわっとるわ。神戸空港なんか作っても白浜のようにすぐ閉鎖になるわ。それよりケミカルシューズのための貸しビルを建てたらええのに。」足悪いけど口は達者。市営住宅が当たらるので神戸市役所まで文句を言いに行った。(73歳、一人暮らし、担当：亀井、林、矢萩)
- ・ 来年3月に長田区の民間住宅に移転の予定。友人紹介で。家賃6万円。猫を飼っているので市住の申し込みは難しい。「仮設の生活には慣れたが、小さな話しがうわさ話で大きくなり、うっかり冗談も言われへん。」去年2回ほど、仮設内で突然倒れた。原因不明。「やはり震災の影響かなあ。それまでこんなことなかったから。」甲状腺機能障害で三ヶ月に一回通院中。家の前をダンプカーが通ると「ドカンドカン」とものすごい音がする。道路に窪みでもあるのでは。

市の人にもその音を聞いてもらいたい。(63歳、2人暮らし、担当：亀井、林、矢萩)

・耳が遠い。3年前に心臓の手術をした。そのせいで左手が少し麻痺しておかしい。それから毎日通院している。灘の家は売ったので公営住宅がどうしても当たらない場合はマンションを買うことを考え、折り込みチラシをまめにチェックしている。息子たちと同居するつもりはないが近くに住みたいのでそういうところへ応募した。(73歳、一人暮らし、担当：小野、小林)
心筋梗塞で病院に通っているので病気のことが気がかりです。(自筆)

・近所に遊び友達が少ないので子どもが肥満になっている。西区は物価が高く、新鮮な野菜がない。(40歳、3人暮らし、担当：佐藤、喜多山、合田)

・震災の時、6時間埋まっていた。灘区の被災した場所に戻りたいがずっと当たらない。(63歳、一人暮らし、担当：浦口、永安、清重)

・犬のドンと2人暮らし。公営を申し込んだが、ペットOKではない。地震の時、ドンは枕元にいたのですぐに抱き抱えて助けた。でもしばらくノイローゼ状態になっていた。今でも少しの物音でドンは恐がる。(？歳、一人暮らし、担当：藤原、青木、木原)

・地震で主人を亡くした。平成2年から自立神経失調症にかかり、現在は五十肩にかかって夜よく眠れない。去年は編み物を教えていたが、今年はそれをやる元気もない。あまり外に出る気にもなれない。近所の親しい人も10月から入院してしまいさみしい。今は子どもが学校から帰ってくるのが楽しみ。(？歳、3人暮らし、担当：藤原、青木、木原)

・食事が喉を通らないので点滴をずーっと打っている。3日前頃から散歩をするようにしている。(60歳、一人暮らし、担当：合田、喜多山、佐藤)

・先週まで入院していた。膝に水がたまって痛くて仕方がない。痛み止めが効かない。仮設に来てから酒の量が増えた。体調はあまりり良くない。3ヶ月おきぐらいに飲みたくなる。仮設に来た当時は三宮まで働きに行っていたが辞めた。仮設に来てからは良いことがない。話し相手がないのでさみしい。(67歳、一人暮らし、担当：浦口、永安、清重)

・平成2年6月から車椅子で生活している。右半身不随。左手はリハビリで不自由なく使えるようになった。通院も車椅子でしている。駅まで45分、介護なしでいく。電車も駅員の助けなしに乗れる。雨の日がたいへんで車椅子に乗るまでに3つに分かれたかっぱを順番に装着していく。(57歳、一人暮らし、担当：矢萩、小林)

11月22日

(記録作成せず)

11月29日

(記録作成せず)

12月3日

[再訪問]

・81歳で一人暮らし。耳が遠い。お体は大丈夫でした。息子さんが時々様子を見に来てくれるとのこと。近所(6軒続き)は、誰もいない。淋しいところです。(81歳女性、一人暮らし、担当：川端、堀内、吉田、前回訪問時の支援シートより)

12月6日

・足は痛いし、頭はボケてるし何もいいことない。主人は特別養護老人ホームに行っている。1週間老人ホームに行ったら、仮設で1週間過ごすという生活の繰り返し。だが帰った来ている時は、子どもが世話してくれるので助かる。(79歳、一人暮らし、担当：西畑(律)、坂戸、青木)

・肺が悪く、入退院を繰り返している。そのため現在、人工呼吸器を使用している。ヘルパーさん・訪問看護婦さんのお世話になっている。(担当者のコメント：ケアライン119は設置されていた。テレビは良く見られるとのこと(特に料理番組)。戦中や阪神大水害のことなど話して下さった。冗談が好きでお話し好きな方でした。)(66歳、一人暮らし、担当：盛本、阿部、藤本)

・被災後学校に3週間、息子のところに1ヶ月、他転々としながら4月にようやく入居。引越し続きで落ち着かなかった。以前に兵庫区で眼の手術をしたので、今もそこまで通院している。戻りたいけど「当たらない」。あきらめ、西神・名谷を申し込んだ。今度は当たるやろう・・・。でもずっと待ってなあかんのやろなあ。仮設に入居の時と同じことをやっている。あてにならんとって、自力再建できればいいが無理。また市営住宅に引越す費用の目処さえない。外れても当たっても不安だ。ただ待っているだけ。この棟の辻は、人通りが少ないし、子どもがいない。「何も声せえへん」。淋しくなる。次々と出ていって、最後に一人で取り残されるとしたら・・・それが怖い。今日はボランティアがたくさん来て、活気があってうれしい。人が通るだけで元気になる。(77歳、2人暮らし、担当：長船、加藤(純))

・第一希望のシルバー住宅は人気なので、役所の人にも「絶対に当たらへん」と言われた。一人暮らしが嫌で、被災前から老人ホームに入居を希望していたのだが、「まだ早い。もっとたいへんな人もいる」と断られ続けた。大阪に娘がおり、往復6時間かけてきてくれる。たいへんなので、なるべく呼ばないようにと思っている。娘家族と同居したこともあるが、辛抱できず3年間で止めた。心臓が弱く、人混みに入るとクラクラする。身体全体がしびれる。原因不明。(担当者のコメント：元気な口調でお話しされるが、内容はマイナスのものが多い。(私が生きとつても・・・、最後までここに残されたらどうしよう・・・など。))(78歳女性、一人暮らし、担当：赤西、亀井)

・足が悪く、正座もできないほどである。心臓も悪い。とにかくベッドがほしいとのことです。(76歳、2人暮らし、担当：赤西、亀井)

・予告チラシが入ってたり、入ってなかったりしていたが、どういうことだ！。おたくらどんな目的で訪問しているのかわからん。信用なくすようなことはするなと怒っていた。(若菜(現場担当)のコメント：ここの仮設は戸数が多いので、2週に分けて訪問することになり、今回は第1週目だったので来週訪問のところにはチラシが入っておらず、このようなおしかりになったのだと思う。現在訪問者数も毎週20~30名なので100~140軒(空き室・留守も含め)しか訪問できません。みんな来て！)(50代、2人暮らし、赤西、亀井)

・「死にかけたもんは何を聞く」。妻は寝たきり。ホームヘルパー頼まなあかん。風呂にもよう入れん。医者には月1回診てもらいたい。医者に行くにも誰もみてくれん。往診できる医者はいないのか？。たいがいの家事はわしができるが・・・。しかし家を空けられない。世話をしてくれる人がいないから・・・。わしがへたったら困るんやけど・・・。あかんかったら2人連れ添って死んだらええんや。あきらめとるけど・・・。わしが元気なうちはみたらんと・・・

・。(79歳、2人暮らし、担当：長船、加藤（純）)

・市に聞いても仮設の期限が分からない。98年3月以降の更新はどうなるのか？。仮設にいるものの心配は、いつまで居れるのかだ。居れるなら希望の場所をずーっと通すが……。もし、ここを撤去するなら……。その件に関しての見通しの連絡もない。市の税金は何に使っているのか疑問？。被災者は助けてもらうのはいいが、自分が主体なのだから頼り切ってしまうのは良くないと思う。また、成果の分かるような記録や発表があればいいと思う。一かみひこうき・市長への手紙—こういうのが少なすぎた。ボランティアがここまで発達するのはうれしい。(69歳、2人暮らし、担当：加藤（純）、長船)

・傾いた家に半年近く居た。社会福祉の仕事（作業所）をしている。以前は自宅を開放して仕事をしていた。神戸空港なんて、今さら国内線専用で何を飛ばすんやろう。こんなんでも苦しみられては、たまらない。国会で公的支援って言っても、次からだとか、今回はだめだとか何かわけわからん。小田実は頑張ってるけど……。ニーズを誰かが掘り起こして届けんといかんのはわかってるんやけど……。(43歳、一人暮らし、担当：長船、加藤（純）)

・主人は慢性腎炎。私は慢性肝炎で毎日動脈に注射を打ちに行く。病院（内科）は、近所ではそこしかないの70人くらいいつも来ていて、朝から行っても昼までかかってしまう。今ここは一人暮らしの方が多い。男性の一人暮らしも多くてたいへん。買物をしてきてあげたり、煮物を届けてあげたりしている。助け合いやからね。うちは夫婦なのでまだまし。買物は、以前は毎週移動市場（車）のようなものが来てくれて便利だったのが、人が減ったせいか来なくなった。お年寄りも苦労している。また、仮設の裏は土手なので、日当りは抜群に良い。そのかわり朝はガラスに薄氷が張って、そこにカーテンが張り付いてバリバリになり、ガラス戸も開けられない。(69歳、2人暮らし、担当：藤原、小田)

・お母さんは、去年老人ホームに入居した。自分は心臓病で自宅療養中（不整脈）。体がしんどい。失業中で保険はなく、病院に行けない。今は新聞配達をしている。月2万5千円程度の収入で生活している。神戸大に3~4年前に入院して全快したが、その後再び発病して現在に至る。区役所や民生委員に相談したが、仕事を変わって収入を上げるように言われ、生活保護願いを受け付けてくれない。恒久住宅に入居すべく申し込んでいるが、家賃を含めて生活設計が立てられない。(37歳男性、一人暮らし、担当：西畑（稔）、合田、井手上)

・体も特に悪いわけではなく、自転車175号線沿線まで遠出をしたり、近くの山で木や竹を拾ってきて細工を施し花壇を作ったり、置物を作り、家の中や路地にいろいろ並べていました。手作りのビニールハウスの中では苺や白菜、ハーブなどを栽培し、葱や大根をプランターで育てています。毎日毎日することがたくさんあって、一人暮らしをとて楽しんでおられるようでした。「こういう年の取り方をしたいなあ」という感じです。ただ公営住宅は、いずれにしても団地住まい。この方のような趣味ができなくなるんじゃないかということが気になります。(83歳男性、一人暮らし、担当：立花、岡本、寺野)

・今は弟と2人暮らし。母は過呼吸（息を吸いすぎて苦しくなる病気）のため、祖母のいる仮設に住んでいる。原因はわからないが、ここ1~2年特にひどくなった。今年から△△工業団地内で働き始めたが、仕事場の空気が汚いので、マスクをして作業をしているが、それでも鉄粉がすごく、アトピーがひどくなってきた。そのため、今週は1週間仕事を休んでしまった。会社の人から、仕事を休んだことについてきつく言われた。来週からは頑張るって、仕事に出ようと思う。(担当者のコメント：表情を見るとかなりストレスがたまっているように見受けら

れた。会社では上司・先輩ばかりで自分の気持ちを発散させる場所がないように思えた。さらに訪問が必要だと思う。)(19歳、2人暮らし、担当：西畑(律)、青木)

・5年前に胃ガンで手術。それ以来疲れやすく、体力が落ちている。今、腎臓が悪いと医者から言われ、12月9日に検査。腰痛があるが、そのせいと医者から言われている。昔は建築・倉庫関係の仕事をしていたので体力には自信があったが、今は自分の体に自信がなくなっている。でも体の調子が悪くてもしんとする。病人と見られるのは嫌だから。ここは風がきつい。台風の際は床下に水が入り、畳が持ち上がるくらい。大雨の際は、床下に水が流れる音がする(寝ている時)(68歳女性、一人暮らし、担当：矢萩、木原)

・生活が苦しい(年金暮らし)。自分の生活費だけでなく、妻が子どもの家にいるので妻の食費も支払いっている。子どもに負担をかけられない。60歳以上で就職先はないか？(運転免許は持っている)。嘱託で3~4年勤めたが会社の都合で解雇(年を取っていくと初任給まで下がる。)(70代男性、一人暮らし、担当：西川、浦口)

・震災の時、右腕の上に洋服ダンス、左腕はミシンと和ダンスに挟まったのを、無理矢理肉をひきちぎって這い出てきたので、その時の傷や打撲傷が今、後遺症となって痛い。前住んでいた土地は等価交換でビルになる。来年8月には完成する予定なので帰れる。等価交換では5年間は売却できないし、路線価は下がり、結局は何千万円の損になった。震災後、ネフローゼにかかって、日赤病院に半年入院。その看病疲れから妻が倒れ、大腸のほとんども取る手術をした。現在は通院が便利な子どものところにいる。そのため、一人暮らしで買物や食事がたいへん。また、この10月白内障の手術を左右共にした。右の視力は1.5に回復したが、左はまだ悪いままで作った眼鏡もうまく合わず、ずっと頭痛がしている。(担当者のコメント：新聞を読むのも、字を書くのもつらいとのこと。それにも関わらず、この支援シートに一生懸命書いて、訪問を待って下さっていた。)(83歳男性、一人暮らし、担当：藤原、小田)

・震災時の怪我の後遺症が、今出てきているとのこと。住宅は申し込んでいるが、もし当たっても引越す費用もない状況なので、生活補償を強く求めている。勝ち取ってほしいと言われた。また、震災当時を思い出して、家は全焼だったため、すべてを失い、自衛隊からもらった毛布1枚で、2人で寒さをしのいだのは忘れられないと涙を流されていた。(62歳、担当：西畑(稔)、合田、井手上)

12月13日

・前の家は、区画整理の対象となったので、神戸市に売った。戻りたかったが……。両隣が数室ずつ空きなので淋しい。お正月ですか？。一人でのんびりと過ごします。(81歳女性、一人暮らし、担当：長船、瀬戸、中西)

・肝臓が悪いので、毎日注射を打ってもらっている。食事療法も行っているが、これがなかなかたいへんです。また買物に行くと疲れるので、帰った後は一度横にならないと動けない。だがベルボックスをつけているので、精神的には落ち着く。それに近所同士仲がいいから話しができて、気が晴れます。(73歳女性、一人暮らし、担当：猪上、砂田、青木)

・青函連絡船(旧国鉄)に乗っていたが、連絡船廃止計画により職を失った(現在は青函トンネルに代わっている)。船舶関係の仕事ならできると神戸にやってきたが、それ以来30数年間在神。今でも以前の仕事関係から「ぼちぼち出て来いや」と声をかけられるが、“ぼちぼちあわてず”の生活保護を受けている。食べることに困らず、3日に1升酒を飲んでも十分間に合

っている。仮設には健康・経済状態も悪い高齢者も多く（全体の3分の1くらいちゃうか？）、今まで孤独死が全体で150人以上出ている。これは仮設住宅にいるからだ。近所同士ふれあうようにと、ふれあいセンターを作っているが、こんな年寄りの集まる場所にするよりも、子どもの遊べる場所にしろ。ボランティアは助かる。まだ足りないと思う。お金にはならないけどやる。そういう状態を作らないかん。仮設にもいろんな人が来る。政治団体・宗教団体・セールス。（担当者のコメント：週ボラ（お話し相手）のことを話すと「それだけじゃ、何もならへん」と言われもしたが、喜んで話して下さった。）（65歳男性、一人暮らし、担当：白岩、亀井）

・シルバー住宅に当選し、来年初めには移転の予定。今は薬局店で月に15日ほど（日給4、500円）アルバイトしている。妻は淡路で住み込みで働いている。仮設に帰ってこれるのは、月に2〜3日。2人合わせての年金は2ヶ月で17万円です。今は妻が助けてくれているからいいものの、これからどうなるのか……。公営住宅も震災減免のある5年間はいいが、それ以降は毎月45、000円の家賃を払わねばならない。今でも光熱費だけで15、000円かかるのに。「妻が働けなくなったら餓死せなあかん」。仮設一部屋に200万円かかっていると聞く。それと合わせ市や国からの種々の援助の総額を思うと、被災者に500万円くらい出して、後はどこに住もうと勝手にさせてくれれば良かった。（70代、2人暮らし、担当：白岩、亀井）

・ここに住んで2年と9ヶ月になります。母は震災のショックで当初話しもできなかった。しかし、仮設の人達は親切で、生活環境もいいです。足は弱ってきたけれど、心臓以外の内臓は比較的丈夫で、散歩もしています。（担当者のコメント：ご近所の80歳代の方たちには励みになっているようです。）（93歳、2人暮らし、担当：藤原、小林（好）、井手上）

・仮設に住んでからいろんなことがあり、体調が悪くなった。自分が知らないうちに自治会の役員になっており、また人間関係が難しく困っている。早く公営住宅に移りたい。神戸にいる人から「いつまで仮設におるん。そんなん居心地ええの」と言われた。仮設は3〜4日生活してみないとわからない。（60代、2人暮らし、担当：小野、矢萩）

・リストラのため、失業した。就職活動しているが、46歳ではなかなか見つからない。困っている。政治家や役所はまったくあてにならない！。以前は事務職だったので、つぶしがきかない。手に職をと思う。とにかく仮設にただで、就職に不利だし、通勤にも不便。早く家が決まってほしい。アルバイトを時々しており、食事も自分で作るの、今は何とかやっけてる。でもこの付近は住宅ばかりで、うどん屋みたいところがまったくなく、病気になった時不便。（46歳男性、一人暮らし、担当：永安、盛本）

・主人は湊川まで人工透析を受けに行っている。障害者1級で左足は10年前から不自由。私は肋骨を折ってから右半身の手足がしびれるようになりここへ来てから、高血圧で救急車を2回呼んだ。ヘルパーは週1回来てくれるが、おかずを買ってきてくれるだけである。今、悩みがある。近所からボランティアで来ている人（60代の方）が、私たちの代わりに申し込んでくれると言って、住宅応募（第4次）の書類を持っていったが、どこを申し込んだのか、実際に申し込んだのかも分からない。親切にしてくれるので、聞きにくい。（74歳、2人暮らし、担当：小野、矢萩）

・血圧が上がったり、下がったり……。悩み事がいっぱいやから。隣に気を遣う。怒鳴り声が聞こえるたびに心臓が縮み上がる。隣は靴磨きの仕事をしてるみたいやけど、部屋を閉めきってシンナーを使うので、いつ焼け出されるかと怖くてしょうがない。何度か隣は倒れて、救

急車が来たことがある。仮設を変えてもらいたかったが、また同じような人はいるだろうと思い止めた。早く住宅が当たるのを待つしかない。(70代女性、一人暮らし、担当：猪上、砂田、青木)

・俺のどこ、ボランティアいらんわ。(隣の方とお話ししていると・・・)何がボランティアや、お前等に何が分かるんや。このダボがあ！。仮設の人間からかいに来て、何が楽しいんや！？。こんなとこ夏は暑いし、冬は寒い・・・。何がボランティアや、話し聞いて何のメリットがあるんや、ダボがあ！。仮設のことは、体験したもんにはかわからんのや！。(20代、？人暮らし、担当：猪上、砂田、青木)

・今、一人暮らしで精神科の治療を受けている。最近はず調がいいらしい。日によって波があるが今日はましだと言う。人間嫌いの病に陥り、電話もつげず、新聞も取らず、布団は敷きっぱなしで部屋の窓は段ボールでふたをしているという異様な光景だ。立派な体格をしているが、精神的にまいっている様子。人嫌いではあるが、ボランティアならば話しができると言う。避難所では、学校の先生とPTAが主に避難所の対応をしていた。しかし学校再開により、4月1日から避難者を引き受けるよう要請を受けた。避難所を8月に閉じるまで、すべて一人きりで切り盛りしなければならず、毎日2時間ほどしか寝れなかった。そのため、過労(精神的・肉体的)で2度倒れたとのこと。その間目のあたりにしたのは、人間の一番醜く、嫌らしい側面の数々であり、それが原因で人間嫌いになったということである(自分のことばかり考えて、他人のことを顧みない、まったく身勝手な人の多いことに耐えられなかったのだろうか?)。避難所解消後、すぐに就職も決まり、ビルの管理会社に勤めた。しかしテナントとビルのオーナーの板挟みになるような心労があつて、10ヶ月後に仮設で倒れ、5日後に発見された。その間動けなかったと言う。その会社も退職し、現在無職。通院中。酒に逃げることもできなかった(飲めないから)。避難所で一番大事にしてきたことは、みんなの命(200人)だった。初めは名簿作りから、年齢・家族構成・持病なども記入して、個々にあった気配りをした。特に60歳の寝たきりのおばあさんには、一番気を遣い、緊張の連続であった。おばあさんが老人ホームへ入居する手続きはできたが、「死に水を取ってやりたい」という娘さんは、一緒にホームに住むことは許可されなかった。そのような状況の避難所で、一人の死者も出さなかったことを”良かった”と、最近振り返ることができるようになった。また、いろんなことがあったその思いをやっと話せるようになったと言う。以前は思い出すのも嫌だったと・・・。行政は、避難所の自治会長を務めた人達の体験談(避難所のハード面・ソフト面)を聞き取り、今後日本のどこかで起きる災害に備えるべきであると強調されていた。また早くしないと風化して忘れてしまうとも。たとえば1. 学校のプレーカーは避難所として使うように考えられていない。すぐに切れてしまうので大きな容量にする必要がある。2. 病人の把握とそのケアを行政が看る体制を作る。3. 広報などの情報は日本人向けに作られているため、外国人にはまったく読めず、仮設申し込みもできない。また日本語も話せないで、公園に集まりグループを作っていた。彼自身被災者だが(95年1月に入ってすぐ岡山から神戸に来て生活を始めたため)、転入手続きをしておらず、義援金をもらえなかった。今度、役所に市議員と一緒にってもらい手続きを試みるとのこと。同じような人がたくさんいるのではないかと他人の心配をされていた。週ボラの活動の中に相談事何でもやると書いてあるが、本当にできるのか?と問われた。我々にはちょっと厳しい質問だった。何もできないのなら、安否確認だけすればいい。ボランティアは「命を守る」ことがスタートだとも言われていた。最後に「いいものを着たり、

おいしいものを食べたりするよりも、いい人に会わんといけん」と……。また「このような話しをすることが精神病の薬になるかもしれん」と言われた。4次募集の当否が決まった後にもう一度来てほしい。そして今までボランティアで部屋に上がってきてくれる人はいなかった。本当に心配やったら無理してでも上がってやった方がいいと言われていた。(55歳男性、一人暮らし、担当：長船、中西、瀬戸)

・以前は昼も夜も酒を飲んでしたが、今は夜に1~2合飲むぐらいだ(よく寝れるから)。日中はほとんど図書館で本を読んで過ごしている。血圧が少し高めだが、お酒の量に比例しているので、そこは自分でコントロールしている。(72歳男性、一人暮らし、担当：藤原、井手上、小林(好))

・95年8月に目が悪くなり入院。医者から「後2、3日遅れてたら失明していた」と言われた。今の視力は0.01。知らない道は歩けず、階段が怖い。目が見えないのは一番辛い。ここに来てから、目・耳・内臓などが一度に悪くなった。狭心症にもなった。また両耳とも悪いので、電話に出るのが嫌だ。50過ぎて一つ悪くなるとみんな悪くなる。病気にはなりとうない。公営住宅は娘の近くに住みたい。(56歳女性、一人暮らし、担当：小野、矢萩)

・2人は昨年5月入籍した。私は食物(大豆)アレルギーの喘息とアトピー。また7年前に腸閉塞で手術をしたが、後遺症で脱腸のような状態になり、働けないのが辛い。公営住宅に移ったら仕事をしたいと思っているが……。夫は喘息(ダニ・ホコリ・重油の煙などが原因)。仕事(船舶の作業員)を辞めないと治らないと言われていたが、経済的に無理だ。夫は正社員ではないので、仕事が常時あるわけではない。仕事が入っても朝早くていけない時もある(遠すぎる)。(66歳、2人暮らし、担当：小野、矢萩)

・妻は心筋梗塞で1ヶ月前から入院している。私は体が丈夫なので家事一切をしているが、今のところ大丈夫だ。食事は米を炊くが、おかず類は裏に住んでいる方が持ってきてくれる。また西体育館のデイホームに週3回ぐらい行っている。そこでは食事会があり、歌や踊りを楽しんでいる。自宅は再建して長男が住んでいる。行く行くは戻るつもりだが、妻が入院中なので……。(71歳、3人暮らし、担当：小野、矢萩)

・住宅の前や側面に鉢植えをたくさん置いている。バス通りに面しているので、人の目を和ませられればいいと思って。しかしこのあたりの人は規則を守らない人が多い。散歩させても犬の糞の始末はちゃんとしないし、そういうことをするのは仮設住民だと言う。今までそんなこと関係なく美化に努めてきたのに、アホらしくなって最近はしなくなった。(63歳、2人暮らし、担当：藤原、井手上、小林(好))

12月20日

・公営住宅に当たり、来年3月引越す予定(長田)。妻は脊髄を悪くして、小脳が萎縮し歩くことが難しい。長田までリハビリかたがた通院している。(66歳\$2人暮らし\$担当:白岩\$北村、青木)

・喉(甲状腺)の手術を受けたので、今は3ヶ月に1回、医大で看てもらっている。低血圧と痰を切る薬を飲んでいる。公営住宅も灘と西神南に申し込んだが外れた。いつになるのか不安。歩くと腰が痛むので、買物は息子の嫁に頼む。(担当者のコメント：子どもさんたちがいるものの、一人暮らしで人恋しそうでした。去っていく私たちをいつまでも見送って下さいました。)(83歳女性、一人暮らし、担当:藤原\$井手上、小田)

・震災前住んでいた市営住宅が再建するので、来年4～5月頃に戻れる。夫は5年前に脳梗塞で倒れて以来、車椅子の生活。介護疲れて腰が痛い。時々ショートステイを利用している。息子がいるが忙しいようで、なかなかこちらに来てくれない。(76歳\$2人暮らし\$担当:合田\$矢萩) 腹膜炎になった。悪いところばかり出てくる(健康面)。住宅も外れた。この間、市職員が再募集の件で来たが、説明を聞いて王塚台(玉津)に申し込もうかと思っている。息子は市営住宅に住んでいる。一時期、一緒に住む話もあったが、折り合いがつかず断念した。(76歳女性、一人暮らし、担当:矢萩、合田)

・足が悪いので、風呂に入れられない(バスタブの縁が高い)。体を拭くだけ。入浴は長田の病院に行った時、銭湯に入る。夫・子ども2人が昭和19年に相次いで亡くなり、兄姉も8人いたが、今残っているのは一番下の妹だけだ。(79歳女性、一人暮らし、担当:矢萩\$合田)

・妹は心臓病で1ヶ月に1回通院している。2人併せて7万円(年金)で生活しているが、妹の治療費が1万円以上かかる。私は足と膝が痛い。当選した住宅は、入居予定が平成11年になる見込み。だが住宅の家賃支払いができるか心配だ。(担当者のコメント:生活保護を受けるよう勧め、被災者連絡会の電話番号を伝えた。)(86歳、2人暮らし、担当:西畑(稔・律)、矢野)

・血圧が高く、目(キハコセイ症)が悪いので趣味もあまりない。割合元気にしているが、年金生活のため、公営住宅入居後の生活に不安を感じる。視覚障害5級の手帳を持っているので、生活保護を受けられるか一度相談したい。誰かと話しをしたかったので来てくれて良かった。(69歳女性、一人暮らし、担当:西畑(稔・律)、矢野)

・姑は身体障害者で記憶もとぎれがち。病院と仮設との区別がつかない時もある(仮設に来てからひどくなった)。大腿骨、その他が骨折していて治らない。主人は梱包の仕事をしているが、今は不景気。でも、働いているので69歳になっても元気である。主人とケンカすることがストレス解消になっている。これが元気の秘訣です(いつも一方的に話してるけど)。(69歳、3人暮らし、担当:立花、小林(好))

・7年前、肺炎からリウマチになって1年ほど入院したが、その後もずっとリウマチに悩まされている。体が動かない時は「死にたい、死にたい」と思ったが、今はとりあえず体が動くのでありがたい。子どももいないし、主人も亡くなって特に親しい親戚もなく、たった一人でこの仮設に来て淋しかったが、ここで友人ができた。同じようにリウマチに悩んでいる人だ。公営住宅は友人と同じところに当たった。うれしい。来年10月には引越しできそうだ。最近ある宗教に入った。頼りにしているわけではないが、身寄りがないので・・・。「友人葬」をしてもらえるらしいので入った。(64歳女性、一人暮らし、担当:藤原、井手上、小田)

・住宅どこも当たらんかった。年取ってるから優先的に当たるやろうと思っと思ったのに・・・。足・腰が痛い。震災の時、尾てい骨にタンスが当たった。薬を飲むと副作用で顔が腫れるから、なるべく飲まんようにしているが、寝ている時腰がうずく。子どもは2歳の時、夫も昭和56年に亡くなった。この仮設に入居した時、運送屋が荷物を運び込むと金を請求し、さっさと帰ってしまったのでとても困った。(担当者のコメント:訪問後、再び前を通りかかると呼び止められた。一人暮らしの寂しさに加え、住宅に当たらなかつたショックの大きさが伺われた。)(82歳女性、一人暮らし、担当:白岩、北村、青木)

・当選したが、99年春入居予定の公営住宅だ。1年待つのも2年待つのも一緒と思い、あえて申し込んだ。住宅に当たっても引越すお金がないので、皆困っているのでは?。公的支援で東京に行ったが、テレビ局も取材に来ない。来ても関西地区以外は放送されていないのでは?(59

歳、2人暮らし、担当：合田、矢萩)

・自宅(土地)は、区画整理にかかっているが、まだ話しはまとまっていない。実は土地を市に売ってもいいと思って相談に行ったところ、住宅の申込書にそのことを書いたら、うまく取りはからってくれるということだったが、結局外れた。もう土地を売る気はなくなった。仮設住宅に文句のある人も多いが、自分はありがたく住まわせてもらっている。(担当者のコメント：ボランティアは不要で、来てもらうこともないと言われていたが、話し好きで延々話されていました。)(76歳男性、一人暮らし、担当：藤原、小田)

・今年のリウマチで春・冬と2回入院したが、またすぐ入院することになっている。そのリウマチのおかげで、バスに乗れない。なぜならバスの乗り口はステップが高くて足が上げられないからだ。それで住宅もバスに乗らずに済むところを応募したが外れた。バスに乗らなくていいところは市内の便利なところなので倍率が高い……。妻は大阪の病院に喘息で入院していたが、今も治っていない。この仮設は隙間風が入るし、寒いのでこんなところにおらしたら死んでしまう。今は子どものところとここを行ったり来たりしている。住宅の目処も立たず、夫婦共に病気がちでたいへんだ。(担当者のコメント：話しをする時、立っているのが辛そうでした。)(64歳、2人暮らし、担当：藤原、小田)

・言いたいことはたくさんあるが、言ってもキリがない。また言葉で言い尽くせない。長い間住んでいて、良くなるか悪くなるかは自分との勝負。明日、何が起こるか分からない。元気だと思っても、おたくらと30キロ歩いて、先にバテるのは自分。だから元氣なわけがない。(67歳、2人暮らし、担当：小林(好)、立花)

・中学の子どもは、元住所の近くの中学校に通っている。学区外なので、通学できる期限が1年間ということだ。お金があつて家を再建できる人はいいが、私たちはいつ建てられるか目処も立たない。通学期限を延長してほしいと教育委員にも相談に行ったがだめだった。杓子定規にとらわれすぎている。(？歳、4人暮らし、担当：小林(好)、立花)

・肝臓・肺が悪いが、今は病院に行っていない。時々体がしんどいことがある。でも何とか自分で国民健康保険料を払えるようになって、療養したい。今は、朝刊の配達で生計を立てている(6万円程度)。生活保護を受けていたが、いろいろあつて止めている。親とは絶縁状態。自分自身のいろんな弱さを反省しなければ……。と思っている。住宅は落選した。50歳以下は今後優先枠がないと言われており、仮設を追い出されても生きていくつもりです。(担当者のコメント：今までの経験を元にした人生観を一生懸命話されていた。)(35歳、一人暮らし、担当：西畑(稔・律)、矢野)

・夫は97年5月9日、糖尿病が悪化して入院した。2ヶ月間はずきつきりで病院との往復だった。だが12月14日、糖尿から肺炎を併発して亡くなってしまった。住宅は当選したが3DKなので、夫が亡くなりどうなるのか？。住宅局に相談してみるつもりだ。(担当者のコメント：「住宅のことは主人が一番気にしていたと思う」と涙ぐんでおられた。)(62歳女性、一人暮らし、担当：合田、矢萩)

・再訪問……。肺が悪く、人工呼吸器を使用。玉津のシルバーハイツに当選したとのこと。わざわざ来てくれて、どうもありがとう。ボランティアがなかなか来ないので、こんなして来てくれるとうれしいと喜んで下さった。(66歳男性、一人暮らし、担当：佐沢、亀井)

・再訪問……。高齢者の一人暮らし。心臓弱く、原因不明で全身がしびれる。申し込んだ住宅は、人気物件ばかりだったので落選。まだ来月も申し込みがあるので、チャンスはある。梅雨

時、部屋に上がって来るムカデのような虫が出てくるまでには、ここを出たい。昨日も役所の人が2人来て、名谷やこっちの方に申し込むように言われた。(78歳女性、一人暮らし、担当：佐沢、亀井)

12月27日

・気管支喘息、腎臓に石がある。また手も悪く1週間に1回は新開地まで通院している。隣接している仮設住宅に、娘が住んでいるので近くに住めるよう考え、今年12月19日にここへ引越してきた。公営住宅は今まで4回申し込んだが当たらなかった。当分はあわてずにここで暮らすことにしている。(72歳女性、一人暮らし、担当：西畑(稔・律))

・近所の飲み友達が木曜から入院している。3日くらい新聞がたまっていたので、ノックしたところ「ウー、ウー」と言うだけで出てこない。警察を呼んで窓を割って入った。救急車で病院に運ばれたが、どこの病院か分からない(朝からお酒を飲んでいたという)。住宅が仮当選したが、家賃が39,900円。これで光熱費などを加えると生活していけるか不安である。(65歳、2人暮らし、担当：亀井)

・自治会の役員をしているが、公営住宅に当選したので5月末には出る予定。ボランティアのアイデンティティをもっと明確に示すべきだ。受ける側は市のサービスの一環と思い、当たり前と思う人が多い。この震災4年目を迎えるに当たって、まだ純粹に頑張っているボランティアがいるという、すごさをアピールしないとせつかくの活動が台無しになる。これから(4年目の)仮設が、最も深刻になるのは目に見えている。ボランティアの力が、本当に……本当に……必要になるんだよ。需要は逆に増えているんだ。ひるまずに頑張って！。(50代、?人暮らし、担当：里村、中山、寺野)

・沖縄から来て50年近くになる。沖縄の踊りが好きで、よく踊る。湊川公園での三味線の演奏の時は、カチャーシーを踊り、みんなから珍しがられた。住宅が当たり、来年2月末頃移転する予定である。役員の引継などで、毎日が忙しい暮れである。(72歳女性、2人暮らし、担当：小波本、青木、米川)

・住宅は落選した。今は新長田で靴を貼る仕事をしている。自分の健康のためと思って働きに出ている。働けるうちは働きたい。私は働きに出ているからいいけど、家にずうっといる人は一つの棟に3~4軒しか住んでいないから寂しいと思う。(69歳、2人暮らし、担当：小波本、青木、米川)

・腰痛、目も悪い(白内障)。血圧(200)も高く、病院に週4回通っている。住宅は落選。先週自治会長が亡くなり、たいへんだった(ガラスを割って部屋の中に入った)。甥御さんが一人おられて(灘区)、何とか葬式も済ませた。その際、週末ボランティアさんにもお手伝いをしてもらい、たいへんお世話になりました。現在76軒であるが、明日総会を開催し、新会長を決めることになっている。(79歳、2人暮らし、担当：小波本、青木、米川)

・1月の第5次(1800戸)、4月の第6次(4000戸)がまだあるという話したが、辺境の住宅ばかりしか残っていないのでは……という不安。今度も地下鉄沿線を応募する。通院は湊川の病院でないと安心できないから。今、仮設内は気まずい雰囲気になっている。今までは外で声が聞こえたら出て行って話しをしたが、今では住宅に当たった人とそうでない人で話が合わず、もう外へ出ようとは思わなくなった。みんながいなくなるのは嫌だけど、一緒にはいたくない。今は仮設の人と自分の悩みが話せなくなった。自分のことをきちっと聞いてくれる人と話しを

したい。住宅に当たらないことだけが悩みではない。それだけで埋めきれない隙間もある。年金は後5年働かないともらえない。でもこの年齢、心臓が弱く、骨粗鬆症・リウマチ・高血圧・腰痛（痛みがひどい）を持った体で、これ以上働くのは不安。今はタダ飯を食べさせてもらって、何も社会に返せていない。（担当者のコメント：現状の自分（生活保護を受けている）に、ひどく罪悪感を持っておられるようなので、来年1月4日の甘酒配りへの参加をお誘いしました）（63歳女性、一人暮らし、担当：里村、中山、寺野）

・前回訪問時よりは、少し元気なお顔でした。しかし回りのほとんどが住宅に当たり、行き先が決まった中で、自分は決まらないという置き去りの寂しさと焦りを強く話された。（73歳女性、一人暮らし、担当：西畑（稔・律））

・仮設の人で、ボランティアと役人を間違える人がいるが、その理由は……ボランティアができる以上のことをしようとするからだ。だからボランティアはできることを頭から言うべきだ（できないことはできないとはっきり言う）。（担当者のコメント：途中参加でしたが、すごく中身のある話を聞かせていただきました。電車の中で「私には何ができるんだろう」と考えていたんですが、来て喜んでもらえることが、すごいことなんだとよく判りました）（55歳男性、一人暮らし、担当：猪上、井上、長船、中西）

・前回訪問時、相談のあった福祉（生活保護）が受けられるかという問題は、被災者連絡会が手続きなどを教えてくれ、また役所にも付き添ってくれて（本人は罹災証明がなかったが、罹災証明を持っているお母さんと、震災時住民票で同居中だったと確認が取れ、発行してもらった）、ようやく1月早々には福祉の審査を受けられるとのこと、心臓は相変わらず一進一退で、年末の新聞配達の仕事も量が増えるとしんどいとのこと。今までボランティアはただ来るだけだと思っていたが、このように親切に相談にのってくれてうれしい。ありがたいと思っている。週末ボランティアに相談してすぐに被災者連絡会がジャガイモとタマネギを持って訪問してくれ、たいへんうれしかったと感謝しておられた。（38歳男性、一人暮らし、担当：西畑（稔・律））

・糖尿病で9月と10月～12月10日までと2回入院した。今は病院で言われた食事療法（1400cal／日）を守り、仮設内を歩いている（運動）。でも退院後も調子は良くない。食事後、背中が痛んだり、腹痛になる。右目は白内障の手術（今年）で視力0.8位に回復したが、左目は失明している。また指がしびれ、右手薬指と左手は、1本ずつ指を伸ばすことができない。カイロプラクティックも1回5000円もかかり、治らないので止めた。字がうまく書けない……。公営住宅に移ってから73,000円程の収入でやっていけるのか、不安だ……。また今はお隣が食事やその他の面倒を見てくれているが、公営で一人で……生活できるのか心配だ。今まで息子の社会保険（扶養家族）に入っていたが、今年いっぱい抹消し、国保にするつもりです（公営住宅の入居手続きが複雑になるから）。息子はよほどのことがない限り電話してこない。40歳で主人と死別し、息子が社会人になってから一人暮らしをしてきて淋しいと思ったことはなかったが、今は淋しい……。昼は隣と話せるが、夜は淋しいやら頼りないやら何とも言えない。自分で乗り切らねばと思うが……。今の自治会は良くやってくれている。初めてクリスマス会をやってくれた。（77歳女性、一人暮らし、担当：井手上、増田、矢萩）